

# ツイトき若



著 郎 太 策 奈 比 朝

長 團 遣 派 逸 獨 年 少 青 本

若きドイッ

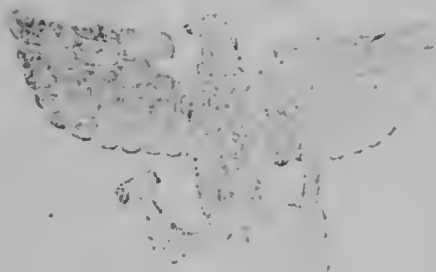


朝比奈策太郎著

羽田書店刊



1921



## 序

日獨青少年交驛の事業は、その事が日獨兩國相互の親善關係を、一層促進せしめることに役立つたといふ點から見ても、また兩國の青少年運動の健全なる發達に寄與する所の多かつた點から考へても、眞に劃期的とも稱すべき一大壯舉であつたと思ふ。従つてこの事業に参加し、しかも乏しきを以て、大日本青少年ドイツ派遣團長の重責を汚した私としては、ドイツに於て見聞したことや、體驗したことを、出来る限り廣く江湖に紹介して、彼の國に對する理解と認識とを、一層深めていただくことは、私の爲すべき當然の責務であり、且主要なる殘務整理の一つであるとも信ずる。

ヒットラー・ユーゲントは眞に世界の驚異であり、新興ドイツ躍進の原動力



である。青少年運動に就ては、極めて光輝ある歴史と、古き傳統とを有する我國にとつても、他山の石、以て磨くべき幾多の長所を持つてゐると思ふ。

東亞新秩序建設の新段階に入つた我國に於ては、今こそ青少年運動の再検討を試み、朝野をあげて、その振興刷新に全力を傾注すべき秋であり、更に青少年をして國家の將來に對し、眞に責任を負荷するに足るの心身を、具有せしめるの方策を樹立して、長期建設の根本策に、手を染むべき機會であらうと思ふ。従つて學ぶべき多くのものをもつ、ヒットラー・ユーゲントに就ては、特に日本の各方面の人士が、格段の注意を拂つて、その研究に力を致されんことを望むや切なるものがある。

かうした理由により、曩に國民新聞の求めに應じて、同紙上に連載した印象記「訪獨の旅を終へて」を基とし、これに修正増補を施したものを第一部とし、「ドイツ青少年運動」を第二部として上梓し、世に問ふことにした。然し

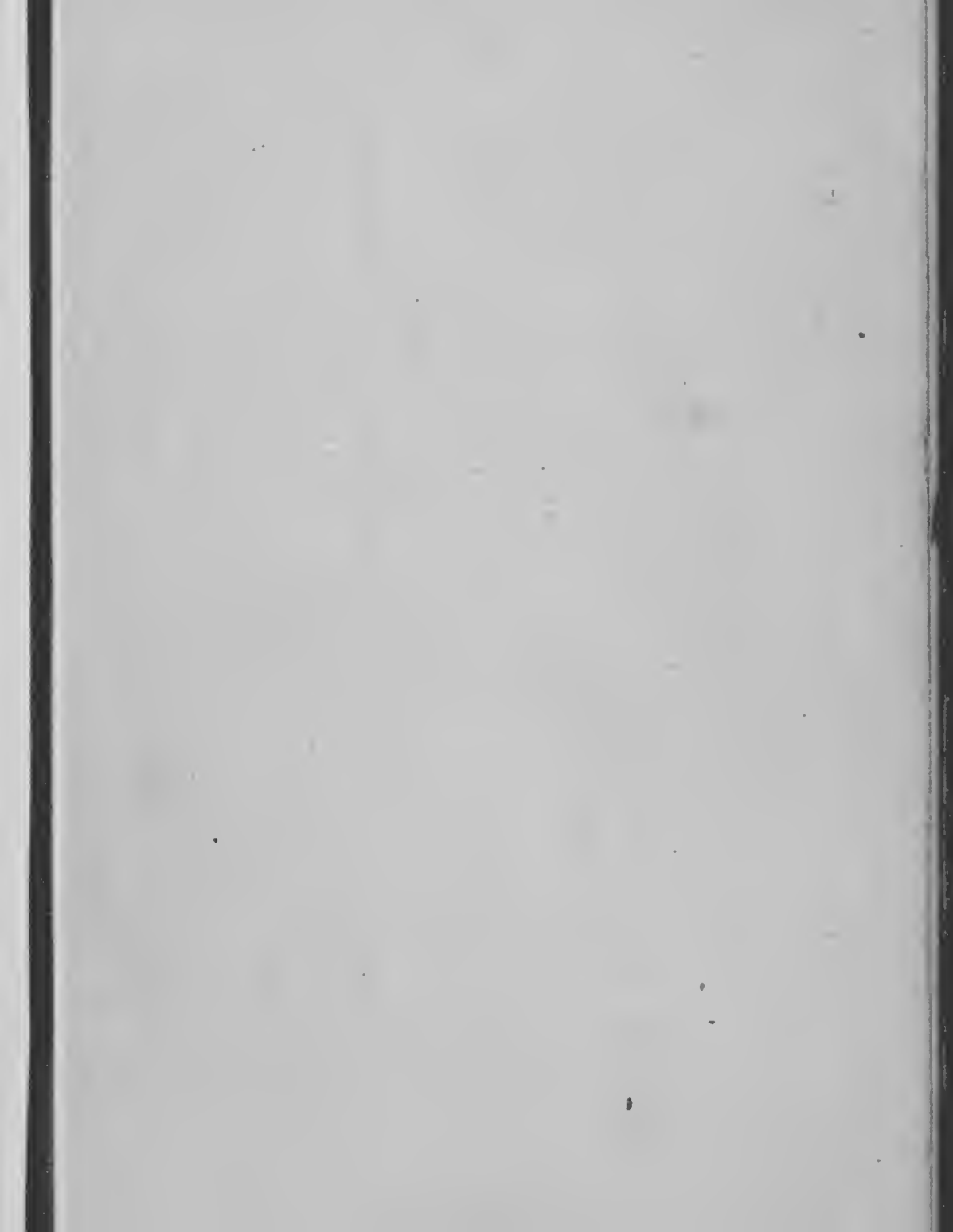
し、「ドイツ青少年運動」を第二部として上梓し、世に問ふことにした。然しながら歸朝以來、公私共に多忙を極め、印象の全部を網羅し得なかつたばかりか、説いて詳かでない點もあり、第一部第二部間に若干事實の重複する所もないではないが、幸ひ讀者諸賢のため何等かの御参考とならば望外の喜びである。

なほ本書の刊行に當つて種々助力を與へられたる渡邊仁一郎君に對しこゝに深甚なる謝意を表するものである。

昭和十四年二月十一日

紀元の佳節に當り

朝比奈策太郎



## 目次

### 序

### 第一部 ドイツの旅

一 若き防共の盟ひ……………三

日獨青少年の交驛(三) 交驛の由來(四) 旅程(四)

二 入獨の歡び……………六

音楽の國(六) 衛生設備(七) お茶の會(八) 打融けて(九)

廣い別荘(三) カーリンハール(二四) 日本趣味(二四) ゲ空相(二五)

火花の論戰(二六) 野牛場(二九) 共產黨の校舎(三〇) 體育の種類(三〇)

オリムピック・スタジアム(三三) 體育指導者養成學校(三五) 青年宿泊

所(三七) 訪日ヒ・ユの出發(三三)

目 次

三 北ドイツ……………三二

レルテニウスさん(三) 自動車道路(三) 青年塾舎(三) 自然美と  
調和(三) 塾舎の目的(三) 古風な機械機(三) 船舶宿泊所(三)  
動物園(三) 新しき土(三) 音楽で指導(三) 歴史教育(三) 海  
洋青少年(三) キールにて(三) 祭の行列(三) 愛國少年の墓(三)  
海岸保養地(三)

四 野 營……………五一

野營に参加(三) 簡易生活(三) 規律(三) 教課(三) 指導精  
神(三) 目上を尊敬(三) 記念のバッヂ(三)

五 東プロシヤの旅……………五八

愛兒を旅に(三) カントの遺跡(三) 英語の押賣(三) 親ごころ  
(三) 敬虔な所長(三) 問題の國境(三) 日本人と英語(三) チ  
ーズの食傷(三) 人馬心を合せ(三) 氷河の跡(三) 印象的な歡迎  
(三) 大戦記念碑(三) 好意の砲火(三) 女子共同宿舍(三) 不  
合理な國境(三) 青年宿泊所(三) 宿泊所の經營(三)

六 無名戰士の墓……………六二

再びベルリンへ(三) 合唱隊(三) 護國の英靈(三)

再びベルリンへ(八三) 合唱隊(八四) 護國の英靈(八五)

七 アルバイツ・デインスト……………八七

嬉々と勞働(八七) 祖國の勞働者(八九) 心得十二ヶ條(八九) 團體訓練  
(九三) 兵隊と同じ背囊(九四)

八 シレジア地方……………九四

體育行政(九六) 世界に支部(九六) スデーテン・ドイツ(九六) ハイル・  
ハイル(九六) チェッコ語は知らん(九六) 黒髪の婦人(一〇〇) 録音放送  
(一〇一)

九 ザクセン地方……………一〇四

女子教育(一〇四) 治に居て亂を(一〇五) 國民政治學校(一〇七)

十 チューリングゲン地方……………一〇九

ワイマール(一〇九) 問題は頭(一一〇) 適確な經營(一一三) 時局と科學(一一四)

西洋落語(一二四) 上層學校(一二五) 同志の意識(一二八)

十一 荒木文相のメッセーシ傳達……………一二九

シーラハ長官(一二九) 武具一揃(一三三) サッポロ・ビール(一三三)

十二 ニュルンベルグ大會……………一三四

目 次

俄か國際都市(二三) 女運轉手(二六) ヒットラー大行進(二六) 大會の  
意義(二九) 若者に期待(二九) 參加の名譽(三三) 立派な態度(二三)  
見事な服裝(二三) きは立つ日本(二三) 天皇陛下(二七)

十三 舊オーストリアの旅…………… 一三

風雲急(二六) 天に代りて(二六) 世界の注視(四二) 心からの歡迎(四三)  
俄か合唱團(二三) 飛行機はいかが(四四) オペラはいかが(四四) 三度  
ベルリンへ(四六)

十四 若さは國の命なり…………… 一四七

若き指導者(二七) ヒ・ユの起原(四八) 祖國愛(二九) ヒットラーの涙  
(二九) 興隆の原動力(五〇)

十五 若きドイツ…………… 一五三

若々しさ(二三) 力強い信念(二三) 家庭の明朗化(二五) 萬人所を得  
(二五) 若さなき國々(二五) 日本の現状(二五)

第二部 ドイツ青少年運動

一 ヒットラー・ユーゲントの組織…………… 一六一

一 ヒットラー・ユーゲントの組織……………一六二

完き組織網(二六二) 地域關係(二六三) 年齡關係(二六三) 指導者(二六三) 命  
を賭して(二六四) 入團一〇〇%(二六六) 見事な統制(二六六)

二 ヒットラー・ユーゲントの教育……………一六八

教育上の役割(二六六) 三目的・三手段(二六九) 水曜のつどひ(二七二) 虎の  
巻(二七二) 土曜の運動(二七三) 平均記録では(二七五)

三 ヒットラー・ユーゲントの體育……………一七六

純粹體育(二七六) とんぼ返り流行(二七八) 國防體育その一(二七八) ゲレン  
ツ・スポーツ(二七八) 國防體育その二(二七九) 十歳から射撃(二八二) 行軍  
で鍛へる(二八二) 土にしたしむ(二八三) 八百萬人を野營に(二八四) 施設の  
完備(二八五)

四 ドイツ國民と音樂……………一八六

眼でか耳でか(二八六) 興國の音樂(二八八) 日本の流行歌は(二八九)

五 ナチス政治的世界觀の教育……………一九二

遊びながら(二九二) 兒童にも徹底(二九三) ハイル・ヒットラー(二九四)

六 異色ある行事と施設……………一九五



アドルフ・ヒットラー・マルシュ(一九五) 大會の盛觀(一九五) 長途を徒歩  
 で(一九七) 頼むは君たち！(一九六) 『我が闘争』を親授(一九九) 東プロシヤ  
 へ(二〇〇) ベルサイユ條約の暴戾(二〇二) 臥薪嘗膽(二〇三) 職業競技大會  
 (二〇四) テスト四項(二〇五) 元首の握手(二〇五) 青少年保護法(二〇六) セ  
 ルフ・サービス(二〇七) 先輩を尊ぶ(二〇九)

七 ヒットラー・ユーゲントと學校教育……………二一〇

學校教育異變(二一〇) 假入學一ヶ年(二一一) 寄宿舎の新機軸(二一二) アド  
 ルフ・ヒットラー・シュールレ(二一三) 教育家の意氣込(二一四)

八 所 感……………二一五

青年の體位を思ふ(二一五) 有難き我が國體(二一六) 東亞新秩序成るの日  
 (二一六)

# 寫眞目次

ケルン驛頭の公式歡迎……………	一	静思のひとつとき……………	二三
ゲ空相の視閲……………	二六	肉彈相搏つ……………	三
オリムピック・スタヂアム……………	二四	樂しき青年宿泊所……………	二八
自動車道路……………	三三	娘さんの機織……………	三三
開拓地のアルバイツ・ディンスト……………	三九	マルネのヒットラー干拓地……………	三九
キャンプで音楽に興ず……………	四一	「英雄祭」の演奏……………	四一
海洋青少年團……………	四四	海洋青少年團のキャンプ生活……………	四四
ハンス・マロンの墓前にて……………	四九	キャンプ・フアイヤー……………	五二
生活體驗……………	五五	ロヂッチンの候鳥研究所……………	六四
問題の國境地帯……………	六五	ニコライケンの歡迎……………	七三
大戦記念碑に花環を捧ぐ……………	七三	女子青年に國まれて……………	七六
獨・波・ダ三國境界標……………	七九	マリエンブルグを出發……………	八〇
遅しい腕……………	八一	ベルリンヒ・ユの野外合唱……………	八三
馬鈴薯の收穫……………	八八	シャベル返還……………	九二
女子ヒットラー・ユーゲント……………	九五	女子指導者養成學校の生徒……………	一〇五

## 寫眞目次

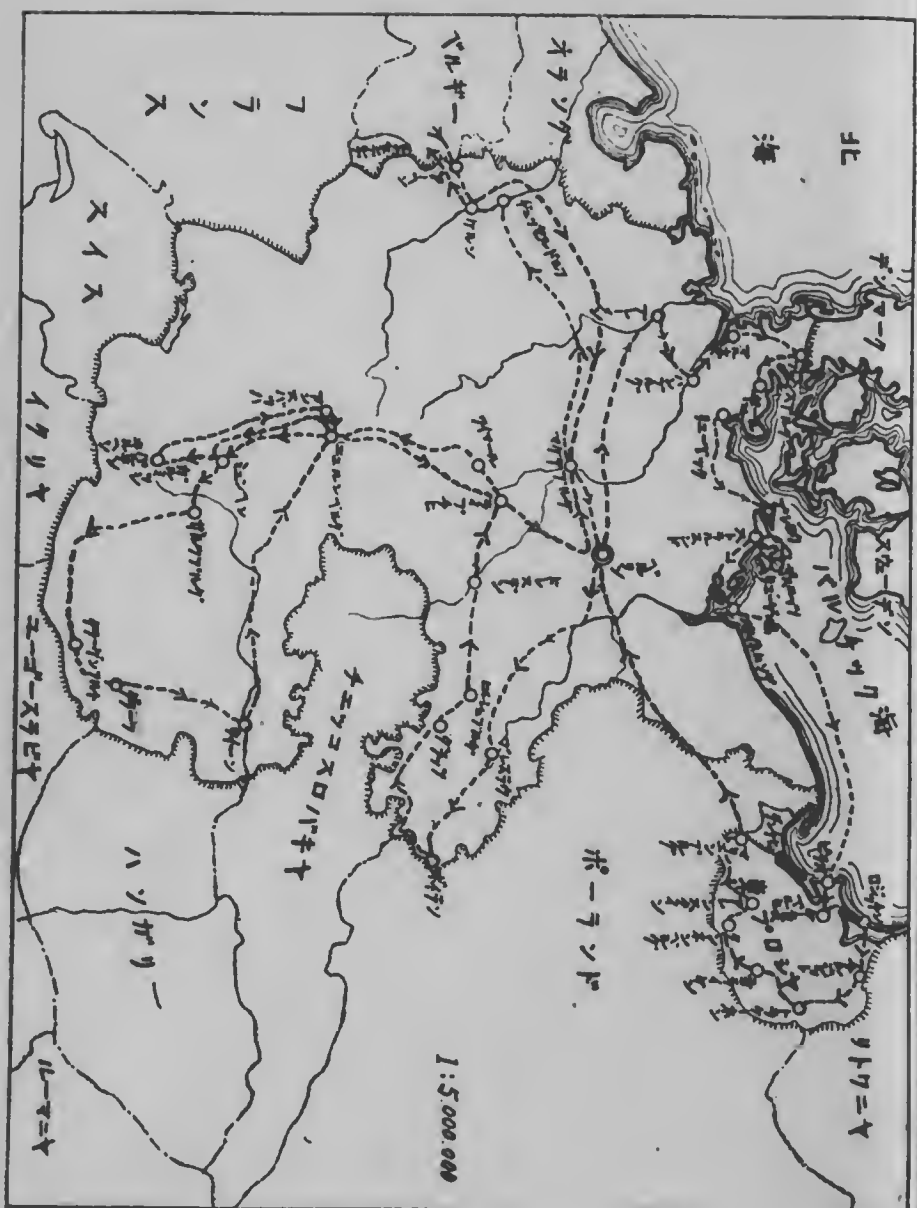
寫眞目次

工場勞働……………	二〇八	森のチューリンゲン風景……………	二二三
アウフバウ・シュール生徒の乗馬……………	二一六	シーラハ長官の歡迎……………	二三〇
ヒ・ユのオートバイ訓練……………	二二五	ニールンベルグ大會の國旗行進……………	二三〇
ヒ總統と著者の感激の握手……………	二三三	シーラハ長官肖像(著者に贈られたもの)……………	二四八
握手の誓……………	二四九	慈父の如く……………	二六三
この光榮この喜悅……………	二五五	若草(宿泊所にて)……………	二六七
國民舞蹈……………	二七三	天空に躍る……………	二七七
僕のグライダー……………	二八〇	足並揃へて……………	二八二
ヒ總統に捧ぐるコーラス……………	二八七	青春の歌……………	二九〇
感激の一時……………	二九三	國旗颯爽……………	二九六
興奮の坩堝……………	二九九	日課にいそしむ……………	三〇八

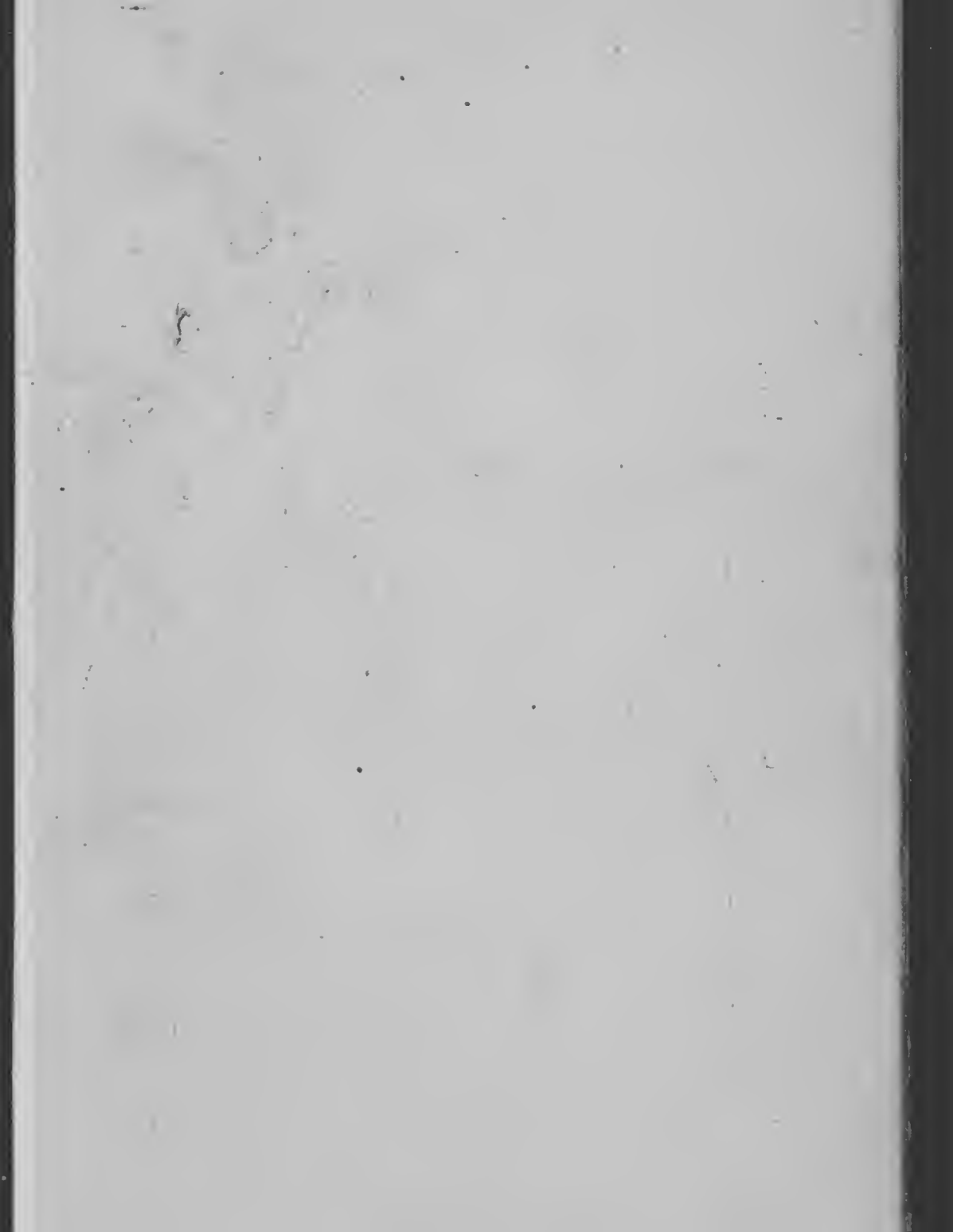
地圖

大日本青少年ドイツ派遣團一行の旅程……………口繪

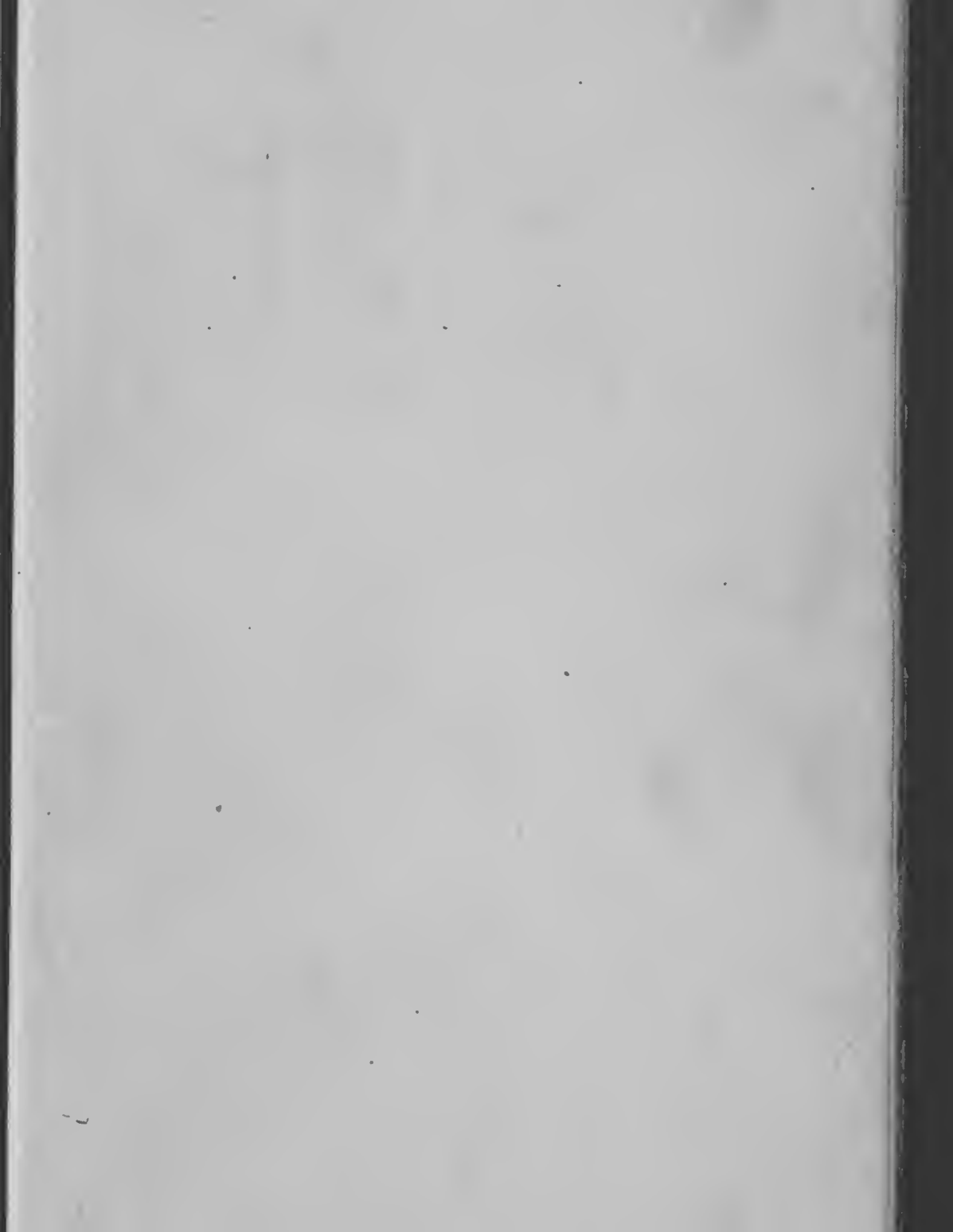
ワイクセル河に沿ふたる國境……………大



大日本青少年獨逸派遣團一行の旅程



第一部  
ドイツの旅



## 一 若き防共の盟ひ

### 日獨青少年の交誼

私達大日本青少年ドイツ派遣團一行は、防共の契愈々堅き盟邦ドイツを訪

ね、親しくその真の姿を把握し、兩國の親善を更に一層強固にしようといふ遠大な目的のもとに、

昭和十三年五月二十七日、新緑の美しい祖國を後に一路渡獨の旅にのぼり、以來約半歲に互つて、

兩國青少年運動史上正に劃期的といふべき收穫を收めて、秋も深い十一月十二日聊かの恙もなく

再び故國に戻つたのであります。この壯舉に我が青少年を代表して遙々ドイツを訪れた派遣團員

は、團長以下總數三十名、いづれも各青少年團より嚴重な銓衡のもとに推薦せられた名實共に誇

るに足る極めて優秀な青少年達だったのであります。

一方、これに對しドイツ青少年の代表として親しく聖戰下の我が國に渡來し、東洋永遠の平和

を目指し、致々として建設の大業にいそしむ神國日本のありの儘の姿を、深くその胸に刻みつけ、

世界無比を誇る我が日本精神を、心ゆく迄味得して歸つたヒットラー・ユーゲントの青少年達も



亦私達と同様三十名だつたのであります。

**交驛の由來**　そもそもこの日獨青少年の壯舉は、少し話が舊くになりますが、昭和十一年の暮當時ベルリン駐劄帝國大使だつた武者小路公共子爵から日本政府に宛て「ヒットラー・ユーゲント當局では、日本の青少年代表を自國ドイツに招待したいといふ意見を有し、ヒットラー總統自身もこの舉に對して大いに乗り氣になつてをられるが、自分としてはこの際純眞なる青少年を通じ、彼我の理解を促進せしめるといふことが、日獨兩國の友好關係を深める上に特に有效である」と考へるから、一つ日本側からもドイツ側を招待して、相互に交驛訪問してはどんなものであらう」といふ報告があつたことに由來するのであります。

その後これに對し各方面から關係者が參集して、種々意見を交換し、研究を重ねた結果、愈々前記のやうに昨年夏から秋にかけて、遂にその實現を見るに至つたのであります。

**旅程**　さてお話の順序として、次に私達一行が歐洲の土に残して來た數々の足跡の要所を拾つてみることにしませう。

六月三十日マルセーユに上陸——それからバリーを経て、ドイツの國境に記念すべき第一歩を

てみることにしませう。

六月三十日マルセーユに上陸——それからパリを経て、ドイツの國境に記念すべき第一歩を踏み込んだのは七月二日でありました。以來引き續き北ドイツ、東プロシヤ、シレジア、ザクセン、チューリンゲン、南部山岳地方、ニュルンベルグ大會、オーストリー等を歴訪、前後八十五日に亙る旅を續け、九月二十五日幾多の思ひ出を後にドイツの地を離れたのであります。そして更に、眞にドイツの實情を認識するには、勿論ドイツの國內を見ることが第一であるが、一步進んで國外より觀察することも亦大切であるといふ見地から、特にイギリス、フランス、スイス、イタリー等も巡歴したのであります。

ところで私達一行の全ドイツに於ける日程は、僅か八十五日ではありますが、しかしこの間に踏破した距離は實に一萬八百料に達し、訪問した市町村七十、見學した場所だけでも百ヶ所に及びました。そしてその大部分は自動車旅行だったので、日數の割には廣範圍に、しかも詳細に見學觀察の目的を達し得たのであります。といふのも私達派遣團の一行は單なる觀光團體とちがひ、ドイツ側の申し出による謂はゞお客様として行つたからなので、實際今日普通にドイツに行つて學校、工場、その他の見學をしようとしても、それには相當に面倒な手續が要つて、日子も多くかゝるのです。が私達はかうした煩はしい手數もなく至極愉快に、充分に視察が出来たのです。

それに私達がドイツ各地を旅行してゐる際には、何處へ行つてもあらゆる人々から、「我が同志來れり」といつた具合に、心から歡迎され、文字通り痒い所に手が届くやうな、至れり盡せりの歡待を受けたのであります。以下、旅の日記帳から特に興味深く感じ、印象に残つた事を、順次述べませう。

## 二 入獨の歡び

**音樂の國** 私達一行が初めてドイツに入つたのは、七月二日のことでした。國境を越えて最初の驛アーヘン——こゝで私達一行は先づ大いにびつくりさせられました。といふのは、この驛は國境の一番端ですから、そこでは税關の檢閲を受けなければならぬのです。そこで列車が驛に近づくに従つて私達はその用意をしてゐました。ところが、さて車が停車場に止ると、もうそれどころの騒ぎではなくなつたのです。ホームは歡迎のヒットラー・ユーゲントで一杯に埋められ何十人といふ樂隊が一齊に、それこそ正に青天の霹靂とでもいつた具合に歡迎の音樂を始めまし

何十人といふ樂隊が一齊に、それこそ正に青天の霹靂(されず)とでもいつた具合に歓迎の音楽を始めまし

た。ドイツ側の案内者はこの驛から私達に附くことになつてゐます。そこで一同ホームに降りて

挨拶(あいさつ)を交しました。ところが、そこに私達を迎へに出

てゐたヒットラー・ユーゲントの男女達が一齊に歓迎歌を合唱し始めました。これがまた實に素晴(すば)らしいもので、その聲といひ或ひは調子といひ、さすが音楽の國といはれるドイツの青少年だけに大したものだと、つくづく感心したのでした。

### 衛生設備

同日私達一行は最初の宿泊地ケルンに到

着しました。ところがたま／＼ケルンの附近にはヒッ

トラー・ユーゲントが野營(やえい)をしてゐたので早速そこに

案内されました。そこでヒットラー・ユーゲントの野

營生活を親しく見學したのですが、先づ私達の感心し

たのは炊爨(すゐさん)の設備(せつび)の行き届いてゐることでした。炊事道具(すべ)は總て移動式(いどうしき)に作られてゐました。そ



ケルンの頭驛の式歡迎

れから衛生設備、これも亦全く素晴らしいもので、<sup>いんしゃ</sup>看<sup>かんじょ</sup>護<sup>ご</sup>婦<sup>ふ</sup>の數の多いことも驚くと共に全く感歎<sup>かんたん</sup>の他ありませんでした。殊に齒科<sup>しくわ</sup>の移動式治療<sup>ちりょう</sup>自動車の如き、その中には齒<sup>は</sup>の治療に必要ないといふのに、とにかくその完備した衛生施設<sup>せいせいしせつ</sup>には大いに考へさせられたのでした。聞くところによれば、ドイツでは青少年の團體<sup>だんたい</sup>には必ず醫師<sup>かきし</sup>、看護婦<sup>かんごふ</sup>が附隨<sup>ふずい</sup>し、またその人數が多くなると必ず齒科醫も出勤するのださうであります。

その翌日——即ち七月三日、私達はその野營地で青少年の運動競技を見ました。男子の青少年は殆ど裸體<sup>はだん</sup>、女子青少年も薄<sup>うす</sup>い運動着をつけてゐましたが、その身體、これがまた實に素晴らしいもので、就中眼鏡<sup>なかつくめがね</sup>をかけてゐる者は、全く發見に苦しむ、といった位少數でした。とにかくあの立派な體格<sup>ていかく</sup>は羨ましい限りです。

お茶の會 七月六日——この日午後五時から、ドイツ青少年指導廳長官バルダー・フォン・シーラハ氏の名に依るお茶の會が、ベルリン市のティーア・ガルテンの中にあるクロールといふ大きなカフェーで開かれました。折り悪しくシーラハ氏は旅行中だったので遂に顔を見せず、次官

きなカフェーで開かれました。折り悪しくシーラハ氏は旅行中だったので遂に顔を見せず、次官ハルトマン・ラウダー・バツハ氏がその代理となり、主人役として私達を接待したのでした。ところでその時ちよつと意外に感じられたのは、その會が、お茶の會といふ名目なのに、實際は晚餐の招待であつた、といふことでした。もつともそれから後もドイツ各地に於て『ビーア・アーベント』（麥酒の夕）とか或ひは『お茶の會』といふ名目で屢々招待を受けたのでしたが、それが偶々食事の時間に相當する時は、例外なしにちゃんとした食事が供されたのでありました。思ふに、最初から「食事に御招待申します」といふことは、餘り大袈裟に聞えるので、多少謙遜するといふ心持から、殊更ビーア・アーベントとか、お茶の會等といったのではないでせうか。

打融けて さて、そのクロールに於ける招待會には、日本側として私達派遣團員はもとより、その當時駐獨大使をしてをられた東郷茂徳氏を始めとして、陸軍武官だつた現大使の大島中將、海軍武官の小島大佐、渡邊日本人會々長その他多數の日獨關係者が參集したのでありました。それに、その際ドイツ側の考へでは、單に我々日本からの派遣團を歓迎するといふばかりではなく、席上ドイツから日本に赴くことになつてゐるヒットラー・ユーゲントの一行を私達に紹介しよう、といふことも考へられてゐたやうだつたのです。従つて日獨兩國の派遣團青少年は、その會場に

於て特に席を連ねたのでありました。

やがて會が始まると、劈頭<sup>へきど</sup>青少年指導廳次官ハルトマン・ラウダー・バッハ氏が立ち上つて、「自分は、今日この席に遠來の若き盟友<sup>かいゆう</sup>たる日本の青少年諸君を迎へて、満足この上もない次第である。更に今後日獨青少年の交驩<sup>かうかん</sup>によつて兩國の親善<sup>しんぜん</sup>が一層促進<sup>そくしん</sup>せらるゝとすれば、誠にこれ以上の喜びはない」といふ意味の事を述べられて、先づ日獨青少年交驩の持つ重大な意義を明らかにされました。更に言葉を續けて、言々句々心底より湧き出る親善の熱情を披瀝<sup>ひれき</sup>されたのであります。

そこで、私はこれに對し大要次の通りであることを述べたのであります。「今回私達一同が、貴國ドイツを訪問した所以<sup>ゆゑ</sup>のものは、貴國の持つ長所<sup>ながどころ</sup>就中<sup>なかに</sup>ヒットラー・ユーゲントの組織<sup>そしき</sup>、教育、訓練<sup>くんれん</sup>等について、その實情を深く體得したい、と考へたからである。そして、そこには必ずや學ぶべきことが多々あり、同時に我が日本の青少年運動を益することも少なくないと信ずるのである。しかし、その一面に於て、貴國側としても、今日我が日本から得る所のものもあるであらうと考へる。例へば、過ぐる一九三三年と總統<sup>そうとう</sup>がその手に政權<sup>しやうけん</sup>を掌握<sup>しやうあく</sup>し、地方分權<sup>たふけん</sup>を打破<sup>たは</sup>して中央集權

しかし、その一面に於て、貴國側としても、今日我が日本から得る所のものもあるであらうと考へる。例へば、過ぐる一九三三年と總統がその手に政權を掌握し、地方分權を打破して中央集權を確立したことの如きは、我が日本が今を去る約七十年の昔即ち明治四年に斷行した廢藩置縣の大革新に一脈相通するものがあると思ふのである。要するに、日獨兩國が今後更に一層緊密なる親善關係を結ぶためには、相互にその長所を學び、所謂採長補短の道を講すべきだと思ふ。私はかくあらんことを希望して止まないものである。」

その夜の會合は、實に和やかな空氣に包まれた何とも言へないほど愉快なものでありました。従つて出席の日獨官民の歡喜はもとより、初めて顔を合せた兩國派遣團員の如きも、言葉こそ通じないが、お互に打ちとけて銘々その姓名を記し合ふなど、早くも青少年交驩の美しい場面を展開させ、斡旋の勞をとつた兩國の先輩たちも、この力強い青少年同志の親善ぶりに、思はず快哉を叫んだのでありました。

さて、その席上親しくヒットラー・ユーゲントの人々に接して、先づ私達の目を驚かされたのは、その身體が如何にも健康そのものといったやうに、素晴らしく立派であるといふことでした。私達派遣團員の中にも身長五尺七寸といふ、日本人としては相當大きな者がゐたのですが、彼は後で私に對して「ヒットラー・ユーゲント達の中に立つた時は、丁度林の中に這入つたやうな



氣持がしました」と言つてゐた位です。この青年は身長が高いといふだけでなく、身體全體がみるからにがつちりしてゐて、全く日本人としては珍らしい程の體格なのですが、それにも拘はらず、なほ且つかう感謝してゐたのです。

### 廣い別莊

七月七日——と記憶しますが、ゲーリング空相が我々に挨拶されるといふので、カーリンハールの別莊を訪問しました。ところが驚いたことは、その別莊がまた實に廣大なもので、門の衛兵に來意を告げてから、玄關に達するまで自動車で約十分もかゝるといふ具合なのです。

これは後になつて聞いたことなのですが、ドイツの高官連はこのゲーリング空相にしても或ひはヒットラー總統にしても皆廣いそして閑靜な別莊を持つてゐる。そして平常は所謂市井の巷に出て親しく社會に接し民衆の聲を聴き生々しい材料を把へ、それを持つてかうした靜かな山莊に立て籠り徐ろに想を練る。そしてその結果を事務當局に實行させるといふことで、私達も成程と感に入つたのでした。

さういへば、やはりこれに關係したことで、興味深いことがありました。といふのはベルリンのヒットラー・ユーゲント本部の組織の中に「ミュンヘン連絡係」と呼ぶ係がある。これは私達

が日本てゐては、一體どんな任務をやるものか、てんで想像がつかないのです。それが今度行

さういへば、やはりこれに關係したことで、興味深いことがありました。といふのはベルリンのヒットラー・ユーゲント本部の組織の中に「ミュンヘン連絡係」と呼ぶ係がある。これは私達

が日本にゐては、一體どんな任務をやるものかてんで想像がつかなくつたのです。それが今度行つて初めて判りました。即ちヒットラー・ユーゲントの指導廳長官バルダー・フォン・シーラハ

氏は常にミュンヘンの自分の邸宅に居住し、飛行機或ひは自動車等で全國を飛び歩いて青少年に接しその指導に當り、ベルリンの本部には僅かに月一、二回程度しか顔を出さず、その命令も大部分前記ミュンヘンの邸宅から發してゐるので、さてこそ「ミュンヘン連絡係」の存在が必要となつたといふのであります。



きととひの思靜  
(莊山の統總—ラトツヒ・ンデーガステヒルベ)

またヒットラー總統が常に民衆の中に立つてその聲を聴き、殊に鑛山の坑道に入つて鑛夫の生活に觸れ、その長屋を訪れて細君達と懇談したり——かうして所謂社會の實相を把へ、

これを持つて例のベルヒテス・ガーデンの山莊に引つ込んで靜かに想を練ることは既に周知の事實であるが、とにかく政治の最上層部に立つ者が、皆かうしたやり方をしてゐることは、非常に

面白いと思つたのであります。

カーリンハール　ゲーリング空相の山莊は、先にも申しました通り、カーリンハールにありますが、この地名については聞くも床しい一場の物語りがあるのです。今は亡きゲ空相の愛妻——それはかつて同氏がヒットラー總統を援けて共產黨を相手に華々しい鬭争を展開してゐた當時、常に同氏のよき半身として内助の功少なからず、同氏をして今日あらしめたのは實に彼女の賜物であると、自他ともに認めてゐる糟糠の妻——彼女の名こそ、このカーリンハールだつたのです。ゲ空相は死んだ彼女を偲び、感謝の意を表するために、山莊のあるこの地一帯に思ひ出多いカーリンハールの名を附したのでした。私達はこの優しくも美しい地名の由來を聞き、ゲ空相の溢れるやうな人情味に強く打たれたのであります。

日本趣味　山莊の建て方は全部木造で、ドイツの古い建築様式を取り入れそれを巧に現代化したもので、ちよつと日本の建物に入る様な氣がしました。話が少し傍道にそれるやうですが、最近ドイツの建築物は著しく日本的な色彩を帯びて來ました。殊に内部に入つて見ると一目にして日本趣味的色彩の濃厚なのが感じられます。例へば机、椅子等の家具も、白木の儘用ひるといふ

近ドイツの建築物は著しく日本的な色彩を帯びて來ました。殊に内装に入つて見ると、日本趣味的色彩の濃厚なのが感じられます。例へば机、椅子等の家具も、白木の儘用ひるといふ具合で、彼等の語るところによれば、今日ドイツ一般の風潮として日本に對する興味が著しく増加し、簡素を旨とする日本の趣味を吞み込んで只管これを真似たいと努力してをり、またそれと同時にペンキその他の塗料は木材本來の美を消してしまふ。だから木地の儘の材料を用ひて自然の美を發揮せしめよう——といふのでありました。なほ、かうした思想傾向は婦人の美に對する觀念にも表はれてゐるのです。即ち、扮飾したる美は廢すべく、自然の美は尊重すべし、健康より來る美——これぞ正に本來の美と稱すべきものなり、といふ見地から、今日女子の體育運動が盛んとなつてゐるのであります。

**ゲ空相** 私達一行はその山莊で訪日ヒットラー・ユーゲント一行と共にゲーリング空相にお會ひすることになつてゐました。七月七日午前、私達一行が恰度カーリンハールに着いたとき、もうヒットラー・ユーゲントの一行は先着してゐました。彼等は青少年指導廳本部の次官ハルトマン・ラウダー・バッハ氏以下のヒットラー・ユーゲント首脳部に引率されてゐたのです。そこで私達一行は山莊の中庭に案内され、我々日本側は玄關に向つて右翼に、ヒットラー・ユーゲント一行は同じく左側に整列しました。暫らくすると、私達の前に愈々ゲーリング空相が現れました。

例の滑稽味のある顔を頗る眞面目くさらせ、白衣に包んだ巨軀を揺がして右手に元帥杖を持ち、



ゲ 空 相 の 視 閲

ノツソリ、ノツソリ出て來られたところは、全く印象的といふ他ありませんでした。そこで日獨双方共號令一下敬禮しました。ゲ空相はこの敬禮を受け、私の前に歩を進め、私はハルトマン氏の紹介で握手を交しました。次いで日本側青年代表を視閲され、引續きドイツ側を視閲、それが終ると元の位置に歸り、先づ私達日本側に向つて挨拶されました。その要領は次の通りであります。

今度、諸君が遙々我がドイツに來られたことを、自分はこの上なく愉快に思ひ、諸君の勞苦を多とするものである。見渡すところ非常に健康の様だが誠

にお芽出度い。日本とドイツとは共產主義を對象として強く結んだ盟邦である。而してドイツ

にお芽出度い。日本とドイツとは共產主義を對象として強く結んだ盟邦である。而してドイツから見れば日本には學ぶべき點が多々ある。その日本から次の時代を背負ふべき青少年諸君が日本の青少年團の代表として來られたことは自分が心から喜びとする所である。我がドイツの國としても幾多の長所があり特徴を持つてゐるのであるから、必ずや日本の御參考となる事があると思ふ。眞の親善といふものは相手を深く理解することに出發すると信ずる。従つて今後諸君がドイツの各般の事情を見學研究されることは、自分の最も希望するところなのである。何卒今後健康に留意して、愉快な旅行を續けられんことを熱望して止まない。

そこで私達はゲ空相に注目<sup>ちゆうもく</sup>の敬禮をしました。

そして、日本側青少年代表に對する挨拶がすむと、ゲーリング空相は、今度は日本派遣のヒッラー・ユーゲント一行に向つて次のやうな訓示<sup>くんじ</sup>をされました。

「諸君はドイツの青少年を代表して日本に使されることとなつたが、それは非常に名譽なことである。とともにその責任も重大であるといはねばならない。諸君の一舉手一投足はこれ皆ドイツの眞價を評價される材料となるのである。従つてよく萬事に氣をつけて無事使命を達成せられんことを望んで止まない。なほ、日本とドイツとはよしんば歴史、風俗を異にしてゐても、

ドイツとして日本に學ぶべき點は多々あると信するのであるから、諸君は遺憾なく日本の優れた特質を把握して來なければならぬのである。」

さう言ひ終ると、ゲーリング空相は奥に姿を消してしまわれました。

**火花の論戰**　そこで私達は次官の案内で各部屋を見て廻つたのです。ところが大會議室、小會

議室はもとより内部一帯到る處、これはまた簡粗な外觀とは全然異り實に立派で落着いた感じがしたのでした。聞くところによれば、この大會議室には時にヒットラー總統も來られて、ナチス

黨幹部が徹宵議論を闘はすことがあるといふことでした。そこで私は案内の人に「ヒットラー總統が列席された時の會議の様子は如何ですか」と質問しました。ところがその話がまた大變面白

かつたのです。このナチス黨幹部の會議では、若し意見を異にするときは各自自分の信ずる所をどんどん述べ立て、所謂甲論乙駁議論に花を咲かせる。そしてヒットラー總統は終始ニコ／＼微

笑を浮かべながら、自己の提案に對し賛否兩論火花を散らす壯觀をじつと眺めてをり、さて愈々論

戰も峠を越えたと思はれる頃、徐ろに立ち上つて最後の斷案を下す。そして一度この斷案が下る

やナチス黨最高幹部はこれに絶対に服従し、こゝに黨の政策に關する確固不動の方針が成立する

やナチス黨最高幹部はこれに絶対に服從し、こゝに黨の政策に關する確固不動の方針が成立する

——といふのでした。かういふことを聞かされて、私達は非常に興味深く思つたのであります。

**野牛場** さて、私達はカーリンハールの別莊を辭去し、今度は野牛場の見學に赴きました。こ

の野牛場といふのは、現在我々が家畜として飼育してゐる牛の先祖ともいふべき原始的のものを、昔の姿その儘に保存して置きたいといふので建設したもので、學問的研究心を満足せしめ、一面、現在の人間の過去に對する追憶に資する、といふのがその目的だといふことでした。

實際、そこには數十頭の野牛が、幾千年か或ひは幾萬年かの昔の儘の姿で無心に歩き廻つてゐて、その有様は私達一行並びに同時に見學に來てゐたドイツ人達の近代的な姿と比較して、誠に面白いと思つたのであります。しかもなほ一層私達が興味を感じたことは、萬一かうした珍しい野牛の群に傳染病でも蔓延したらばといふ心遣ひから、參觀者に對して嚴重な消毒をすることでした。これには、私達一同、さすがドイツは科學の國といはれるだけのことがある、とつくづく感じ入つたのであります。

さて、この見學が終ると、私達はその附近の靜かな湖畔で晝の食事をとりました。そして午後三時同所を出發ベルリンに歸つたのであります。



共産黨の校舎 明くれば七月八日——この日私達一行は、ベルリンから約五、六十軒のブリロスにあるヒットラー・ユーゲント海洋青年部の指導者養成學校を見學に行きました。その時は、恰度四週間程の講習會の最中だったので、私達一行のため航海に關する色々の作業をやつて見せてくれました。が、それは我が國の海洋少年團の作業と大差なく、別に珍しいとも思はれませんでした。唯私達にとつて非常に面白く思はれたのは、その養成學校の校舎の由來だったのであります。

この校舎は、以前共産黨が盛んだつた頃、黨の指導者養成所だつたのです。即ちこの所在地ブリロスは、先にも言つた通り、首都ベルリンから五、六十軒も離れた邊鄙の地であり、しかもこの校舎のある地點は、河に面したちよつと人目につかない場所なのですが、それが一度ナチス黨の天下となるや、ナチスは直ちにこれを沒收し、之はお誂へ向きだとはかり早速同政權下に活躍すべき海洋青少年養成所としたのでした。私達はこの話を聞き、運命の皮肉に思はず微笑を洩らしたのであります。

## 體育の種類

さてこゝでこの養成所の事を述べる前に、先づ現在のドイツに於ける體育運動の

全般を簡単に展望することといたしませう。海洋訓練は體育の一部分をなしてゐるのですから。

體育の種類 さてこゝでこの養成所の事を述べる前に、先づ現在のドイツに於ける體育運動の

全般を簡単に展望することといたしませう。海洋訓練は體育の一部分をなしてゐるのですから。

ヒットラー・ユーゲントが體育方面に特に力を入れてゐることは、既に周知の通りですが、それは次の三つに分類されるのであります。即ち純粹體育、國防體育並びに行軍及び野營です。

純粹體育といふのは、男女青年の身體を均整に發達させようとするもので、走、跳、投の各種目に就て、各自の年齢に應じ絶對に到達しなければならぬ標準が定められ、各青少年はこれに對しそれ／＼自己の年齢に従つてその標準に達するやう努力するのであります。またその競技種目が、専ら集團的に行ひ得るもの、多數の設備を要しないもの、そして何處でも出来るやうなものが考慮されてゐるのも十分注目に價することとせう。

殊に私達の感心したのは、飽くまでも青少年の興味を喚起するやうに工夫されてをり、しかもかうした體育訓練が、言はず語らずの中にその究極に於て國防と結びつけられてゐることでした。例へばその一つとして約八寸程の丸い棒の先に球をつけた、恰度大太鼓の撥のやうな運動具があつて、青少年は嘻々としてこれを投擲してゐるのです。そしてそれは先に述べた通り年齢によつてその投擲距離がちゃんと定められてゐるのです。ですからこれは知らず識らず手榴彈の練習と

なり、後日彼等が軍隊に入つた時には即座に役に立つといふわけなのであります。とにかく純粹體育と稱しながら、かくの如く單に身體の基礎を造るのみならず、國防的意義を多分に含んでゐるといふことは、私達一同深く考へさせられたことであ

りました。



つ 搏 相 彈 肉

次に國防體育ですが、そのうち防空訓練とゲレンツスポーツとは共に總ての男女青年に課せられてゐるのであります。防空訓練——これは先づ男子に對して消火、防毒、監視、その他防空に必要な事項をやらせ、女子には看護の方面をやらせてゐます。聞くところによれば現在ドイツには、この訓練を受けた青年男女のみでも約千二百萬人ゐるさうで、その徹底振りには少からずびっくりしたのであります。

次にゲレンツスポーツでありますが、これは地圖の見方、地形の見方、簡単な地圖の書き方等

旅行に必要なこと、そして軍隊で直ちに役立つことを男女青年に共通に課してゐるので、かうし

次にゲレンツスポーツであります、これは地圖の見方、地形ちけいの見方、簡単な地圖の書き方等旅行に必要なこと、そして軍隊で直ちに役立つことを男女青年に共通に課してゐるので、かうしたやり方は私達にとつて誠に面白いと思はれたのであります。

なほ國防體育には以上のほか希望者に實施させるものに通信、乗馬、射撃しやげき、オートバイ、グライダー及び海洋訓練の六種があり、これ等は各自の希望に應じて課することになつてゐて、技術ぎじゆつの修得者しうとくしやにはその程度ていどによつてそれ／＼一定の徽章きしやうが授與じゆよされるのであります。そしてこの訓練の結果、ヒットラー・ユーゲント本部から「或一定の程度に達した」といふ證書しやうしよが授與されたものでなければ、後日軍隊に入營した際、その技術ぎじゆつを必要とする部隊には所屬しよぞく出來ないこととなつてゐます。例へば乗馬の技能修得證書を持たないものは、騎兵きへいになれない、といった具合なのです。要するに國防體育は軍隊の基礎教育といふことになるのであります。

さて話はもとに戻りますが、この學校は、將來各地方に於て青少年の海洋方面の教育に従事する者を養成するので、今日のドイツが、如何に遠大なる理想の下に青少年教育を實施じつししつゝあるかを、僥しやうぶに足ると思ふのであります。私達一行は、一般の作業や施設しせつを參觀した後、船に乗つて附近の河で涼りやうをとりましたが、學生等の機械の操縱さうじゆう或ひは漕ぎ方等、その動作は嚴格げんかくを極め、



ムアヂタス・クツビムリト

實に立派なものでありました。

二四

オリムピック・スタヂアム 七月九日——こ

の日私達一行はベルリン市内の見學をしました。

そしてその際、例のオリムピック・スタヂアム

にも行つて見たのですが、その宏大な規模と行

き届いた設備には、さすがドイツだ、と感心し

たのでした。しかも、その壁間には先年の大會

に赫々たる勇名を馳せた我が派遣選手の姓名が、

浮き彫りの額となつて掲げてあり、永久にその

榮譽が傳へられてゐるのを見たときは、今更な

がらその當時の選手諸君の目醒ましい奮闘振り

が偲ばれ、實に感慨無量のものであつたのであ

りました。なほ、私達一行は勿論無料で入場見

學したのでしたが、一般からは入場料を徴収してをり、しかも入場者の中には諸外國からの觀光

りました。なほ、私達一行は勿論無料で入場見

學したのでしたが、一般からは入場料を徴収してをり、しかも入場者の中には諸外國からの觀光客もあつて、その數頗る多く、聞くところによれば、維持管理費の如きも、この収入で相當賄へるといふことで、ドイツ人も却々頭腦がよいなと思つたのであります。

これは後で聞いた話ですが、ドイツでは、展覽會その他の大きな行事をやるときは、必ず永久的な立派な建物をこしらへ、その行事が終了すると今度は入場料を取つて觀覽させ、その後は更にその設備を生かして使つてゐるといふことでした。このオリンピック・スタジアムもその一例なので、そこに隣接して體育指導者の養成學校があり、その設備は到底我が國では見られぬ程行き届いてゐるのですが、その上になほまたこのオリンピック・スタジアムをも併用してゐるので、これはなか／＼うまい考へ方だと思つたのであります。

**體育指導者養成學校**　ところで、この體育指導者の養成學校はA・B・Cの三クラスに分れてをり、修業期間はAクラスが八ヶ月、Bクラスが六ヶ月、Cクラスは短期となつてゐます。そしてその中Cクラスは、S・S（親衛隊員）S・A（突撃隊員）の養成をするのです。軍人を始めとし廣く一般社會人のために公開されてをり、希望者は年齢社會的地位その他に何等拘束なく入

學を許可されてゐます。なほこのクラスでは、體育に關する根本方針並びにその實行方法を講習して、只管體育の普及徹底をはかり、以て中年以上の者に對する體位の向上が企圖されてゐるのであります。またA並びにBの兩クラスは専ら専門家を對象としたもので、地方に於ける指導者の養成及び再教育を行つてゐます。

學校内における體育施設は、實に至れりつくせりで、私達一行も「よくもこんなに設備したものだ」と唯々感心するばかりでした。なほ同校には以上の他完備した寄宿舎も附屬してをり、この創設費は邦價に見積つて少くとも五百萬圓位にはなるであらうと考へたのであります。しかし、こゝに注意すべきことは、同校の施設が、その室内、室外を問はずかくまで完備してゐながらも、前記のやうに、なほ且つオリムピック・スタジアムが併用されてゐるといふことで、これを以てしても、同體育指導者養成學校の設備が如何に優れてゐるか想像出来るであります。

さて私達一行がこの學校を訪れたとき、ちよつと可笑しなナンセンスがありました。私達がその學校に着いたとき「私が御案内申します」と言つて、三十歳前後の紳士が出て來たのです。ところが、この人は獨逸語は話さず専ら英語を使ふのです。しかもその英語が實に上手で、私達一

ところが、この人は獨逸語は話さず専ら英語を使ふのです。しかもその英語が實に上手で、私達一同すつかり感心してしまつたのでした。大體ドイツ人で相當の地位にある者は、皆英語かフランス語を修得<sup>しうとく</sup>してゐるのですが、この人の英語はまたズバ抜けて立派なのです。で、私はたうとう黙つてゐられなくなり「失禮ですが貴下は實に英語がお上手ですな」と言ひました。ところがその人の返事は何と「いや、私は英國人なのです、目下英國から講習を受けに來てゐるのです」とのこと。これには、私達一同可笑しいやら何やら「いやもう結構<sup>けつこう</sup>………どうかドイツの方に御案内願ひたいもので」といふことになりました。

**青年宿泊所** 七月十日——私達一行はベルリン郊外のホーヘン・ノイエ・ドルフにある青年

宿泊所（ユーゲント・ヘヤベルグ）に案内されました。こゝには日本に行くべきヒットラー・ユーゲントの一行も來合せてをり、その他宿泊中の男女ヒットラー・ユーゲントも相當多かつたので、こゝに圖<sup>はか</sup>らずも日獨青少年の水入らずの交驩<sup>かうかん</sup>が行はれたのであります。日本側には、我々一行の他に、その當時大使館附陸軍武官であつた現大使の大島浩中將を始めとして柳井參事官、小島海軍武官等の顔も見え、その他在獨邦人も多數來てをりました。またドイツの日獨協會員、ヒットラー・ユーゲントの幹部及び地方有志も多數參集してゐましたので、私達一同はこれ等のド



イツ青少年達と入り混つて大きな圓陣をつくり、更に訪日ヒットラー・ユーゲント中二三名の者



所泊宿年青きし樂

は例の大きなアツコーディオンや横笛を奏で、一同これに合せて歌ふといった具合で、實に和やかな愉快な會合でした。その美しい光景には、集まつてゐた日獨双方の先輩も文字通り多大の感激を受けたのであります。

この宿泊所は收容人員四百名で、建築費三十萬マルクを投じたといふことでしたが、その設備は實に行き届いたもので、特に炊事と洗面の施設には多大の努力がはらはれてゐるやうでした。しかも、聞くところによればその滞在費は一泊僅か五十ペニヒ（四十錢位）といふことでした。一體ヒットラー・ユーゲントは盛んに野營行軍をやりますが、それには、隨時行ふ小行

軍と、毎年夏期十日前後に互つて行ふ大行軍とがあり、共に國內各地を巡歴して自己の見聞を廣

める一方、他の地方の青少年と交はる機會を與へるやう工夫されてゐるのであります。従つて、

軍と、毎年夏期十日前後に互つて行ふ大行軍とがあり、共に國內各地を巡歴して自己の見聞を廣める一方、他の地方の青少年と交はる機會を與へるやう工夫されてゐるのであります。従つて、その目的を達するために、現在ドイツ國內にはかうした宿泊所が約二千數百箇所も設立されてゐるといふことでした。

しかもこれ等の宿泊所は、單に國內的に使用せられるのみならず、國際的にも大いに活用されてゐるのです。即ち、ドイツは現在特に世界の二十六箇國と約束を結び、それらの國の青少年は或る一定の證明書（しやうめいしょ）さへ持つて行けば、ヒットラー・ユーゲントと全く同様に一泊五十ペニヒで泊めてもらへるのです。だからドイツの青少年達はそこに宿泊することによつて、同胞青少年と接觸（しよく）するのみならず、廣く諸外國人と交はることも出來て、益々その知識が啓發（けいはつ）せられるのであつて、この方法は正に一舉兩得（いつしやうりやうとく）ともいふべく誠に面白いと思つたのであります。

この日私達がこゝに來たのはこの宿泊所を見學し、日本行のヒットラー・ユーゲント一行と食事をするのが目的でしたが、親しく宿泊所の内部を案内され、彼等の活動狀況を見學したのでした。恰度その時、宿泊所に洋服屋がきて訪日派遣團一行の服の仕上げをしてゐました。ところがよく見ると私達に比べて一人宛の服數もずつと多いし、それにトランクも遙かに大きいので、こ

れには自分達を顧み聊か心細い氣がしたのでした。

**訪日ヒ・ユの出發** 明くれば七月十一日、この日は訪日ヒットラー・ユーゲント一行が、愈々ベルリンを出發、プレーメンに向ふことになつてゐるので、私達一行も彼等と同行しました。そして翌十二日プレーメン驛頭において、彼等一行の晴れの首途を送つたのでした。話が少し前後しますが、彼等の例のスマートなユニフォーム姿、あれは彼等が十一日ベルリンを出發するとき初めて見たのでした。しかし私達一同がそのスマートさにも増してもつとびつくりしたことは、一行の見送りが、何んと僅か十數名しかなかつたことでした。これは私達一行が過ぐる五月二十五日東京驛を出發する際、そして同月二十七日神戸を出港した時の、あの盛大極まる歡送陣に比べて全く異様に思はれたのでありました。これも要するに、國民性の相違が、かくあらしめるのではないでせうか。さういへば私達の滯獨中前後八十五日間を通じ、大體において出迎へは盛んだが、見送りは簡単なやうでした。これといふのも、別に彼等が冷淡であるとか、熱意が少ないとかいふのではなく、全く國民性から來る風習の差であると思ふのであります。

### 三 北 ド イ ツ

レルテニウスさん ブレーメン市には、日本の名譽領事でレルテニウスさんといふ方がをられます。この方は既に七十歳近い老人ですが、日本人に非常に親しみをもち好意をよせてをり、私達一行のブレーメン市訪問を本當に心から喜んで呉れました。そしてわざ／＼ピーヤ・アーベント（ビールの方）を催し、その席上私達を同地の名士方に御紹介下さつたのです。また自分の經營してゐる飛行機並びに造船の材料製造工場も見學させて下さいました。その他何かにつけて一方ならぬお世話になつたことは、私達一同旅の身にしみ／＼嬉しく思つたのであります。

**自動車道路** その日、私達は近來ドイツ自慢の一つとしてゐる自動車専用道路をドライブしました。この自動車道路はベルリン市を中心として、東西南北の國境に向ひ放射線狀に十數條建設されたもので、軍事上はもとより、經濟上にも重要な意義をもつてゐると思はれる極めて立派なものなのであります。現在のドイツは一面に於て極力物資の節約に努め無駄のない生活を行つて

ゐるのですが、それにも拘らず、一度必要と決すれば敢然として巨額の費用を投じ、萬難を排してかゝる大工事を遂行するので、これこそ、正に統制經濟の妙諦なるかな、と痛感したのであります。



自動車道

青年塾舎 七月十三日——私達一行は、ハンブルグ郊外にあるユーゲント・ハイム(青年塾舎)を見學しました。それは廣々とした畑の真中にあり、道路に面した極めて便利且つ閑靜な所でした。現在未だその建築は完成してをらず、折から人夫達が作業の最中でしたが、見るからにすがすがしい、落着いたそして氣持のよい木造家屋で、恐らく我が國のどの農村にもつて來てもその風景とピッタリ調和するであらう、と思はれる程日本趣味豊かなものでありました。しかもなほ、北ドイツの畑の真中に置いて、それはそれでまたその自然美と何等不調和も來さないのです。一體ドイツ人は自然美を保護し、維持するこ

とに、實に一方ならぬ努力を拂つてゐるやうに見受けられました。ドイツ各地を廻つて彼等が最

でまたその自然美と何等不調和も來さないのです。一體ドイツ人は自然美を保護し、維持する  
とに、實に一方ならぬ努力を拂つてゐるやうに見受けられました。ドイツ各地を廻つて彼等が最  
も誇りとする景勝の地に案内され、さて「この景色はどうですか？　きれいでせう？」と質問さ  
れた場合、私達は口では「ゼア・シェーン」（實に綺麗です）と返事しましたが、正直のところ  
實際は我が日本の風景とは到底比べものにならないのです。ですが、それにも拘はらず彼等ドイ  
ツ人は、その自然美を能ふ限り維持し保護しようと苦心してゐるので、これには私達一同心から  
敬意を表したのであります。

**自然美と調和**　想ふにかうしたドイツ人の自然美保護に對する心遣ひは、要するに次に示す二  
つの型を取つて表はれるのではないでせうか。即ち、その一は「自然美と建築美との調和」で、  
他の一は「自然美を冒瀆しまいとする注意」であると思ふのであります。従つて、見苦しい廣告  
の類は絶対に排撃せられ、また濫りに樹木を伐つたり紙屑を散亂させたりすることも、國民全部  
が一致して大いに自肅し自戒してゐるやうでした。

さてハンブルグ郊外のこのユーゲント・ハイム（青年塾舎）もその例にもれず、先に述べた通  
りその附近の自然美と實によく調和してゐるので、私達一同毎度のことながら、さすがはドイツ

だ、と感じ入つたのであります。この建物は廣さ百八十平方メートルあり、工費は二萬マークを投じたといふことで、男女の青少年をそれ／＼集合せしめ得るやう設備されてゐました。現在ヒットラー・ユーゲントは全國市町村に對して、極力かうしたユーゲント・ハイムの設立を獎勵してゐますが、その設計に就てはヒットラー・ユーゲント本部の許可を受けなければならないといふことになつてをります。そして、その建物及び器物は、後に詳しくお話しますが、何れも實に簡單で、しかも趣味豊かに考案されてゐるのであります。

### 塾舎の目的

現在ハンブルグ市の人口は約百十萬であります、聞くところによれば、同市のヒットラー・ユーゲントはこれに對しかうしたユーゲント・ハイム四十戸を設置する豫定で、既に一昨年その工を起し、現在その約半數は落成を見、引續き残りの完成を急いでゐるといふことであります。そも／＼このユーゲント・ハイムといふのは、ヒットラー・ユーゲントに屬する青少年達を、毎週水曜日の午後から夜にかけて一齊に招集し、そこで同じ位の年輩のものが互に愉快に談笑し、楽しみ、遊び、しかもその間知らず識らずに必要な教育なり訓練なりを授けられるといつた具合のもので、現在全國各市町村とも、その男女青少年全部を同時に收容し得る程度

るといつた具合のもので、現在全國各市町村とも、その男女青少年全部を同時に收容し得る程度

のものを建設する計畫を持ち、すでに着々實現を見つゝあります。

### 古風な機械機

ところで、私達一同このハンブルグのユーゲント・ハイムを見學した際、その

設備の中で特に感じたことは、その屋根裏の部屋に機械機械と絲繰り車のあることでした。



娘の機械

これは今日の我が國の青少年たちは、或ひは知らないかも知れないが、以前は田舎に行けばどの家庭でも皆備へてゐたのであります。私はこれを見て不思議に思ひ、案内の人に向つて「ハンブルグのやうな都會のユーゲント・ハイムに、なぜこんな古風な機械を備へたのですか？」と質問しました。ところがその返事がまた實に立派なものだつたのです。即ち、

「近來は世の中が餘りに便利になり過ぎ、殊に都會に住んでゐる女の如きは、金さへあれば何んでも手軽に調達出来るため、やゝともすると持つて生れた天分を發揮する機會が失はれ勝ち



です。従つて各人の藝術的素質或ひは創作的素質を發揚する機會を與へねばならぬ、といふ考へから、特にかうした原始的の道具を備へ、手工的作業を課してゐるのです。」

と説明されたのであります。

それから、私達がこのユーゲント・ハイムの設備全體を通じて考へさせられたのは、なるべく自分の家庭で自分等の手によつて製作し得るやうな簡單なものが使用されてゐることでした。またこの二階建のしかも百八十平方メートルといふ建物に對し、鐵の使用が極度に制限されてゐること、これも感歎の他はなかつたのであります。實際、鐵でなければ絶対に間に合はないといふ所以外、極端に鐵の使用をさけてあるので、例へば釘の如きも鐵釘でなく木の釘を使用した所が多いやうでありました。彼等はこの點に關し「軍事上、經濟上他に使途のあるものは、我々としては極力その使用を避けてゐるのである」と言つてゐましたが、今日ドイツ人がかゝる些細な點に至るまで、如何にその國家全體のことを考へてゐるかを知り、他人の國のことながら、私達一同實に嬉しく思つたのであります。

船舶宿泊所 七月十四日——ハンブルグ市を貫流するエルベ河の河口は、實に立派な設備を持

つてをり、造船所も多く、船舶の出入が殷賑を極めてゐますが、そこで私達が特に面白いと思つたのは、古船を繋留した船舶宿泊所のあることでした。これは約六百人を收容し導るやう設備さ

つてをり、造船所も多く、船舶の出入が殷賑を極めてゐますが、そこで私達が特に面白いと思つたのは、古船を繋留した船舶宿泊所のあることでした。これは約六百人を收容し得るやう設備され、一年間の宿泊者は實に七萬の多きに達し、殊に夏期の四ヶ月の如きは連日満員の盛況だといふことで、實際、私達が見學に赴いたときも、ドイツ各地から集まつた青少年並びにその父兄で一ぱいでした。彼等は我々一行の姿を見かけるや、もう大した歓迎振りで「一緒に寫眞を撮りませう」とか「サインして下さい」とか、文字通り應接に違なしといつた状態でありました。全くあの人々の心からの歓迎は、今思ひ出しても愉快に堪へぬのであります。

聞くところによればこの船舶宿泊所の宿泊料は、團體の場合は一人宛一泊二〇ペニヒ、個人は三〇ペニヒ、大人は五〇ペニヒ、といふことでした。先にも述べた通り青少年宿泊所（ユーゲント・ヘヤベルゲ）は現在全ドイツに互つて建設されてゐるのであります。かうした具合に古船を利用してゐることは、青少年達に對して國內旅行の獎勵は勿論、海事思想の普及にも非常に役立つてゐると思つたのであります。

### 動物園

さて我々一行はその見學が終ると、今度はハーゲンベックの本部ともいふべき動物

園に行つて見ました。これは、非常に大きな植物園の中にある大きな動物園といった具合のもので、あらゆる種類の動物が飼育され、またその見學に来る人も實に多く、園内には何百人も收容し得る大カフェーがあり、とにかく私達一行も、さすがは世界に名高いハーゲンベックの本部だけある、と感心して頷いたのであります。なほ眞偽の程は判りませんが、ここは單に動物を観覽させるばかりでなく、特に動物を飼育して、謂はば生きた標本とでもいふべき飼ひ慣した動物をつくり、これを世界各國に供給してゐるといふことでしたが、實際行つて見てなるほど感じたのであります。

新しき土 七月十五日——この日私達は、ハンブルグを出發、ノルド・ゼー（北海）の干拓地を見學に行きました。これはアドルフ・ヒットラー・クーグといはれるもので、一九三四年から一九三五年にかけ僅々一年間に一千百ヘクタールの干拓を實行したのでした。勿論この作業の一部分は、例のアルバイツ・ディンストが負擔したのですが、見渡す限り廣々とした畑が続いてをり、既に作物が立派に成長してゐるのを見かけました。聞くところによると、この干拓地はナチス黨に功勞のあつた人々に、一人當二十ヘクタール宛分割し、年賦で拂下げるといふことにな

つてゐるのださうですが、今日のドイツでは、ナチス

黨の功勞者は司して國家の功勞者といふわけですから、



トスニデ・ツイバルアの地拓開

つてゐるのださうですが、今日のドイツでは、ナチス  
 黨の功勞者は同時に國家の功勞者といふわけですから、  
 かうした制度の  
 下に國家的功勞  
 者は國家の手に  
 よつてその生活  
 の安定を保證さ  
 れてゐるのであ  
 ります。ところ  
 で、この自作農

の人々の一ヶ年の收入は、邦貨に換算して大體一萬三千圓  
 あり、しかも一切の經費を差引いてなほ七千圓の剩餘を  
 すといふことで、私達はかうした素晴らしい黒字經濟の話



地拓千一ラトツヒのネルマ

を聞き、<sup>ひるが</sup> 隣へつて日本の農村もどうかかういふことにしたいものだと思感したのでありました。従つてこの土地に對し前記の如くアドルフ・ヒットラー・クーグ（アドルフ・ヒットラーの干拓地）といふ名を附したのも、誠にさもあるべきことで、曾ては身命を賭してヒットラーを援助ししかもそのため恒産を失つた人々が、今はナチス黨の手によりかくの如き生産機構の下にその生活も全く安定し得たのですから、ヒットラーに對して一方ならぬ感謝の念を抱くのは寧ろ當然であり、よしんば政府がかく命名しなかつたとしても、彼等は進んでかく呼んだに違ひないと思つたのであります。

**音楽で指導** さて、その見學が終ると、私達は再び自動車をとばし、更に北へ北へと進んで、デンマークとの國境にあるフレンスブルグといふ町につきました。そしてその晩はその町の青年團事務所で催されたハイム・アーベント（同志の夕）に出席し、その地方の青少年代表達と一緒になつたのであります。この事務所は日本で言つたなら、先づ郡青年團の本部に相當するもので、建設費に十萬マルクを投じた、といふことであります。

聞くとところによると、この土地は先にも述べた通り國境に近くもあり、また近來農村の青年が

離村して都會に集中する傾向があるといふ關係か



キヤンパンで音楽に興ず

離村して都會に集中する傾向があるといふ關係から、僻遠の地ながら殊更かうした立派な事務所を建て、充實した設備が施されてゐるのださうで、こゝは本部とはいふものゝ、實際

は青年塾舎としての機能をも發揮し得るといふことであります。従つてこゝには體育の指導者も音樂の指導者もゐるのでありますが、殊に私達が感心したことは、農村青年に健全な娛樂を與へるといふ意味からして、音樂の指導者には特に技術堪能の優秀者を任用してゐることで、私達一行も、この本部の音樂指導者の青少年に對する指導振りを親しく見學したのですが、實に手に入つたもので、その音



英雄の「祭」の演奏

樂的指導力の強いことには全く一驚を喫したのであります。聞くところによれば、彼は自分自身、ドンドン作曲し、それを携へて各地を巡廻教授し、かくして青少年の信望をその一身に集めてゐるさうで、實際面接すると一見如何にも相當の年輩の人のやうに思はれたのですが、それが何と當年二十歳の青年と聞いて二度ビックリしたのでした。彼は、青少年に對し實に嚴然たる態度を以て臨むのですが、しかもなほその指導振りは飽くまで懇篤を極め、恩威並び行ふといふ床しい人柄には、私達一同何とも言へない感銘を受けたのであります。

**歴史教育** さて、七月十六日、私達はフレンスブルグを發足し、軍港で名高いキールへと向ひ

ました。ところでその旅行中に是非お話したいことがあつたのです。といふのは、キールへの途中にハイターブーと稱する地があるのですが、こゝは十二世紀の初め頃(?)北から來たゲルマン民族が初めてこの國に侵入した地點といはれてをり、現在その當時の建築物を發掘してゐるので、わざわざ見學に立ち寄つたわけなので、そこから掘り出された貨幣を見せてもらつたのでした。ところがその表面には現在ナチス黨がその紋章としてゐる例のハーケン・クロイツ、あれがチャシと記録されてゐるのです。これは非常に重要な意味があるので、現在のドイツ國旗は一九三三、

年ナチス黨の天下になつて初めて創られたものでありますが、しかもなほその國旗の中心を

年ナチス黨の天下になつて初めて創られたものなのでありますが、しかもなほその國旗の中心をなすハーケン・クロイツは既に遠く十二世紀の昔に嚴然として存在してゐたことを實證してゐるのであります。

現在ドイツではヒットラー總統の意を受けて『ドイツ建國史』『ドイツ古代史』の研究が非常に盛んであり、同時に歴史教育が重視されてゐますが、かくの如く今日ドイツ民族が自國の歴史を十分研究して、これを中心とする歴史教育を行つてゐることは、我が國の歴史教育では既に古くよりやつてゐることながら、全くその軌を一にするもので、今日この點に着眼し力を注いでゐるといふことは、誠に興味深く思はれたのであります。なほ、かうした傾向から、最近ドイツでは所謂祖先崇拜の熱が昂まり、各家庭の系圖の如きも俄然重要視せらるゝに至り、聞くところによれば、履歷書に系圖を添附することもあるさうで、偶然の一致か日本の眞似かは判りませんが、とにかくかうした精神的方面に對するやり方は、日本古來の風習と符節を合はせてゐるが如く感ぜられ、非常に面白く思つたのであります。

海洋青少年 七月十七日、キールを出發してリュールベックに向ひましたが、その途中ノイスタ





海 洋 青 少 年 團

ートといふ所で海洋青少年のキャンプ生活を見  
學することが出来ました。このキャンプはハン

ブルグ青

少年團の

經營に係

るもので、

こゝでは

前後十八

日間に互

る連續訓

練が行は

れるのであります。私達は、キャンプ場を一巡して見て、

先づ各種の施設が完備してゐるのに一驚を喫したのでした。



海 洋 青 少 年 團 の キ ャ ン プ 生 活

先づ各種の施設が完備してゐるのに一驚を喫したのでした。

就中その醫療施設いれちせつは是非我が國でも眞似たいと思つたのであります。ヒットラー・ユーゲントの醫療施設については、先にゲルン訪問の際にもお話したことでありますが、彼等は積極的體育を行ふと共に、消極的な豫防衛生せうきよくていせいにもかうした具合に絶大なる努力をはらつてゐるのであります。従つてこのキャンプ生活に子供を送つてゐる父兄達も、私達の訪問したとき數十名來合せてゐましたが、如何に満足さうで、これなら安心して子供が託まかせられるといつた安全感を持つてゐるやうでありました。またこのキャンプ場に於ける連續講習には、特にドイツ海軍から下士官が派遣けんぱんされ、更に必要なる器具、機械等が提供されて、各種の訓練も實に猛烈まうれつを極めてゐるのであります。

一體この青少年に對する海洋訓練は、非常に困難なものなので、今日我が國に於ても、地方の漁村にある青年學校或ひは青年團等ひたす只管その振興しんこうに頭をなやましてゐるのですが、それにしてもなか／＼思ふやうに行かないのであります。現に私達一行は、今日我が國に於て最も力を注がれ且つ相當の成績を擧あげてゐる某縣海洋青年團の活動振りをフィルムにして持參したのでしたが、このヒットラー・ユーゲント海洋青少年部の完備くわんびした實際狀況を目の邊りにしたので、向ふの人

々の前にそのフィルムを公開するのには、とにかく非常な勇氣が必要である、と感じたのでありました。

キールにて キールでは、私達一行軍艦の見學をし、またヒットラー・ユーゲントの歡迎會にも臨席しましたが、その際ちよつと不思議に思はれたのは、ドイツの一陸軍大尉が、私達に對して特に終始幹旋これつとめてゐたことでした。で、私は「貴下は現役の軍人でありながら、どうして私達をとりもつて下さるのですか？」と聞いて見ました。ところが彼が言ふには、

「ヒットラー・ユーゲントの教育と軍隊の教育とは非常に密接な關連があるからして、双方共各地方別にそれ／＼連絡係を置いてあるのです。實は、私はこの地方における陸軍側の連絡係なのであります」

といふことでありました。これを以てしてもヒットラー・ユーゲント、アルバイツ・ディンスト、そして軍隊の三者が如何に密接不離の關係にあり、一貫した指導精神によつて青少年教育訓練に當つてゐるか推察せられるのであります。またヒットラー・ユーゲントが特に力を入れてゐる體育にしろ、或ひはヒットラー總統に對する忠誠心の涵養にしろ、とにかく彼等青少年に對する

指導訓練は、同時に軍隊の基礎訓練ともいへるのであつて、これといふのも結局は現ドイツの各般の運営が、直接間接を問はず國防の一點に集注されてゐることを雄辯に物語つてゐるのであります。しかしそれはそれとして、とにかく現役將校が連絡係に當つてゐる事は、誠に興味深いものがあると考へたのであります。

祭の行列 リューベックではまた面白いことがありました。恰度私達が行つた日、この土地は古來の風習に従つた珍しい祭典で大賑はひを呈してゐたのです。私達一行は市役所で市長の公式引見に出席し、式が終つて市廳舍内を見物し昔のハンザ同盟の話などをしてゐたのですが、その時急に外部が騒々しくなり、或人が私の所に來て「貴下方は大變運がよい。今日は恰度この市の祭典で、今市役所の外に行列がやつて來ました。早く行つてこの千載一遇の壯觀をごらん下さい」と言ひました。そこで私達は早速飛び出して見たのですが、なるほどその人の言ふ通り、この行列は實に珍妙な面白いものであります。

その祭典は、日本の祭とはその型を全然異にしてゐますが、氣持は互によく似た所があるのであります。そこにはあらゆる職業の老若男女が出て、それが各自の職業によつてそれ／＼に行列をつく

つて行進して行くのであります。しかも各職業ごとに必ず獨特の飾りもの、日本でいふ屋臺のやうなものを引つぱりながら行くのです。例へば煙突屋は煙突屋でその臺の上で煙突掃除の實演をやり、パン屋はパン屋でパンを焼いてゐる、洗濯屋は洗濯を、運動競技の團體はラケットで球を打ち合ひながら、といった具合に各自職業別な飾りものをやつてゐるのでした。

ところで私達一行がその行列を見て特に感じたことは、各行列の先頭に樂隊がついてゐて、一同それに合せて歩いて行くのでありますが、その足並が如何にもよくそろつてゐることでありました。これを以てしても、ドイツ人が如何に音樂を愛好してゐるかが想像されると思ふのであります。

愛國少年の墓 七月十八日——私達は、このリュベックを出發してストラールズンドに到着、更にリュゲン島に向つたのであります。その目的は過ぐる一九三一年共產黨の襲撃を受け、當時十六歳にして斃れた愛國少年ハンス・マロンの墓に詣るためだったのであります。一體ヒットラー・ユーゲントの人々は、一九三三年以前にヒットラーの演説を聞いて「この人の政策を實現することこそドイツの興隆を招來せしむる途である。従つて自分等はたとへ身命を賭してもヒット

ラーに協力し、彼を支持しなければならない。そして共產黨を打倒し本當のドイツをたてなけ

トラーに協力し、彼を支持しなければならぬ。そして共産黨を打倒し本當のドイツをたてなければならぬ！」と考へて、或ひは學業をすて、職業をすてて、相携へてヒットラーの下に走つ



ハンス・マロン・の墓前にて

たのでありました。聞くところによれば、そのため共産黨に殺された青少年は五百人にも達し、負傷をしたものが五萬人を超えたさうであります。然しヒットラー・ユーゲンの人々は敢然としてかゝる壓迫迫害に對抗し、苦闘奮闘を重ねたのでありました。

いまこゝにいふハンス・マロン少年もその一人であります。私達一行は親しくその墳墓を訪れ、今更ながら現ドイツ人がかうした愛國者に對する感謝の念の如何に大なるかに感じ入つたのでありました。その墓たるや、實に堂々たる石造の堂宇で、餘りの大きさに私達一行思はずビツクたる石造の堂宇で、餘りの大きさに私達一行思はずビツク

リしたのであります。しかもその堂の中では、一切が無言の行で、私達は心からなる敬虔の念に

打たれ、祖國ドイツのために斃れたその少年に對し恭々しく花環を捧げたのであります。彼は過ぐる歐洲大戰に父を失ひ、母の手一つで育てられたのでありますが、戦後のドイツが疲弊のどん底に押し倒され、眞に悲惨な状況を見るにつけ、既成勢力では到底この難局を打開することは出来ない、今日ドイツを救ふのは自分達青少年以外にないのだと考へ、ヒットラーの演説に共鳴感激し、母親の反對を押し切つて進んでナチス黨に入黨したのであります。しかし、やがて彼が祖國のために立上つた雄々しい姿は遂に母を動かし、その共鳴をも得るに至つたといふことです。私達は、僅か十六歳の少年なのにも拘らず、祖國ドイツのために貴い命を捧げたといふ一事をもつて、かくの如く堂々たる堂宇をたて感謝表彰の意を表するといふことは、現在のドイツ人がかうした殉國者に對し、地位の上下、年齢の差異を問はず如何に感謝感激の念を抱いてゐるかと思はれ、その心持に強く打たれたのであります。

**海岸保養地** 七月十九日——リューゲン島のザスニッツに建設中の海岸保養地を見に行きました。

た。こゝは完成の暁には收容人員二萬人、これがために常勤する職員五千人に及ぶといふことで、換言すれば一時に二萬人の人に洩れなくベッドを與へ、しかも何等混雜することなく休養させ海水浴を行はせることゝなつてゐるばかりでなく、その上各種娛樂機關を備へて同時に社交場と

水浴を行はさせることゝなつてゐるばかりでなく、その上各種娛樂機關を備へて同時に社交場ともするのだといふ話でした。何しろ一舉にして人口二萬數千人の都市を建設しようといふ龐大な計畫なのですから、これがためには特に専用鐵道まで敷設してあるといふ次第で、遅くも一九四二年までには完成させようとして、目下絶大な努力が傾けられてゐるのでした。なほ聞くところによれば、完成の後には總ての勞働者に開放して、大體一人について八日乃至十日間滞在させるのださうで、しかもそれに要する費用は全國的に平均してみると滞在費に旅費を加算しても一人當僅々二十マークであるといふことを聴き、今更ながらこのアルバイト・フロント（勤勞戦線）の施設について羨望の念を禁じ得なかつたのであります。

## 四 野 營

野營に参加　七月十九日、私達はリューゲン島からストラールズンドを経て、野營地たるプレロウに到着しました。そして二十六日迄八日間この地に滞在し、ヒットラー・ユーゲントの靑少



年數百名と生活を共にし、彼等が特に力を入れてゐる野營による訓練くんれんを親しく體驗することが出来たのであります。次に、この數日間の體驗によつて得た感想の一部をお話しませう。

### 簡易生活

その一つは、先づドイツ青少年の生活が、如何にも簡易かんいであるといふことであります。例へば、その食事の如きも、朝はバター、チーズ、或はヂャムをつけたパンと麥茶だけなのであります。また晝は晝で、數種の野菜のゴツタ煮に、若し朝食のパンが残れば、これを細かく切つて混ぜるといつた節約せつやく振り、夕食はこれまた例の麥茶にバター或ひはチーズを添そへたパンだけで、稀に牛肉の煮込みが供されるといふ具合でありました。とにかくこんな次第で、その質素しつそなことは唯々驚くの外はなかつたのですが、しかもなほ彼等の説明によれば、これで相當量のカロリーを有し、發育盛りの彼等青少年にとつて、決して榮養不足でないと聞き、益々感心させられたのであります。



—ヤイアフ・ブンヤキ

### 規律

次に感じたことは、彼等青少年の野營生活が實にのび／＼としてゐて、見るから氣持よ

規律 次に感じたことは、彼等青少年の野營生活が實にのび／＼としてゐて、見るから氣持よ

ささうに愉快に遊んでゐるが、しかもその反面、規律が頗る嚴格で、彼等自身はその爲すべきことを極めて忠實に實行してゐるといふことでありました。例へばこんなことがあるのです。この野營地はバルチック海に面した松林の中にあるのですが、彼等はよしんば夜間でも、所定の場所以外では絶対に小用を足さない、これは或ひは當然なことゝもいへませうが、私達自身日本に於ける目分達の行動を反省して少からず感心したのであります。實際腕白盛りの青少年が、前を抑へて遠くの便所に駆け出して行く様は、見るからに可憐な感じがしたのであります。

教課 第三は、野營生活中に於ける教育振りでありますが、これは音楽の練習と身體の鍛錬が主なものとなつてをり、毎朝八時には全員注目（ちむ）の裡にハーケン・クロイツの國旗（けい）を掲揚し、それが終ると今度はヒットラー總統の萬歳を高唱し、更にその演説中にある金言名句（きんげんめいご）をそつくりそのまゝ全然説明なしで聞かせるのでした。そして午前中の學習時間に再びこの金言名句を取り上げ、今度は一寸簡単にその説明を行ひ、すぐ音楽、體育等の訓練が施されるのであります。かくて午前の課程（くわてい）が終り晝食が済むと、約一時間午睡（みずい）の時間が與へられ、それから後は水泳なり、或ひは

各種の陸上競技等をやり、なほ午前中同様に音楽等も行ふことになつてゐます。そして更に夕食後は二十人或ひは三十人、多い時には全員が或一定の場所に集つて盛んに音楽をやり、しかもその際再びヒットラーの演説中の一句につき前回よりはもつと詳しく説明するのであります。

従つてかうした一日の生活は、終始一貫音楽による情操の陶冶と身體の鍛錬が企圖され、しかもその間絶えずヒットラーへの忠誠心を涵養してゐるやうに見受けられたのですが、その方法が所謂絆を着せたやうな固苦しいものでなく、指導するといふよりは寧ろ指導者と青少年とが渾然一體となつて、謂はゞ談笑のうちに所期の目的を達しようとしてゐるやうに感ぜられ、私達一同深くこの點について考へさせられたのでした。

**指導精神** 第四には今日ドイツの各方面に強く叫ばれてゐる「ドイツ民族精神は農村に残る」といふ考へ方でした。彼等の言ふところによればヒットラー・ユーゲント當局が、遍く全青少年達に對し毎年夏になると然るべき土地で野營を行はせ、所謂天地自然に接觸せしむるやう多大の努力を拂つてゐるのも、畢竟この指導精神の發露であるといふのです。従つてその野營生活は、前にも述べたやうに出来るだけ僅少の經費で事足りるやう工夫せられ、例へばこのブレローの野

營の如きも、滞在期間十日間の費用に往復の旅費を加算して、それでもなほ僅々二十マルクとい

營の如きも、滞在期間十日間の費用に往復の旅費を加算して、それでもなほ僅々二十マルクといふことでした。

更にこゝで我が日本の青少年運動に對し参考になると思つたことは、ヒットラー・ユーゲント



生 活 體 驗

に屬してゐる青少年は、格別に家庭が貧困でない限り、年額六マルクの團費を齎出してゐるといふことであります。これは自分が利益を享受することには、自ら進んで相當の經費を負擔すべきだといふ氣持がよく現はれてゐると感じたのであります。

ヒットラー・ユーゲントの教育施設は、既に屢々述べた通り實によく行き届いてゐるのですが、これといふのも要するにその費用全部を國家の負擔に仰がず、全團員が進んで分擔してゐることが何より有力な原因であると痛感した次第でした。

目上を尊敬 第五は、野營生活全體を通じて見た場合、ヒットラー・ユーゲントの青少年達が

長上おやうじやうに對して絶対服從ふくじようをすることであり、しかもその禮儀作法れいぎさふはが非常に正しく、且つ目立つて立派であるといふことだつたのです。しかし、それだからといつて指導者が青少年を壓迫おつぱくしてゐるといつた感じは更になく、兩者極めて和やかな氣持で接してゐるので、これでこそ先に述べた通り全部の青少年がのび／＼と、しかも潑刺はつちとして生活出来るのであると思つたのでした。では、なぜかくも規律嚴格きぎつげんかくなのに拘かはらず、しかもなほかくの如き生き／＼とした勞働氣ろうかきが醸かし出されるのでせうか？

私は、それはつまりヒットラー・ユーゲントに屬してゐる者が、お互に「同志」といふ氣持で接觸てつしよくしてゐるからだ、この事がその根柢をなしてゐるためだ、と考へたのであります。それ故彼等はよしんば一週間野營しても或ひは十日間經つたとしても、もつと／＼永く續けてゐたいと思ふといふことでした。

元來ヒットラー・ユーゲントの教育は、學校教育とはその本質を異ことにしてをり、青少年の心中に自然に萌もす希望或ひは欲求よくきうに則のつつて、極めて輕い氣持で、謂はゞ遊びつゝある間に訓練の目

的を達成しようといふのであつて、この點は特に現在の日本の青少年指導者が、よく考へて見る

的を達成しようといふのであつて、この點は特に現在の日本の青少年指導者が、よく考へて見る必要があると思ふのであります。

私も以前我が國に於て、多少かうした生活を體驗してゐたのでありますが、一般に日本の野營生活では、一週間も経過すると、もう皆家が戀しくなり、所謂歸心矢の如くなるのが通例のやうに思つてゐるのであります。それといふのも青少年の指導に當るものが、やゝもすれば餘りに嚴格に過ぎ、また氣輕な氣持で青少年を遊ばせるといふ態度に缺けてゐる爲ではないでせうか。私は、今度親しくかうしたヒットラー・ユーゲントの野營生活を味はつて泌々考へさせられたのであります。

**記念のバッヂ** 七月二十六日、私達一行はこの思ひ出多い野營生活に盡きぬ名残りを惜しみつゝブレロウを發ちました。ところでその出發に際し、私達はこゝの野營所長ともいふべき人から記念バッヂを贈られましたので、それを胸に飾り並居る數百名の青少年に別れを告げたのであります。一體ドイツ人は何か事があると、すぐそれを象徵するバッヂを創つて佩用する習慣があるやうですが、しかしそれはさして高價なものではなく、非常に氣のきいた垢抜けのしたものに感

じられたのでした。なほドイツの青少年達は、私達一行の滞在中「何か記念になるバッヂを買いたい」と懇望し、随分せがまれたのですが、生憎持ち合はせてをらず、折角の希望も遺憾ながら遂に満足させられなかつたのは大いに残念に思ひました。

## 五 東プロシヤの旅

愛兒を旅に さて同二十六日思ひ出多い野營地を發足した我々は、二十七日スウイネムンデより船に乗り、次の行程である東プロシヤへの旅についたのであります。そしてその夜は船中に一泊、翌二十八日ピラオに入港し、即日東プロシヤのケーニヒスベルヒに到着、それより八月四日まで八日間に亘り東プロシヤ各地を旅行したのであります。ところで現在ヒットラー・ユーゲントではその青少年達に對して盛んにこの東プロシヤ旅行を奨励してゐるのでありますが、それは次に述べる三つの頗る重大な意義が含まれてゐると思はれたのであります。即ち、その一は、現在のドイツ人は、例のベルサイユ條約がドイツにとつて極めて不合理である、と考へてゐるの

で、その不合理さを青少年達に對し徹底的に知らせ、他日如何にしてもこれを是正しなければならぬといふことを深くその腦裡に印刻せしめようとするため。

その二は歐洲大戰に際し、敵軍がドイツに侵入した唯一の地域はこの東プロシヤである。即ち一九一五年ロシアの大軍がこの方面に殺到して來たのを、ヒンデンブルグ將軍が寡兵よくこれを撃破しドイツの所謂光輝ある戦ひをなしとげたのであつた。そこで青少年達にこの地方を見學せしめ敵兵の自國への侵入が國民に對しどんな慘害を與へるかを追想させると共に、ドイツ軍が露軍を撃退したといふ事實を知らせ、それによつて青少年の愛國心を昂揚させようとするため。

その三はヒットラー・ユーゲントの青少年が、常に東西南北に互つて各地方を旅行し、それぞれの土地の實情を詳かに知ると共に相互に交驩することは、今日ナチス政權が内政上最も苦心をはらつてゐる國內統一、人心融和の上に頗る役立つといふことのためなのであります。

かうした理由から青少年の東プロシヤ巡歴が獎勵されてゐるといふわけなのですが、そのためか、話によれば昨年夏の如きは、男子一萬五千名、女子一萬七千名にも及ぶ青少年旅行者があつたといふことです。



なほ、かうした旅行者の便利をはかるために、ドイツ本土と東プロシヤの間には、約二千人を收容し得る連絡船が建造されてをり、また東プロシヤ各地には青年宿泊所があつて、全ドイツから集つて來た青少年は、その旅行中所謂ボーランド廻廊に接する地方や戦跡等を巡歴し、夫々各地に於て現地講話を聴取し、それによつて愛國心の涵養に資してゐるのであります。またその旅行が終ると、これ等の青少年は自分等の感想を綴り、更に自分で撮影した寫眞等を加へて旅行記を作ることが例となつてゐますが、その作品の立派なものには賞品が授與されるといふことでもあります。

**カントの遺跡** 東プロシヤに於て私達一行の見學した個所は相當に多かつたのでありますが、次に日程に従つてその主なものを擧げることと致します。

先づケーニヒスベルヒに到着した日、即ち七月二十八日には、世界的哲學者として有名なカントの遺跡を訪れ、その遺品や彼が生前親しく教鞭をとつてゐた學校その他を見學しました。遺品中には彼の自筆になる手記や書簡等があり、また友人と共に飲み交はしたといふ酒杯なども残つてゐて、哲人カントの在りし日を髣髴せしむるものが頗る多かつたのであります。

てゐて、哲人カントの在りし日を髣髴せしむるものが頗る多かつたのであります。

英語の押賣　その翌日は、ノイクレーンにある陸軍の飛行學校及び飛行聯隊を訪問しました。

大體、今日ドイツでは、時局柄かうした場所は所謂禁止區域として、一般人には勿論ベルリン駐劄の各國武官等に對してすら、視察する事を嚴禁してゐるのでありますが、私達一行だけは特別待遇で、遠い所をよくやつて來たとばかり、その日は特に所屬の將校全部が所定の日課を休んで、大々的歓迎をしてくれました。

ところで、その時午餐の席上で、一寸可笑しい一幕のユーモア劇が展開されたのでした。といふのは、その聯隊長が偶々私達一行に對する歓迎の辭を述べるについて、「私は英語でお話したいと思ふのですが、如何でせうか」と言つて來たのです。で私は「私達は日本の青少年を代表して特に盟邦たる貴國をお訪ねしたのですから、甚だ勝手ですが貴下のお話は是非ドイツ語でお願いいたしたいと思ひます。勿論、私は日本語で答辭を申し上げる考へでをります。尤もお互に言葉の意味が諒解出來ないと困りますから、通譯を使ふことと致しませう。幸ひ私達一行の中にはドイツ語の達者な者がをりますから、若しお宜しければその者にやらせては如何かと存じます」と答へました。するとその聯隊長は更に「お話はよく判りましたが、私は是非英語でやらし

て戴いたきたいのです。實は聞けば、日本の中學校では全部英語を必須科目としてをり、また高等學校も英語を主要な科目としてゐるといふことなので、従つて貴下方への歡迎の言葉も英語でなければならぬ、と考へたのでした。それで私は學校を出てからも二十年近くにもなり、英語も殆んど忘れてしまつたのですが、折角遠來の貴下方を歡迎するのだからといふので、二晩徹夜の上苦心さんたん慘憺の結果、やつとこの草稿ごうかうをつくり上げたのであります。ですからもしお差支へなかつたなら、どうか英語でやらして下さいませんか」「いや、それならどうぞ英語で」といふことになつたのでした。しかしかうした一事をみてもドイツ陸軍當局者が、私達一行に對して如何に眞剣な好意を寄せてゐたかゞ徳いばれ、その後も思ひ出す度に感激の念を禁じ得ないのであります。

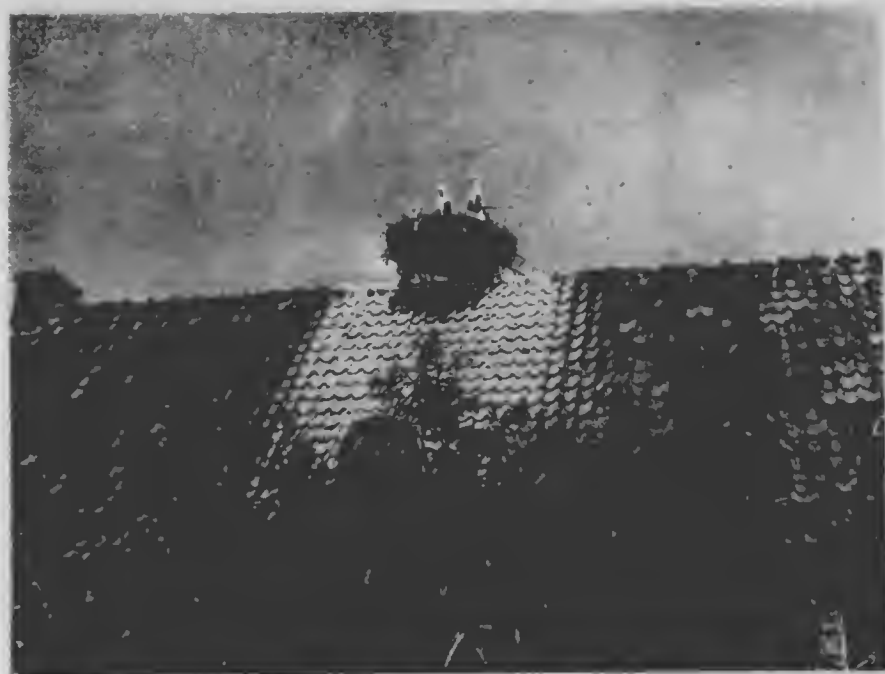
親ごころ さて、ノイクルーレン飛行學校の見學を終つた我々は、引續きその日の中に克蘭ツといふ所に赴おもむいたのであります。そこは片田舎の小さな町ですが、たゞこの地方でも有名な海水浴場があるので、折から炎暑えんじよの候とて、その時も各地方から集つて來た避暑客で非常な賑はひを呈してゐたのであります。ところがその群集の中に一際私達の目にとまつた不思議な婦人がゐた

呈してゐたのであります。ところがその群集の中に一際私達の目にとまつた不思議な婦人がゐた

のです。一見四十五六と思はれる年輩ねんぱいでしたが、私達派遣團員を見かけると腕うでをとらへて署名しよめいしてくれとせがむのですが、それが熱心の程度をこえて寧ろ少し執拗しつこい位なのです。でこれにはきつと何か理由わけがあるに違ひないと思つて、「貴女はなぜ私達三十名全部の者の署名が貰ひたいのですか」と聞きますと、果せるかなその婦人の返事は非常に興味深いものがあつたのです。その婦人は私達に對し親愛の情を双頬さうけほに湛たみへながら「實は私の子供が今度貴國をお訪ねするヒットラー・ユーゲントの一行に加はつてゐるのです」と言ひながら、懷中いしよから一葉いちえふの寫眞を取り出し、「まあこれを御覽下さい。私の主人は七月十二日ブレーメンに子供の出發を見送りに行きました、が、その時撮とつたのがこの記念寫眞なのです。もう間もなくあの子も日本に到着するでせうが、さうしたら私は今皆様から戴いたこの署名を私の手紙と同封して送つてやりませう」とのことです。私はこの言葉を耳にして、國こそ異ことなれ子を思ふ親の心は世界中何處に行つても同じだ、と考へその優しい氣持に深く打たれたのであります。その翌日私達一行が同地を出發しようとする時にも、このドイツ婦人は早くからやつて來て、碧あわい眼に涙を浮べて別れを惜しんでゐました。

### 敬虔な所長

この日私達はそこから更に進んで、ロヂッテンといふ村にある世界的に有名な渡



クロツチの候島研究所

り島（候島）の研究所を見學しました。ドイツの地圖を見ると、東プロシヤのバルチック海に面した沿岸に丁度象の鼻のやうな細長い半島がありますが、それは日本の天の橋立を何百倍、或ひは何千倍にもしたやうな砂丘の連続で、その中には一つの湖を抱き込んでゐるのです。このロヂッチンといふ所は砂丘上の一地點であつて、そこは春秋の氣候の變り目に、ロシヤ或ひはスエーデン等の寒い國と南歐の暖い國との間を往復する渡り島の移動コースに當つてゐるのであります。従つてそこには熱心な學者がゐて、集つて

つてそこには熱心な學者がゐて、集つて

來る種々様々の鳥類について具にその習性を研究してをり、聞くところによれば、今日まで既に

世界の學界に幾多の貴重な業績を貢獻したといふことであります。

問 題 の 國 境 地 帶



しかしそれとは別に私達を深く考へさせた事があつたのです。それは先づこの交通不便な邊鄙の一寒村、しかも冬になると氷點下何十度といふ場所で、何等の不平不満も抱かず孜々として研究にいそしんでゐる研究所長某博士の、眞に徹底そのものともいふべき氣高い姿だつたのでした。それからこゝで、も一つ氣づいたのは、この研究所長の官舎が實に堂々たる大建築であると

いふことです。話が少し傍き路へそれますが、今日我が國に於ても各帝國大學はそれぞれ各地に

臨海實驗所と稱するものを持つてをり、それ等は何れも大體に於て僻地にあるので、恰もこのロヂツチンの渡り鳥研究所を偲ばせるのでありますが、附設の官舎に至つては、たゞ單に住むに足るといふだけで、これとはてんで比較にならないのであります。とにかく生活を樂しませ得るだけの充分な設備は残念ながらまるで見られないのですが、ドイツがロヂツチンに建設した所長の官舎の如きは、到底我が國では想像も及ばないやうな大規模なものであります。かうした實情を目の邊りに見るにつけ、我が國に於ても遠隔の地にあつて、幾多の困難と戦ひつゝその職を奉ずる人々の官舎は、かく完備したものでありたいと痛感しました。

**問題の國境** ロヂツチンの渡り鳥研究所を見學した私達は、すぐその足で今度は北緯五十六度に近いドイツ最北の都市チルヂットに向ひました。この町は人口約六萬で、有名な人絹工場のある所なのです。そして更に車を進めてリトアニアとの國境線に赴き、そこに立つて親しくドイツとリトアニアの國境線の狀況を見學しました。この地點は、歐洲の政局に重大な影響を投じつつある所謂メーメルランド問題の火元です。メーメルランドは現在リトアニア領に屬してゐますが、同地方の人口約四十萬のうち、その七、八〇パーセントはドイツ人で、しかも主としてドイツ語

同地方の人口約四十萬のうち、その七、八〇パーセントはドイツ人で、しかも主としてドイツ語

が使用されてゐるのであります。チルヂット市とメーメルランドとの國境は一つの大きな河で、案内者の説明によれば、この河にかゝつてゐる橋の中央が兩國の國境になつてゐるといふことでした。で、私達はその地點に立つて親しくドイツとメーメルランドとを比較展望しました。ところが一目見ただけで兩者の相違をはつきりとのみこむ事が出来たのです。即ちドイツ側は産業が殷賑を極めてをり、見渡す限りどの煙突も濛々たる煙を吐き出してゐるのに、メーメルランド側に眼を轉ずると、これは全然反對で、眼に映ずる工場はどれもこれも事業を停止してゐるのではあるまいかと思はれる程ひっそり閑と静まりかへつてゐるのです。なほ面白いことには、メーメルランドには森林が多いので人絹工業に要する原料が極めて豊富なのですが、ドイツ側ではこの手近な原料には全然手を觸れず、遠く大西洋を隔てたカナダから輸入してゐるのだといふことであります。これに關しドイツの案内者は「現在ドイツは現金を持つてゐないから、外國品を輸入するには所謂物々交換によるより他に方法がないのである。しかるにメーメルランド側は、目下ドイツから購入したいものは何一つとしてないと言ひ、それに現在各方面に於てドイツ、リトアニア間には意志の疏通が缺けてゐるため何かにつけて圓滑を缺き、従つて面倒とは知りつゝもか



うした手敷をかけてゐるのである。こんなわけだから、メーメルランド問題の圓滿解決は、現在の我がドイツにとつて、正に急務中の急務であるといはねばならない」と言ひ、更に口を極めてベルサイユ條約の不合理なる所以を論難してゐたのであります。

そこで私達一行は、更にその河に沿つて兩國の國境線を詳細に觀察し、或ひは小高い所に登つては、實地につき彼等が所謂「不合理なる國境」と稱する理由の徹底的な説明を聞いたのでした。

日本人と英語 その夜、チルヂットの市長は、私達一行のため歓迎の宴を催し、心からなる歡迎の意を表されたが、その席上またまた滑稽な笑ひ話がありました。その一つはこの市長さんに關すること、同市長はベルリン大學を卒業し、現にドクトルの學位を持つてゐるさうであります。私達一行に對して歓迎の挨拶を述べることとなつて、一體ドイツ語で話した方がよいか或ひは英語にすべきか、大いに頭をひねつた、といふことであります。そして結局「日本人には英語でなければ判るまい」といふので英語でやることに意を決したのださうですが、氏も亦先に述べたノイクーレンの飛行聯隊長同様學校を卒業後既に二十年近くにもなり、當時習ひ覺えた英語も今は殆んど頭から抜けてしまつてをり、その原稿を作るのに並大抵の苦勞ではなかつたといふ

ことでした。しかしそれにも拘らず私達が「是非ドイツ語で」と懇望したところ、市長は却つて

も今は殆んど頭から抜けてしまつてをり、その原稿を作るのに並大抵の苦勞ではなかつたといふことでした。しかしそれにも拘らず私達が「是非ドイツ語で」と懇望したところ、市長は却つて非常に喜んで即座にその苦心の結晶ともいふべき英文の原稿を棄て、ドイツ語で熱誠溢るる挨拶の言葉を述べたのでした。で私はそのあとで同氏を捉へて先に述べたノイクルン飛行聯隊長の一幕を話しますと「なる程、世間にはよく似たことがあるものですな」と言つて腹を抱へて笑つてゐました。

**チーズの食傷** それから、もう一つ面白かつたのは晚餐後の出来事でした。大體ドイツでは食事の最後にチーズを出すことが一般の習慣となつてゐるので、これは丁度日本人が漬物を食べるのと同じく似てゐるのでありますが、この時もその例に洩れず、市長は私の前に數種のチーズを持つて來て、頻りに奨めるのでした。で、私はそれ等のチーズを少しづつ食べて見ましたが、いづれも素晴らしくおいしいので私は思はず「これは大したものですね、實にうまい」と感謝しました。すると市長は我が意を得たりといはんばかりに會心の笑を浮べ、大きく頷きつゝ「それはさうでせう、このチルヂットはドイツでも有數なチーズの産地なのですから。しかしそれはそれとして、遙々日本からおいでになつた貴下からかうしたお褒めのお言葉を戴いたことは、チルヂッ

トの市長として實に喜びに堪えません。さあさあ、どうぞ御遠慮なく澤山召し上つて下さい」と言つてしきりに勧め、どうしても食べると言つてきかないのです。しかし既に一通り食事を済した後のことですから、いかに勧められても、もうお腹が一ぱいでそれ以上はとて入りません。が市長は私の悲鳴などは少しも耳に入らず、さあおあがり、もつとおあがり、とばかりなほその手をゆるめず、さては「ビールを飲みさへすればチーズはいくらでも食べられるものです。若しチーズが澤山だとおつしやるなら、どうぞビールを召し上つて下さい」と言ひ出す始末に、私はもうこの餘りにも盛んな歡待ぶりに、とうとう腹を抑へて降参してしまつたのでした。

**人馬心を合せ** 明くれば七月三十一日。私達一行はトラケーネンに赴き、同所にある國立種馬所を訪れたのでありますが、そこでは實に見るからに立派な馬を、次から次へと曳いて來て見せてくれたのでありました。しかもその馬を曳いて來る調教師達が、これまた實に颯爽たる服裝をまといつてをり、殊に私達一同思はず感歎の吐息を洩らしたのは、これ等の調教師が馬と共に駆足で私達の前に出て來る際、その歩調が全く馬と人意氣相通するかと思はれるくらゐピッタリ揃つてゐたことでした。一體ドイツの人々は、往來を歩くとき皆自らその歩調を合せてゐるので、

これには祕かに感心してゐたのでありましたが、今この馬と人との歩調までが揃つてゐるといふ

揃つてゐたことでした。一體ドイツの人々は、往來を歩くとき皆自らその歩調はつてうを合せてゐるので、これには秘かに感心してゐたのでありましたが、今この馬と人との歩調までが揃つてゐるといふ事實に直面し、私達一同はとても我が國ではこんなことは見られないといつて、吃驚びっくりしたのであります。さてその見學が終ると、私達一行は更に車を進めてロミンテンハイデにあるゲーリング空相の狩獵場しゆれつばうを訪れ、即日アングバルクに到着しました。

**氷河の跡**　そして八月一日、私達は一夜の名残りなごりを惜しみつつも、先の道を急ぐ身の早々に同地を出發し、東プロシヤの中部地方に横たはる湖水を横斷して、晝頃には早くもレッチエンに着いたのであります。聞くところによるとこの地方の湖水はその昔氷河ひやうがの作用によつて出来たものといはれ、そのためかとにかく非常に深いのであります。そしてこの湖水は所々森の影にかくれて見えなくなつてゐるが、しかもなほ何處までも果しなく續いてゐることを話されたのであります。一見湖水の存在ふたを認め難いやうな地勢ちせいをなしてゐるこの地方こそ、過ぐる一九一五年ロシアの大軍をその水底に追ひ込んだといふ曰く附きの戰蹟なのであります。レッチエンには現在要塞えんさきが構築こうちくされてゐるのですが、ちよつと見ただけでは何等それらしい様子もなく、唯小高い丘かみしか思へないのであります。ところで私達一行は特別の好意からこの要塞えんさきの見學が許され、しかも

そこには特に現役將校が派遣されてゐて、歐洲大戰に於けるマヅールの戦鬪の現地講話を聴きました。

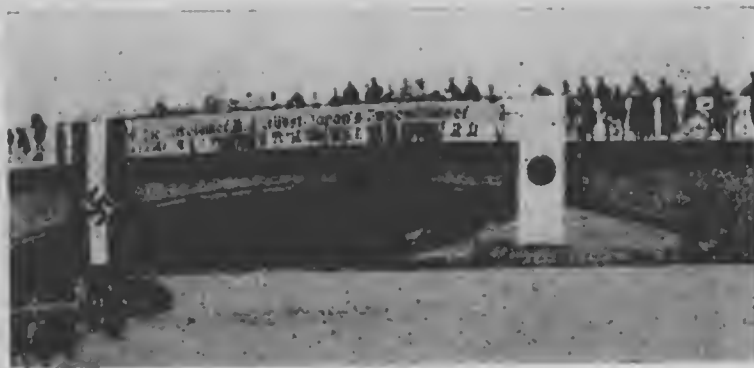
**印象的な歓迎** 私達はこのレツチエンで晝食をしたためた後、

再び船上の人となり、小波を蹴けつて湖水を航行すること二三時間、ニコライケンと稱する町を通過しました。ここは湖水の幅が著しく狭く、兩岸にまたがつて大きな橋がかかつてゐるのであります。

ニコライケンの歓迎

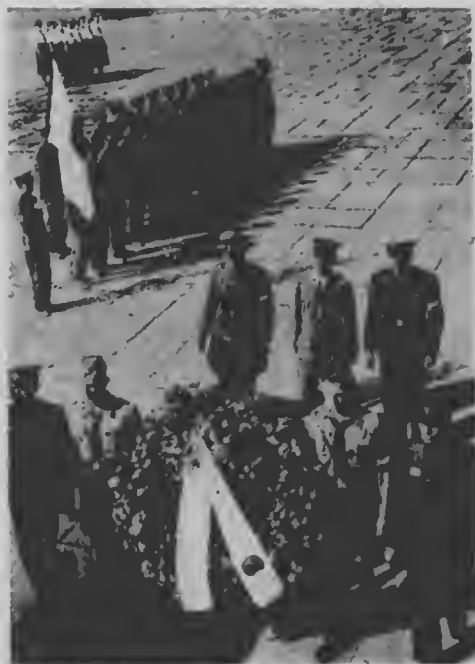
ところがその土地のヒットラー・ユーゲント達は、豫め私達一行がそこを通過することを知つて、その橋の兩側の手摺てすりりに『大日本青少年ドイツ派遣團歓迎』とドイツ文字で大書した長さ約二十メートルもあらうかと思はれる布を張りめぐらしてゐたのでした。實際この文字は遠くからもその橋に近づいて行つた時にも、また橋の下をくぐつて向ふ側に出た後も、ずつと私達の眼に映うつじて非

常に印象的だつたのであります。しかもその橋の上には澤山の人々が群をなして集り、私達に對



して聲を限りて萬歳を連呼れんこしてゐるので、この有様に私達はもう嬉しさで胸が一杯になつて了つ

常に印象的だつたのであります。しかもその橋の上には澤山の人々が群をなして集り、私達に對して聲を限りに萬歳を連呼<sup>れんこ</sup>してゐるので、この有様に私達はもう嬉しさと胸が一杯になつて了つたのでした。かくする中に船は愈々湖水を進んでニーデルゼーの埠頭<sup>ふと</sup>に着きました。そして、私達はここで愉快な湖水廻りの船旅に終りをづけ、その日はそこに泊つたのであります。



大戦記念碑に花を捧ぐ

場タンネンベルグに赴<sup>おもむ</sup>き、幾多の大戦物語に耳を傾けまた親しく同地を見學し、更に一同打揃つて大戦の記念碑<sup>きねんひ</sup>に花環<sup>はなわ</sup>を捧呈<sup>ほうてい</sup>したのでした。この記念碑は現在ドイツ人の胸中に宿る數多い大戦當時の追憶<sup>つゐぐ</sup>と、そして參戰勇士に對する限らない感謝の念を如實<sup>じよじつ</sup>に具現<sup>ぐげん</sup>したものであると考へる。

### 大戦記念碑 八月二日——私達一行は、

ニーデルゼーを出發して更に自動車をか  
り、過ぐる一九一五年八月二十六日から  
同三十日にかけて、ヒンデンブルグ元帥  
麾下<sup>きさ</sup>のドイツ第八軍が、サムソフ大將  
の率<sup>ひき</sup>いるロシア第二軍を包圍<sup>はうゐ</sup>攻撃し、こ  
れに殲滅<sup>せんめつ</sup>的打撃を加へた歐洲大戦の古戦

のでありますが、實際日本では到底見る事が出来ないと思はれる程、規模雄大なものだつたのであります。即ち私達が普通に考へてゐる記念碑なるものと、それに謂はゞ戦争博物館を合併したやうなものであつて、人々はここに参拜し、またこれを見學することにより、直ちにこの地方に繰り展げられた激戦の全貌を如實に認識し把握することが出来るのであります。そこで私達はその見學が終ると再び車上の人となつて、その日の宿泊の豫定地たるアレンスタインに向ひました。

**好意の砲火** 翌八月三日、ドイツ陸軍は、私達一行のため特にこのアレンスタインに於て壯快極まる演習を實施して見せてくれました。ところでその演習のことを述べる前に是非話したい一事があるのです。といふのは、昨年は全ドイツを通じて、一般に非常に豊年で、現にこのアレンスタイン地方の如きは、平年の三倍の收穫があつたといはれた程でしたが、さて、今日のドイツにとつてこれ等の農作物を完全に收穫するといふことが、先づ何をおいても最大の重要事なので、その時にも例のアルバイツ・ディンスト（勤勞奉仕團）は勿論のこと、軍隊も學生も、或ひは生徒も指導者も凡そ元氣潑刺たる少壯男子は悉く農村の手傳ひに行つてゐて、全く猫の手でも借り

徒も指導者も凡そ元氣瀟々たる少壯男子は悉く農村の手傳ひに行つてゐて、至く猶の手でも借り

たいといふ程多忙を極めてゐたのでありました。従つてかうした最中にあつてわざわざ陸軍の演習を実施することは、それ自體が既に非常に大きな負擔だつたのであります。が、それにも拘はらず私達一行のためかうしたあらゆる犠牲を顧みず、特別な好意を拂はれたといふことは全く感激の他なかつたのであります。

さてその演習ですが、これ亦私達にとつて極めて興味深いものだつたのです。大體私達の経験では、例年日本の各地で執り行はれる大演習の際など、敵味方双方とも盛んに大砲を發射し合つて、所謂砲聲殷々として天地を震撼してゐるのでありますが、何といつてもこれらはみな空砲であるため、何れも音ばかり物々しく肝腎な相手の陣地には何等の影響もなく、結局一般觀戰者にとつては果して敵彈がいづれの地點に落下したのか、てんで見當がつかないといつた有様で、とにかく頗る頼りなく感ぜられるのが通例なのであります。ところがこのドイツ陸軍が特に私達一行のために實施してくれた演習では、よしんば相手の砲彈が空砲であつたにせよ、その落下爆發の狀況を如實に示すため、豫め落下點とおぼしき個所に特殊の裝置を施して置いて、敵陣地に砲聲が起り砲煙が上つて暫くすると、今度は味方の陣地の或る地點でこの裝置が爆發するのであり





ます。尤も平素の演習がみなさうであるかどうかは判りませんが、私達觀戰者は、この爆發裝置のおかげで特に實戰そのままの緊迫した氣分を味ふことが出來、非常に興味深く印象的でありました。



女子青年に國をてれ

女子共同宿舍 八月三日にはギルゲンブルグにある女子アルバイ

ツ・ディンストのラーガー（共同宿舍）を見學しました。こゝには

女子青年四十名を收容する設備があり、指導者七名、女子アルバイ

ツ・ディンスト三十三名がゐて、その附近の農家に手傳ひに行き色

々の世話をするのでありますが、さうした奉仕は大體午前中四時間

程度で、午後になるとそれ／＼體育、音樂、手藝等によつて女子と

しての體位の向上、教養の増進、情操の陶冶が圖られることとなつ

てゐるのであります。即ち女子青年に對して特にこのアルバイツ・ディンストを課する所以のも

のは、要するに「良妻・賢母たるの素地を育成することが目的である」といふのでありますから、

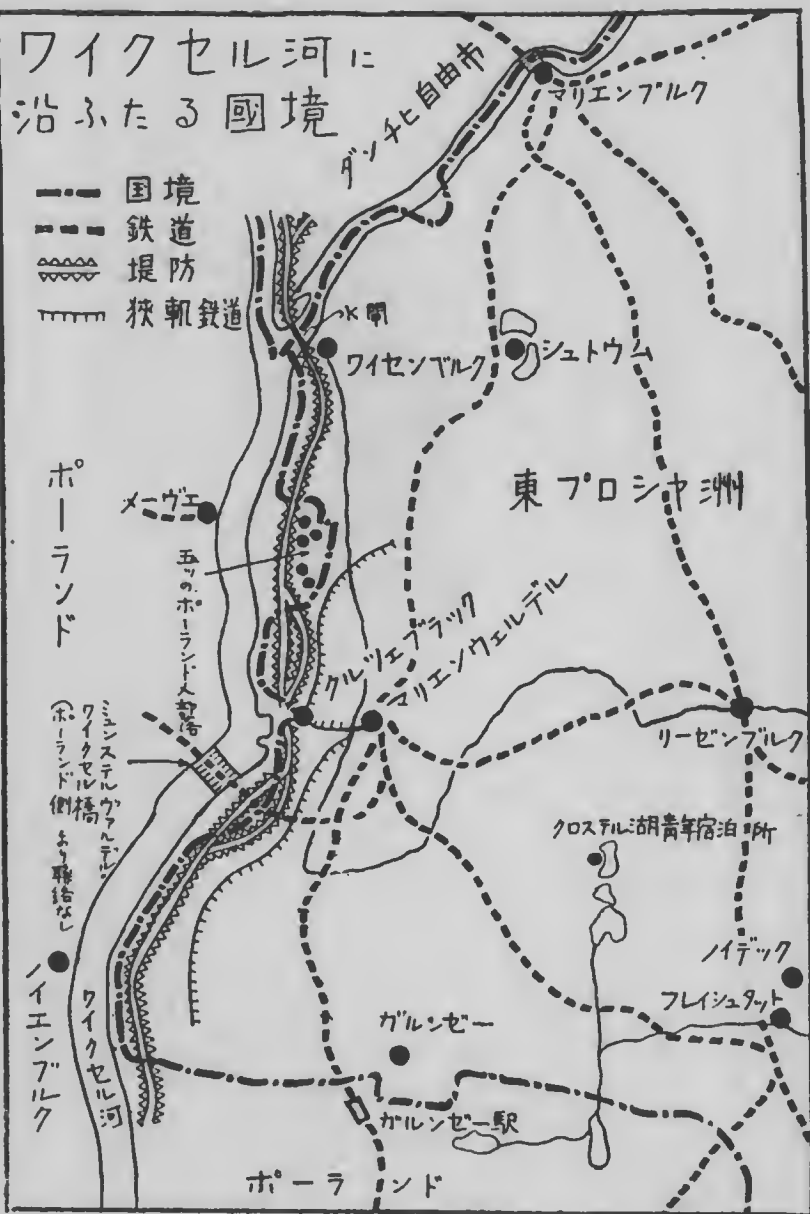
單に勞働だけを以て女子のアルバイツ・ディンストなりと考へることは全然誤りなのであります。

それは飽くまでも一つの教育機關と見るべきで、従つて建物も設備もかうした教育としての見地にふさはしいやう工夫されてゐるのであります。

現在東プロシヤにはかうした女子アルバイツ・デインストのラーガーが四十餘箇所もあり、そこには全ドイツから集まつて来る女子青年達が泊つてゐるのでありますが、しかもこれらのラーガーはいづれも國境線に沿ふて建設されてゐるのであります、これは先に述べました男女青少年に對する東プロシヤ旅行を奨励することと思ひ合せ、非常に意味が深いやうに考へられたのであります。

**不合理な國境** その見學がすむと、私達は更に進んで、所謂ポーランド廻廊に添ひ、ドイツとポーランドの兩國を區劃する國境線の情況を詳細に視察しつつ、マリエンブルグに到着しました。實際この旅行では、途中到る處で車を止めさせられ、彼等ドイツ人が「不合理な國境」と稱する理由を親しく實地に就いて説明されたのであります。次にその様子をありの儘にお話しませう。

先づ私達がなるほど感じたのは、ドイツ領とポーランド領の間を流れるワイクセル河を中心とする國境線なのであります。大體かかる地形の處では、その河流の中心線を以て國境とするの



が通例となつてゐるやうに考へられるのですが、ここでは國境線が河を越えて遙かドイツ側に侵入してをり、或所は堤防の中腹に、また或場所では堤防の上に設定され、所に依つては更に相當



標界境國三ダ・波・獨

深くは入り込んでゐるのでした。ところが皮肉なことには、ポーランドに對しこのドイツ領と同様の位置にあるダンチツヒ自由市との間はワイクセル河の中央を國境としてゐるのであります。とにかくかうした實情なのでから、今日ドイツ人が頻りにその非を鳴らして憤慨するのも蓋し無理ではないと思はれました。なほ東プロシヤ側に深く食ひ込んでゐる處では、ドイツ人の住宅の裏側二メートルの地點、道路の傍にある溝の真中、或ひはその片側といった際どい處を國境線としてをり、甚だしきに至つては或ドイツ人の家屋の周圍に幅約二メートル位のポーランド領が設定されてゐるといつた有様で、一體如何なる必要からこんな事をしたのか、その理由は聞くこと

は出来ませんでした、とにかくその家屋は全然使用不可能の状態なのであります。若しドイツ人が強いてそこに住むとなれば、家の出入りには一々旅券りょけんを持つて幅二メートルのポーランド領

を通過しなければならぬといふわけで、私達一同全く開いた口がふさがらなかつた次第であります。

よくは判りませんが、ドイツ宣傳省では、この地方に特に係員を駐在せしめ、全ドイツから集つて来る男女青少年に對し、これ等の點を一々詳細に説明し、納得なつとくさせてゐるやうに思はれたのでした。實際私達は或場所でかうした駐在員の説明に耳を傾けてゐるヒットラー・ユーゲントの青少年達を見掛けたのでありますが、彼等がこの實情を示されて如何に悲憤慷慨ひふんかうがいしてゐるかは、はたの眼にもまさまざと認められたのであります。



マリエンブルグを出發

青年宿泊所

八月四日——この日私達は、愈々東プロシヤに別れを告げ、ベルリンに歸還きざんする

ことになつてゐましたが、その朝マリエンブルグにある新築早々の青年宿泊所（ユーゲント・ヘヤベルグ）を訪問しました。この建物は、全ドイツに於ける青年宿泊所の中最も新しいもので、

その設計の如きも特にヒットラー總統自身が筆を加へられたとさへいはれ、最も新式の謂はゞ理想的の宿泊所なのであります。收容人員は約六百人で、若し屋根裏まで利用するならば一千人迄は宿泊せしめ得るといふことであります。それに色々の設備も實によく行き届いてゐて、殊に炊事場の如きは最新式の文化的器具が遺憾なく配置してあり、また希望によつては自炊も出来るやうに設備されてゐました。



遊 し い 腕

**宿泊所の經營** それにも増して、私達がもつと感心

したことは、こんな大きな建物にも拘はらず、こゝに勤務してゐる管理人が僅か六名——即ち寮長並びに助手各一名、炊事婦四名——で、しかもこれで充分こと足りてゐるといふ素晴らしい經

營<sup>えい</sup>ぶりであります。それといふのも要するにここに宿泊するヒットラー・ユーゲントの青少年達  
が何事も自分の事はすべて自分ですといふ方針<sup>はうしん</sup>で、部屋の内外はもとより、建物の外部に至る  
迄、自ら進んで掃除し、ベッドの始末も他人の手を借りることなく、殊に女子青少年に至つては、  
自分自身炊事場に出かけて行つて或ひは馬鈴薯<sup>はれいしょ</sup>の皮をむいたり、人蔘<sup>にんじん</sup>を刻<sup>き</sup>んだり、食器の後始末  
を引き受けるといった具合に、萬事を宿泊者自身が處理<sup>しゅり</sup>してゆくからなのです。私達はこれを見  
て、日本青年館あたりにやゝもすればお客様然として泊る我が國の青少年宿泊者のことを顧<sup>かへり</sup>み、  
深く考へさせられたのであります。それにつけても若し今後日本に於て、青少年のための宿泊所  
を設立するやうな場合には、このヒットラー・ユーゲントの青年宿泊所<sup>ユーゲント・ヘテルグ</sup>の如きは、大いに参考と  
すべきであると思ふのであります。

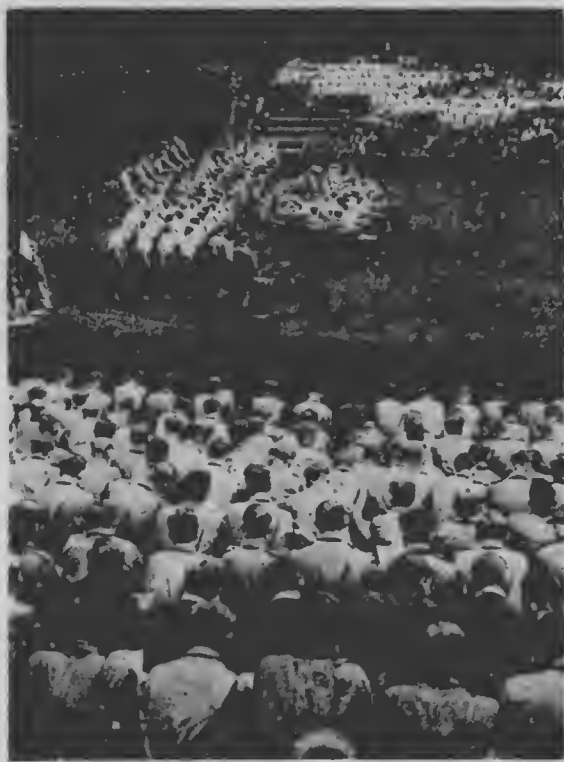
## 六 無名戰士の墓

再びベルリンへ マリエンブルグの宿泊所の視察を終へた我々は、即日再びベルリンに舞ひ戻

りました。これは私達一行にとつて二度目のベルリン訪問で、それから十二日まで八日間同地に

再びベルリンへ マリエンブルグの宿泊所の視察を終へた我々は、即日再びベルリンに舞ひ戻

りました。これは私達一行にとつて二度目のベルリン訪問で、それから十二日まで八日間同地に滞在してゐたのであります。ところでこの間には色々な行事がありました。その中主なものは



ベルリンツラトゥーゲントンの外野合唱

先づ六日にブストラウに行つて同所にあるアルバイツ・ディンストの營舎や附近の農家を見學したこと、九日ヒットラー・ユーゲント本部でヒットラー・ユーゲントに關する講話を聽いたこと、十日在留邦人の主な人々、大使館員、陸海軍武官等からドイツの各般の事情に關し講話を聽き、またラヂオの展覽會を見物したこと、十一日日獨協會長フェルスター海軍大將招待のお茶の會に出席したこと、十二日ベルリンの無名戰士の墓に花環を捧呈したこと等であります。次にその中の一、二について少しお話しませう。



合唱隊 先づ第一にお話したいのは、前述のフェルスター大將招待のお茶の會であります。その會場は歐洲大戰前まではウィルヘルム二世の御所有であつた一種の離宮の様な所で、私達一行はその廣い芝生でベルリンの青少年達と一緒になつたのでありますが、この日集まつたドイツ側の青少年はベルリン全市から選り抜いた音楽に堪能なものによつて組織されてゐる合唱隊が中心となつて總數二、三百名にも達したのであります。話は傍道へ外れますが、このヒットラー・ユーゲントの合唱隊は既にドイツでも廣くその名を知られ、ラヂオ等を通じて一般青少年に親しみを持たれてゐるものだといふことでした。これ等のドイツ青少年は我々日本側青少年代表一行を圍んで圓陣をつくり、得意の歌を高唱して我々を歡待し、實に何ともいへない和かな風景を展開したのであります。なほこの有様はラヂオによつて各方面に中繼放送までされたのであります。

さて、この歌が終ると引續き日獨相互に入り交つて色々な遊戲に打ち興じ、その間日獨協會の好意でお菓子やアイスクリーム等の接待を受けたのでしたが、彼等ドイツ側青少年は私達が食べ終るのを見ると、今度は自分の分を半分にしてすゝめるといつた具合に、眞に心から打融けてゐ

たので、私達一行の感激は誠に申すべき言葉もない程でありました。實際この明朗な有様に、當

終るのを見ると、今度は自分の分を半分にしてみようといつた具合に、眞に心から打融けてゐたので、私達一行の感激は誠に申すべき言葉もない程でありました。實際この明朗な有様に、當のフェルスター大將の喜びはもとより、我が陸軍武官大島中將、海軍武官小島大佐、神田書記官その他日獨双方の出席者悉く抑へきれぬ喜びに「これこそ眞の日獨青少年交驩である」と感激したのであります。これは後で聞いたことではありますが、その日フェルスター大將と同じ自動車で歸つた小島大佐の話によれば、同大將は小島大佐に對し「こんな嬉しいことはない。かういふ風に純眞潑刺たる青少年を通してこそ、本當に日獨兩國の親善關係を促進し得ると感じた」と述懐されたさうであります。

**護國の英靈** 八月十二日、無名戰士の墓に花環を捧呈した時のこともまた、忘れ難い思ひ出の一つとなつたのであります。これは外國人が公式にドイツを訪問した場合には、大體いつも行ふ儀式でありまして、私達一行も最初にベルリンに到着した際行ふ筈でしたが、ドイツ側の都合で延期となつてゐたのであります。その日私たち一行は沿道を埋めるベルリン市民の歡呼を分けながら、先頭に大きな花環を捧げつゝ、墓所の前に堵列したヒットラー・ユーゲント一行の出迎へを受け、ベルリン在住の日本人小學校の生徒參列のもとに、極めて嚴肅裡にこの花環を捧呈し、

護國の英靈に心からなる敬意を表したのであります。

その時私達の痛感した事は、先日東プロシヤのハンス・マロンの墓に詣でた時もさうでありましたが、ドイツでは國家に貢獻した人々に對し全國民齊しく如何に絶大なる感謝を捧げ、如何にその功績を稱揚してゐるかといふ一事であります。聞くところによればこの風潮はナチスの天下となつてからは一層盛んになり、現に今日ドイツ全土到る所これ等の功勞者に對する表彰碑、感謝のための施設等が見られるに至つたといふことで、かうした話を耳にするにつけ「かくてこそ一般國民がかくまで國家に報ずるのである」と考へたのであります。

## 七 アルバイツ・ディンスト

嬉々と勞働 第二回ベルリン滞在中私達一行は今や全世界注目の的となつてゐるアルバイツ・ディンスト（勤勞奉仕）の實情を親しく見學する機會を得、得るところ尠くなかつたのみならず、非常に満足に思つたのであります。

八月六日——この日は近來にない快晴で暑さも相當きびしかつたのですが、私達は午前九時宿舎を出發大型バスに乗り、ベルリン市から約五十料の地點で行はれてゐる道路工事の見學に赴いたのであります。更にそこから可成隔つた所にあるアルバイツ・ディンストの人々が手助けをしてゐる農家を訪れたり、ブストラウにあるアルバイツ・ディンストの營舎を見學したりなどしたのであります。現在ではこの附近一帯は約十萬町歩にも及ぶ實に廣々とした平野であります。が、これとて今から約十年程前までは、全然耕作に堪えぬ一面の濕地で、經濟上何等の價値もなかつたのであります。それにも拘はらず不撓不屈の精神に燃える盟邦ドイツの人々は、排水路の設定、

防風林の設置、道路の開墾かいさくといふ三大事業を敢行し、それによつてかうした不毛の土地を立派な耕作地にするため、孜々しゝとして努力を續けて來たのであります。そしてこれはその後このアルバ

イツ・ディンストが出現するに及んで急速な進展を示したのであります。

目下こゝに働いてゐるアルバイツ・ディンストの人

數は約四千名にも達するさうですが、折からこの秋――

――一九三八年――は近來稀にみる豊作だったので、彼

等は一齊に農家の手傳に動員されました。丁度私達一

行が訪れた際にも麥オトギリの收穫に一生懸命だつたのであり

ます。しかもよく注意して見ると彼等アルバイツ・デ

ィンストの青年達は本當にその農家の息子ででもある



馬鈴薯の收穫

かのやうに、實に屈託くつたなく働いてゐるのです。その農家の主婦達も彼等に對して心から打とけた態度で、砂糖水をこしらへて饗もてなしたりなどして、その美しい光景は傍で見る私達も心から嬉しく

態度で、砂糖水をこしらへて饗したりなどして、その美しい光景は傍で見る私達も心から嬉しく

思つたのであります。

**祖國の労働者** さて、ここでこのアルバイツ・ディンストとは果して如何なるものであるか？

それについて私達の親しく聞いて來たことを簡単に紹介致しませう。

第一はアルバイツ・ディンストの根本精神とでもいふべき事柄であります。それは『アルバイツ・ディンストとは、不景氣が生む失業者を救済する一時的の事業ではない。その理想は義務教育制度並びに兵役に對する必然的な補充であり且つ發展である。戰時に劍をとつて立つのみでなく、平時に鋏を持つて立つことも亦國家への奉仕である。ドイツ人は護國の鬼であると共に、祖國の労働者であらねばならぬ。故にアルバイツ・ディンストはドイツ青年の名譽ある義務であり、國家に對する奉仕である。それは個人の企業に對する安價なる勞働力の供給ではなく、また勞働賃銀引き下げのための國家の競争事業であつてはならぬ。奉仕勞働義務は國家指導部に對して重要な公益勞働・國民經濟・或ひはより高き文明及び政治的目的を達成すべき任務を持つ勞働軍の供給である』といふのであります。

**心得十二ヶ條** 第二にはアルバイツ・ディンストに従事する團員の心得であります。それに

ついで私達が聞いたことは、次に述べる通り十二ヶ條に亙る龐大なものでした。即ち、

(一) アルバイツ・ディンストは二つの目的をもつてゐる。その一は教育的使命であり、他の一は經濟的の目的である。

(二) しかもこの兩者の中ドイツ青少年をしてドイツ民族の眞の一員たらしむべく創り上げるところの、教育的使命がその主となるものである。従つてアルバイツ・ディンストは國民の訓練所だともいへる。

(三) アルバイツ・ディンストは經濟的には土地の改良、干拓による新耕地の獲得、道路の建設等により經濟四ヶ年計劃に協力し、以て食料の自給自足を確立せんとするものである。

(四) しかしながら教育的並びに經濟的使命の兩者は相互に結び合つてゐる。即ち鋏をとつて親しくドイツの土地に働きかけ、額に汗して開墾に精根を傾け、進んでドイツ民族に奉仕することによつて、教育的目的は遺憾なく達成されるのである。

(五) ドイツ民族の眞の一員となるためには、青年は先づ總ての階級的觀念を打破しなければならぬ。即ち學生・商人・勞働者・農村青年等の區別なく、全ドイツ青年を一つに集めて何等の

差別を設けず、勸勞と協同の生活をさせる。アルバイツ・ディンストは階級觀念を打破し、統

差別をも設けず、勤勞と協同の生活をさせる。アルバイツ・ディンストは階級觀念を打破し、統一ある眞の民族協同體形成のために、最も有力なる訓練所でなければならぬ。

(六) アルバイツ・ディンストによつて青年は勞働の意義と喜びを體得する。かくて總ての青年達は勞働並びに勞働者に對し尊敬をはらふに至り、そこに國民的融和が生れて來るのである。

(七) またアルバイツ・ディンストによつて同志的精神が涵養される。勞働に馴れたるものは不馴のものを助け、強き者は弱きものの仕事を分擔し、勞働を通じて自然のうちに同志的精神が育成せられ、かくて民族的統一は將來に向つて益々強化せられるのである。

(八) アルバイツ・ディンストの指導者、團員は次の如き心掛を持たねばならぬ。即ち下の者に對しては、自分が上の者から取り扱はれたいと希望する通りに取り扱い、また上の者に對しては、自分が部下に對してかうあつて欲しいと思ふやうな態度をとらねばならない。

(九) 同志に對し誠實を缺くものは、他人に對し誠實を要求する權利がない。また服従することとを欲せぬものは、他人に對し服従を期待する權利はない。同志的精神を抛棄するものは何時か裏切られ、孤獨となり、他人から顧られぬ日が來ることを豫期しなければならぬ。



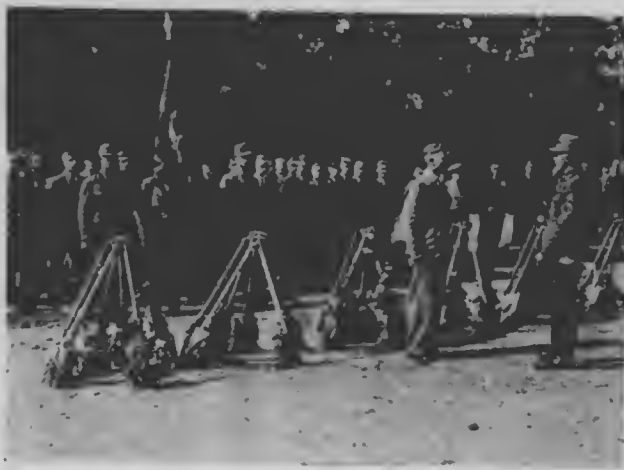
(十) 誠實、服従、同志的精神の三者は常に生々と保持されてゐなければならぬ。

(十一) 指導者も、團員も常に同志の模範<sup>もはん</sup>となるやう心掛けねばならぬ。しかし模範となる

とは、先づ公のために利己心を全く棄て去ることなのである。

(十二) 最後にアルバイツ・ディンストはドイツの土地と民族に對する尊き奉仕である。故にこれに参加することは、ドイツ青年にとつて最も大なる名譽である。

シヤバール返還



**團體訓練** 以上お話したことによつても、その大體が俚<sup>し</sup>べれるやうに、ドイツのアルバイツ・ディンストは、決して單なる無賃の勞働によつて、經濟的な何物かを作り出さうとする施設ではなく、寧ろ或見方からすれば純然たる青年教育機關であり、また他の見方からすれば純然たる軍隊教育の施設なのであります。全く彼等の終始一貫した眞剣<sup>しんけん</sup>さは、

決して勞働そのものではなくて、一つの嚴格なる團體的訓練であると痛感したのであります。實

決して勞働そのものではなくて、一つの嚴格なる團體的訓練であると痛感したのであります。實際私達一行は、彼等が銃の代りにシャベルを持ち、背囊を背負つて行動する有様を目の邊りに見て、軍隊と殆んど變りがないやうな感じを受けたのでした。そして彼等の共同宿泊所たる營舎を見たときも、またやはり兵營生活を見るやうな印象を受けたのであります。ただ多少の感じが異なるのはその設備の相違によるものと思ひます。とにかくヒットラー・ユーゲント、アルバイツ・ディンスト、軍隊——この三者は實にドイツに於ける國防の三大要素であるといふ印象を強く受けたのであります。

**兵隊と同じ背囊** 一例をいへば、ヒットラー・ユーゲントの比較的年長者の所持してゐる背囊と、アルバイツ・ディンスト並びに軍隊の使用してゐるそれとの間には、別にこれといふ相違が見出し難く、寧ろ私達素人の眼には全く同一のものではないかとさへ思はれる程でした。かうした些細な事實を眼にするにつけても、これらの三者が如何に緊密な關係を保ちつつ、祖國の防衛に當つてゐるかどうかは、**「これあればこそ」**持てる國英佛も、持たざる國ドイツに手が出ないのだ——としみじみ痛感したのであります。

## 八 シレジア地方

**體育行政** 八月十三日——この日私達は第二回日の伯林訪問を終り同市を出發、シレジア地方の中心地であるブレスラウに行きました。ところが偶々同地にはドイツ政府の主催にかゝる體育博覽會が開かれてをり、しかもその日一日で終るといふ誠にきはどい好機だつたのでありました。そこで私達一行はこの思ひがけぬ幸運に恵まれて、早速見物に出掛けたのであります。その時の感想をお話いたしませう。

この博覽會を見て、私達は今日のドイツが國民の各層、殊に青少年の體位向上策に如何に特別な努力をはらひつゝあるか、その有様がはつきりとわかりました。そして何故にかくも體育に力を入れてゐるのか、その理由がよく呑み込めたのであります。その理由の一つとして、その時かういふことを聞かされたのであります。

新興ドイツはその前途に幾多の解決すべき困難なる問題が横たはつてゐる。殊にポーランド及

バルチエツロとの國境問題の如きは尤なるものであるが、結局は實力によつて解決しなければ

新興ドイツはその前途に幾多の解決すべき困難なる問題が横たはつてゐる。殊にポーランド及びチェッコとの國境問題の如きはその尤なるものであるが、結局は實力によつて解決しなければならぬ。而して強兵たるの基礎は強健なる身體にある。今日あらゆる努力をはらつて青少年の體位を積極的に向上せんとする所以も亦ここに存するのである、と言ふのであります。



トングーユー・ラトツヒ子女

現在ドイツに於ける體育行政は次の通りで、全國民に對し實に徹底的にその効果を發揮してゐるのであります。即ちまづ學校における體育は文部省内の體育局長がこれを擔當し、一般國民の體育運動に對しては内務省内に特に體育に關する相當大きな局を設けて、その長官には特にドイツでも有名な體育指導者が坐つてをり、また一方ヒットラー・ユーゲントの中にも體育に關する大きな局が二つもあつて、何れも優秀な指導者が澤山配置されてゐるのであります。そしてこの

二つの局を總括する體育指導官なるものがゐますが、この長官は前述の内務省の體育長官と全然同一の人なのであります。これはヒットラー・ユーゲントの體育指導と一般國民のそれとが、その方針において一貫性を失はないやうにとの考へから特にかういふ工夫が行はれたものと思はれ、その行き届いた組織に深く感心したのであります。

かうした次第でありますから、ドイツの體育行政は一般國民各層に對し、飽くまでも一貫し徹底して強く行き互つてゐると見てもよいのでありまして、特にその各運動種目には或一定の標準が定められてをり、全國民は共にこの標準を目指してこれに到達するやう努力する——そして、それにより身體の強健な均整のとれた發育が促される、といった具合に工夫されてゐるのであります。しかも彼等ドイツ人はかうした努力によつて、單に丈夫な身體を作るといふだけではなしに「強健なる身體にこそ強健なる精神が宿る」といふ建前から、所謂身心兩方面の圓滿な發育に力を入れてゐるやうに思はれました。

**世界に支部** 聞くところによれば、かうした體育行政は單りドイツ國內に居住してゐるドイツ人に對してのみならず、廣く國外にあるドイツ人の體位向上策にも力を致し、例へばドイツ體育

人に對してのみならず、廣く國外にあるドイツ人の體位向上策にも力を致し、例へばドイツ體育協會の如きもその支部を全世界にもつてゐるといふことであります。こゝに於てもドイツ人の組織的であるといふか、或ひは徹底的であるといふか、とにかくさういふ國民性がよく現はれてゐて、非常に考へるべき點が多いと感じたのであります。しかも面白いことには、その博覽會の案内者が私達一行に對し「かかる一般的體育指導は何等軍隊の豫備教育の意味を含んでゐない。それは専ら身體の鍛鍊に過ぎないのである」と説明してゐたことであります。

なほこれに關して非常に興味深く感じたことは、七月二十九日東プロシヤのノイクレーレンの飛行隊を見學した際に、その兵士が練兵場に出て盛んに各種の運動競技をしてゐるのを眼にしたのでしたが、それは所謂軍隊式のスポーツでなく、學生生徒が普通にやつてゐる謂はゞ學生スポーツなのであります。そこで私は聯隊長に聞いて見たところが「最近軍隊でも強健なる身體をつくるために各種の運動競技を奨励しつゝある。軍に於ては兵の體格を立派にすることが何としても根本問題であるから」と言つてをられました。なほ、ドイツ政府は各市町村の人口の多寡によつてそれ〴〵設置すべき競技場の標準を示し、これに則るやうにしてゐますが、これは實に賢明な奨励方法であると思ひました。單に抽象的に奨励するのではなく、かうした具合に具體的標準を

明示することは最も効果的であると考へるのであります。

**ズデーテン・ドイツ** 八月十四日から同十七日に至る四日間、私達はドイツとポーランド並びにチェッコスロヴァキアの國境線を見學したのでしたが、その際私達にとつて恐らく一生忘れることが出来ないと思はれる程印象的な場面が展開されたのでした。

それは、十六日シレジア地方のノイスタットといふ街からナイゼ市に向ふ途中、折から太陽は將に地平線に没せんとし、夕闇が次第に四邊を被ひ始めた頃の出來事なのであります。そもそもこの附近一帯は以前は同一町村に屬してゐたのでありますが、往年の歐洲大戰以來ドイツとチェッコ兩國に分割され、しかもその國境線はこの附近を走る國道に伴ふ幅員僅か二尺足らずの堀の眞中となつてゐるのであります。

**ハイル・ハイル** そこで私たちは車を停め、この國境線について案内のドイツ人からいろいろ説明を聞いたのであります。が何しろその地方では珍らしい日本人がやつて來た、といふので忽ち人氣の中心となり、村人は仕事を放り出して雲霞の如く集まつて來ました。その中にはドイツ領のドイツ人とチェッコ領のドイツ人——即ちズデーテン・ドイツ人——がゐるのですが、これ

等の群衆は例の二尺の堀の國境を距てて、どちらも越境することが出来ないののであります。その

領のドイツ人とチェッコ領のドイツ人——即ちズデーテン・ドイツ人——がゐるのですが、これ等の群衆は例の二尺の堀の國境を距てて、どちらも越境することが出来ないのです。その上ドイツ領の群衆は例により「ハイル・ヒットラー！」を高唱してゐるのに、彼等ズデーテン・ドイツ人はそれが禁止されてゐるので、唯「ハイル……ハイル……」と叫ぶだけで、あとの「ヒットラー」が言へないのです。私はこの様子を見て、實に何とも言ひやうのない氣持がしたのです。

チェツコ語は知らん　とその時小高い丘の上にある一軒のズデーテン・ドイツ人の家から、十二歳位の少年が一人飛び出し、畑の間を通り抜けて私達一行の所に勇敢に越境して來たのであります。その時、案内のドイツ側の官吏がその子供に向つて「君はチェツコ語を覺えたかね」と聞きました。するとその少年は「あんなもの覺えるもんか！　僕はチェツコ語なんか知らないや」とズバズバ言つてのけました。その返事は勿論ドイツ語だつたのであります。

そこで私達はこれ等の村人たちに對し、その國籍がドイツたると、或ひはチェツコたるとを問はず、持參して行つた富士山その他の日本風景の繪端書を洩れなく一枚づゝ分け與へたのであります。



全くこの村人たちの様子をじつと眺めてゐると、如何にズデーテン・ドイツ人がドイツ領のドイツ人と一緒になりたがつてゐるかが、まざまざと看取かんしゆされたのであります。

私達は再び車上の人となりました。やがて自動車動き出すと、もう堪たふりかねた彼等ズデーテン・ドイツ人達は、ドツとばかりに越境し、今こそとばかり口々に「ハイル・ヒットラー！」を絶叫ぜつけうしたのであります。勿論、それは「さようなら」の意味からさう叫んだのでせうが、私は夕闇ゆぐの中に次第に遠ざかつて行くこの素朴そぼくな村人達の聲を耳にして、何がなし目頭の熱あつくなるのを禁じ得なかつたのであります。

黒髪の婦人 八月十八日——この日私はちよつとした考へ違ひから頗すこぶる愉快ゆめくわいな失敗を演えんじてしまひました。

丁度その日はグラッツといふ所を出發して、農民學校や女子青年團及び少年團のラーガー等を見學し、ヒルシュブルグといふ所に到着したのであります。

さて、その夜のことでした。私達一行のためその市長さんの主催で非常に盛大な歓迎會が催され、その地方の有志方いっしが澤山集まつて來られたのであります。ところでその席に出られた市内

の名流夫人達は特に私達に敬意を表するため、東洋趣味豊かなキモノをわざ／＼著用ちやくようされてゐた

され、その地方の有志方が澤山集まつて來られたのであります。ところでその席に出られた市内の名流夫人達は特に私達に敬意を表するため、東洋趣味豊かなキモノをわざ／＼着用されてゐたのであります。しかし、そのキモノは東洋趣味とはいふものの日本流ではなく、どちらかといふと支那服に似かよつたものでした。ですが、その地方の婦人は頭髮が日本人のやうに黒いのです。これは恐らくマジャール人の血液が相當濃厚に混つてゐるためではないかと考へたのでしたが、とにかくその地方の婦人はみな頭髮が黒いので、私達一同「獨逸人には珍しいな」と思つたのでした。

さて私はその席上、市長と二人で長椅子に腰をおろし歡談してゐました。するとそこに花束を手にした一人の婦人が現はれて、ツカ／＼と私の前にやつて來ました。その時私は下を向いて話してゐたので、顔はよく見えなかつたのですが、その婦人は頗る流調な日本語で「甚だ粗末なもので失禮でございますが、何卒この花束をお受け下さい。」と言ひました。そこで私は立ち上つて改めてその婦人の姿を見ました。すると彼女は先にも述べた通りの黒い頭髮で、服裝もドイツ風でありましたから無論ドイツ婦人であると直感しました。私は厚く禮を述べてその花束を受け取り、更に語を續けて「大變失禮なことを申しますが、貴女の日本語は特別にお上手で全く感

服いたしました」と申しました。ところが、その婦人は微笑を湛へながら「いゝえ私は日本人でございます」と言つたのです。これには並居る派遣團員一同思はずドツと大爆笑したやうな次第であります。そして餘り私達の笑聲が大きかつたので同室のドイツ人達も「何だ〜」と集まつて來ましたが、そのわけを聞いてこれまた大いに腹を抱へたのであります。この日本婦人は横濱にある或るドイツ人の會社の支店員の奥様で、子供が病氣のため御主人の郷里であるこのヒルシユブルグに歸つてゐるのだ、といふことでした。なほ後で聞いたことですが、これよりさきこの日本婦人は私達一行が同地を訪れるといふことを知つて非常に喜ばれ、その夜は特に御主人の親戚一同打揃つてわざわざ挨拶に來られたことが判つて、遠い異郷の空の下にお互にしみじみ懐しさを覺えたのであります。

**録音放送** その翌十九日には、私達一行シレジア地方にあるリーゼン連山に登りました。そしてその山を降りてザイドルフといふ所に來た時、そこにシレジア地方放送局の移動式録音装置車が我々を待つてゐて、是非録音放送をさせてくれと言ふのです。そこで色々相談した結果愈々彼等の希望を容れ、我々の聲を録音することゝし、先づ團員一同で日本青年の歌を高唱しました。

その次は私のドイツに於ける感想談、愛國行進曲の合唱、渡邊參與のヒットラー・ユーゲントに

等の希望を容れ、我々の聲を録音することとし、先づ團員一同で日本青年の歌を高唱しました。

その次は私のドイツに於ける感想談、愛國行進曲の合唱、渡邊參與のヒットラー・ユーゲントに對する所感、木村隊長の日本青年團の組織に關する講話といった順序でありましたが、その時私は自分の感想として次の五つの要點について話したのであります。

一、ドイツ民族がヒットラー總統を尊敬し信賴して、その下によく一致結束し、祖國の興隆に努力しつゝあること。

二、全ドイツに於ける總ての人々、そしてその動向に所謂若々しさが漲つてゐること。

三、婦人が男子同様に旅行し、また働きつゝある様を見るとき、その體力の強さがしじみみ感ぜられること。

四、マルクス主義、共產主義を人類の敵と考へ、これらを擊滅して人類の福祉増進に力を致しつゝあること。

五、自然を愛護し、自然の美を損ぜざるやう努めてゐること。

## 九 ザクセン地方

女子教育 八月二十日、私達は多大の收穫を納めたシレジア地方の見學を終へ、今度はザクセン地方の巡歴に移り、その日の中にドレスデンに到着しました。そして明くる二十一日には同市の博物館を訪れ、世界的名畫といはれるラファエルのマドンナを見ました。さすがにその名聲に背かず、門外漢である私達一同もしばしその場を去りかねたのですが、何しろ先を急ぐ旅の身、思ひを残したまま次の目的地たるオーデンドルフへと車を走らせました。

ここはドレスデンから約四十五杆の地點に當り、女子青少年の指導者養成學校があるのです。その校舎は數百メートルの山上に特設された堂々たる建物で、聞くところによればその設備は全ドイツのこの種の學校の中で、第一位であるとのことでした。私達はここを訪れて内外の施設を親しく見學したのですが、その行き届いたことは全く驚く他はなく、「完備」とは蓋しこの學校の如きをいふのであらうと、痛感させられたのであります。例へば洗面臺の如きも生徒一人につ

き、一ヶ所宛々に設備されてゐるといつた具合で、とにかくその素晴らしいことは想像以上といふ。

の如きをいふのであらうと、痛感させられたのであります。例へば洗面臺の如きも生徒一人につ

き一ヶ宛別々に設備されてゐるといつた具合で、とにかくその素晴らしいことは想像以上といふ他ありません。

同校の課程は、一ヶ年を單位とする家政科と、約二週間に互る短期講習科と二種類に分れてを



女子指導者養成学校生徒

り、これらはいづれも眞に現代ドイツ婦人の鑑とするに足る優秀な女子指導者を養成せんとするものであります。従つて家政に必要な知識、技能を授けることはもとより、體育、音樂等についても充分力を注いでをり、謂はば情操豊かにして、しかも確固たるドイツ魂を把握する理想的ドイツ婦人を作らうといふことが、その根本的目的であると考へられました。

治に居て亂を　なほこの學校で特に私達の目をひいたのは、その校舎の一部に女子のためには恐らく不必要であると思はれる位の高い塔が建てられてゐることでした。大體この學校自體が、

先にも述べた通り數百米の山上にあるのですから、この塔に登つて脚下を眺めると、ドイツとチェッコの國境になつてゐる山々の姿が手に取るやうに眼に入り、言はず語らずの中に何か軍事上の重要な意義が潜在してゐるのではなからうかと考へられました。

話はわき道にそれますが、今日ドイツ國內を旅行して見ると、兵營の數の多いことは全く驚くばかりで、人口二、三萬以上の都市には殆んど全部あるといつても決して過言ではないのであります。殊にポーランド及びチェッコの國境線に沿ふ都市に於ては、この状態が一層濃厚に認められたのでした。かうした事からこの女子指導者養成學校に、今お話したやうな高い望樓があり、更にまた必要以上と思はれる老大な室内體操場を持つてゐることなども、一朝有事の際には直ちに有力な軍事施設として活用し得るやう遠大な計畫の下に設計されたのではあるまいかと感ぜられたのであります。またこの學校から自動車で約二十分の距離の所には、約七百名を收容し得る青年宿泊所がありました。これは突兀たる山上に毅然と聳ゆる古いお城を利用したもので、素人目にもチェッコに對する軍事上の重要地點たることが容易に推察されました。とにかくかうした男女青少年の向上指導を目的とする平和な福利施設も、その建設の主旨が果して奈邊に存する

た男女青少年の向上指導を目的とする平和な福利施設も、その建設の主旨が果して奈邊に存する

かは、蓋し想像に難くないと思つたのであります。

國民政治學校 八月二十二日には、ドレスデン郊外にある文部省直轄ちよくかくつの國民政治學校を見學し

ました。この學校は十三歳から十九歳までの青少年を收容してをり、修業年限は六ケ年となつてゐるのですが、聞くところによれば、毎年志願者が夥おびたしく殺到さつたうし、常に募集人員の三倍乃至四倍にも達するといふことでした。この學校で私達一同が殊に興味深く感じたことは、これら新入生に對する嚴格な銓衡せんかう方法だつたのです。即ち多數の志願者の中から、豫め身心健全、性質優良な者を嚴選し、最初八日間に互り上級の生徒と起居ききよを共にさせて、これにより眞に本校生徒たるの素質そしつありと認めたとき、初めて入學を許ゆるすことになつてゐるのです。しかもこれは假入學に過ぎず一ケ年經過けいぐわした後初めて正式の入學が許可きょかされるのだといふことでした。

授業は毎時間正味四十五分で、一日六時間あり、これらの學課はいづれも必ず晝食前に終了して、午後は専ら運動と宿題の處理しゆりにあて、また夜は自由時間となつてゐるのです。もつとも上級生は附近村落のヒットラー・ユーゲントを指導しなければならぬので、中には夜になるとその方にさし向けられる者もあるとのことでした。



なほこの學校の校長は、一面に於てヒットラー・ユーゲントのバン・フューラーの位置——日本でいへば郡の青少年團長——にあり、各教員も亦同時にヒットラー・ユーゲントの指導者となつてゐて、その上更に全生徒がヒットラー・ユーゲントに屬してゐるのですから、つまり學校全體が一つの青少年團であるともいへるのであります。



工 場 勞 働

次にその學校の必須科目が又非常に特色に富んでゐると思ひました。

例へば第五學年生は、四週間に互る農村の收穫の手傳ひ、二週間に互る工場勞働等が必修科目となつてをり、更に第六學年生になると今度は六週

間に互り鑛山の鑛夫生活をしなければならぬのです。即ちかうしたことによつて、實際社會の生々とした鼓動を、そつくりそのままに學校教育に取り入れようといふことがその狙ひ所なので

生々とした鼓動を、そつくりそのままに學校教育に取り入れようといふことがその狙ひ所なので

す。生徒は全部寄宿舎生活をしてゐますが、その費用は月額五十五マルクであるとのことでした。

生徒の居室には、それぞれ「ゲーリングの家」とか「シーラハの家」といつたやうに、ドイツの閣僚の名前が附けてあり、それぞれこれら首腦者の管掌してゐる仕事に因んだ裝飾が施され、或ひは繪畫、圖表、統計等が飾つてあるのです。そして生徒達は一年毎に代る代るこれらの部屋を移り廻ることになつてゐるので、寄宿舎生活の間にそれとなく各省の仕事を學ぶ機會に恵れ、自ら國策の線に沿つて進むことが出来るやうになるといふことでありました。

要するに徹底的ナチス教育を實行せんとするもののやうであります。従つてその教育の方法も非常に規律が嚴重で、私達一行にとつても學ぶべき點が頗る多かつたのであります。

## 一〇 チューリングゲン地方

ワイマール 國民政治學校の見學を終つた我々は、ドレスデンを出發して、チューリングゲン地方に向ひその中心地ワイマールに着いたのです。ワイマール市は人口約五萬であります、往時

その都市名を冠せるワイマール憲法によつて、廣く外國にもその名を知られてゐるのであります。我々派遣團の一行は、八月二十二日から九月一日に至る十日間、このワイマールに宿泊し、を中心として、チューリング地方の各地の見學をしました。實に得る所が多かつたのです。それはこの地方の青少年團長が、ドイツに在る各種類の施設の内容を理解させようとして、なかく氣を配つて日程を作つて呉れたから、今迄飛脚のやうに大急ぎに廻り歩いて、外形の視察見學に止まつてゐたものが漸く内容的にわかるやうになつた氣持がしました。

我々がヒットラー・ユーゲンツについて稍突つ込んで知るを得たとするならば、それはチューリング地方の旅行が非常に役立つてゐるものであると、今でも心から感謝してゐるものであります。

### 問題は頭

チューリング地方は、見渡す限り鬱蒼たる森林地帯の連續で、私達一同實に何と

もいひやうのない氣持の良い旅行を續けたのであります。その感じは強ひていへば長野縣下の高原地帯——木曾路の旅とでも申しませうか、本當に今思ひ出しても楽しさで胸が一ぱいになるのであります。

であります。

私達はこの旅の途中ルードル・スタットといふ町にある人造羊毛製造所を見學しました。ところで最近世間ではその國の所藏する天然資源の有無によつて「持てる國」「持たざる國」と區別をつけるやうでありますが、私達はこの人造羊毛製造所を見學するに及んで、かうした考へ方は是非正しなればならないと、しみじみ考へさせられたのであります。即ち「持てる國」必ずしも物資豊富なるに非ず、また「持たざる國」必ずしも物資貧弱ならず、要するにこれを活用する人間の頭腦如何がその分岐點であると痛感したのであります。

現にこの人造羊毛製造所の如きその好例で、パルプを原料とし、これに幾多の化學的操作を加へて天然羊毛の代用品を製造するのであります。この人造羊毛がまた實に何とも素晴らしいもので、實際天然羊毛と並べて出されても、一體どつちがどつちなのか、全く判斷がつきませんでした。

ところで話は變りますが、この人造羊毛製造工場は聞くとところによれば、ドイツの産業四ヶ年計畫に基いて國家の命令で設立されたものだとのことでした。そもそもこの産業四ヶ年計畫といふのは、國民生活の根本をなす衣・食・住の三要素のうち、衣・食の二つを外國からの供給を受

けないで自給自足し得るやうにしよう、といふのが第一の目的なのであります。それに今日ドイツは我が日本と同じやうに金すんを充分持つてゐないので、國外から物資を購入することが頗る困難であります。従つてどうしても代用品を製造して、これによつて國內の需用じゅようを満足させなければならぬ立場に置かれてゐますので、さてこそかくは全力を傾倒けいたうし絶大なる努力を拂つてゐるのであります。

なほ彼等の言ふところによれば、彼等は更に一歩進んで生産費をより一層低廉ていれんならしめ、逆に國外に輸出して自國の金きんの不足を補填ほてんしようとする努めてゐることでもあります。

**適確な經營** この工場は先にも申しました通り産業四ヶ年計畫に基いて設立を命ぜられたものであります。一九三五年十二月着工し、翌一九三六年夏には早くも製品の一部を市場に出すに至り、しかもその後更に一年にして、一九三七年の夏には職工七百名を使用する工場の施設が完成したのであります。全くその敏速びんそくなること唯々驚くの他ありません。

更に私達一同がもつと深く感心したことは、實にその適確てきかくな經營ぶりだつたのです。即ち着工から完成に至る一年有半の間は、所謂赤字續きの状態だつたのですが、それが設備完成と共に一

から完成に至る一年有半の間は、所謂赤字續きの状態だったのですが、それが設備完成と共に一

轉して收支相償ふに至り、更に一九三八年、即ち私達一行の見學に赴いた時には、既に相當の利

益すら擧げてゐるといふことであります。

そこで餘りの素晴らしさに、私はその工場主任をとらへて、數字につき相當突込んだ質問を試みました。

ところが彼は『何しろ人造羊毛の生産費は、或單位について（實はその單位の名稱を失念しましたが）二マルク十ペニヒなのに、製品の市價は同一單位について二マルク九〇ペニヒ乃至三マルク八〇ペニヒなのですからね』と言つてゐました。そこで私は『では一つ人造綿絲も造つて見てはどうですか』とたづねました。すると彼は『勿論、商品として採算が取れないからやら



森のチユリーゲン風景

ないまでで、造らうと思へば立派に製造出來ます』と答へました。で私は『ではどういふ計算になりますか？』と聞いてみますと『人造綿絲の生産費は或單位について一マルク三五ペニヒか



うぞこちらへ』と言つてそのお客を戸外に案内し、矢庭にそこに待たせてあつた自動車に乗せて

しまひました。そして自動車はそのままブーブーとスタートしたから、お客さんは喫驚仰天<sup>びつくりきやうてん</sup>、

『おいこらーこれは一體どうしたわけなのだー俺は服地の見本を見せよといふ譯ではないか』とどなり出しました。しかし番頭の方は一向に騒<sup>さわ</sup>がず、『まあまあお静かに、手前におまかせ下さい』と涼しい顔をしてゐます。自動車は益々スピードを加へ、やがてのことに、とある郊外の林の中でストツプしました。すると今度は面喰<sup>めんくら</sup>つてゐるお客を車から降ろし『へえ大變お待ちせ致しました。では旦那<sup>だんな</sup>、御注文のお服はどの樹でお作り申しませう』と言ふ。

お客はもう何が何やら狐<sup>きつね</sup>につままれたやうな氣持で『確りしてくれー君は氣(樹)がちがつたのではないか』と申したさうです。

これは勿論つくり話ですが、實際今日ドイツでは、この人造羊毛の使用が實によく普及してゐるのであります。

上層學校 八月二十七日——この日は、ワイマールを出發して、ゴータといふ町にあるアウフパウ・シュールを見學しました。これは日本語に直譯<sup>ちやくやく</sup>すれば『上層學校<sup>じやうかうがく</sup>』とでもいふべきもので、大體我が國の高等學校程度までの教育を施<sup>ほどこ</sup>してゐるのであります。しかし、その教育法は從來の



所謂學校教育なるものと全然その趣を異にし、極めて特徴に富んでゐるのでした。

聞くところによれば、同校はそもそも創立以來今日までに既に四十年の歴史を持つてゐるが、ナチスの天下となつてからは、教育の基調を専らナチスの指導精神に置き、職員も總てナチス關



馬乗の生徒レーユシ・ウバフウア

係の團體に加盟し、一方生徒も全部ヒットラー・ユーゲンツトに入團してゐるといふことで、特に體育とナチスの政治的世界觀の教育に重點を置いてをります。

修業年限は五ケ年で、入學は十二歳となつてゐます。

實際總てが軍隊式で、實に潑刺としてをり、現に私自身校長に面會を求めて同校舎の二階にある校長室に赴かうとした際にも、階段の下に直立してゐた衛兵勤務の生徒

に早速誰何訊問され、面會簿に記帳を命ぜられたのです。とにかくそんな調子ですから、そこでは恰も兵營に行つたやうな感じでした。

なほ特に面白く思つたのは、前述のナチスの政治的世界觀の教育を徹底せしめるため、毎週校

内の適當の個所に簡單な標語が掲げられ、偶々生徒が校長に出逢つた場合には、例外なく卽座に

なほ特に面白く思つたのは、前述のナチスの政治的世界觀の教育を徹底せしめるため、毎週校内の適當の個所に簡單な標語が掲げられ、偶々生徒が校長に出逢つた場合には、例外なく卽座に直立不動の姿勢を取り、その標語を復誦することになつてゐます。

丁度私達の訪問した際は「ベルリン——東京——ローマー」といふ標語だつたので、校長が私を案内して校舎の内外を歩き廻ると、生徒達は到る處で一齊にパツと氣をつけの姿勢をとり、口々に「ベルリン——東京——ローマー」と復誦したのでありました。これは一見如何にも機械的な訓練とも考へられますが、とにかくかうした些細なことの中にもナチス精神が横溢してゐて、その徹底振りには少からず感動を禁じ得なかつたのであります。

それから、この學校では、生徒に對してあらゆる種類の運動をやらせてゐるやうでしたが、就中上級生に對しては、最後の二年間に互つて、乗馬と射撃とを絶対不可缺の必修科目としてゐるのです。もつともこれは同校の教育方針が前述のやうに、堂々軍隊教育を標榜してゐる關係上、或ひは寧ろ當然ともいふべきでせう。

たゞここに私達にとつて聊か奇異に感ぜられたのは、これ等の上級生に對して、特に軍事教育とはおよそ見當の違ふダンスを課してゐることでした。しかもそれが必修科目の一つとされてゐ

るのです。これは全く國情の然らしむるところといふべきでせうか。私達の立場からみればどう考へても不思議で堪らなかつたのでした。

さて、それはそれとして、私達一同同校の見學最中、これはまたかうした堅苦しい空氣とは全く反對な、極めて美しい、そして何とも言ひやうのない愉快な一場面に接したのです。

### 同志の意識

それは全く、こんなにまで軍隊的な、そしてこんなにまで規律の嚴格な處に、ど

うしてこんなに微笑ましいことがあるのだらうか——と思ふ程強く感激させられたのです。といふのは、偶々私達が同校の内外を參觀してゐる時、丁度晝食の時間になりました。そこで私達一同案内に應じて食堂に這入りました。するとそこには校長以下全職員生徒が一齊に同じ食卓に並んで腰かけてをり、更にその際校舎の増築工事に來合はせた勞働者達も全部席を同じくしてゐたのです。來賓たる私達も勿論そこに列したのでありますが、供された食物は、誰彼の別なく一同全く同一でありました。そして更に注意して見ると——私は校長の右側に席を與へられたのです。が——校長の眞正面に座つてゐるのは當時六十二歳だと稱する最年長の老勞働者だつたのです。しかも一切の食物は全部生徒の手で給仕され、食後の飲み物も、食器の後始末も、何から何まで

全部生徒の奉仕となつてゐたので、私はこの老人が果してどんな氣持でゐるか、その様子をじつ

しかも一切の食物は全部生徒の手で給仕され、食後の飲み物も、食器の後始末も、何から何まで全部生徒の奉仕となつてゐたので、私はこの老人が果してどんな氣持でゐるか、その様子をじつと眺めてゐました。ところが、想像通り如何にも満足そのものといつた調子で「全くこれといふのもナチスの天下となつたからで、こんな嬉しいことはありません」と泌々述懐してゐたのであります。

即ち、この一事は現代のドイツ人全體が、如何に徹底した同志的意識を把握し、如何に確固たる團結を構成しつつあるかを雄辯に物語るものとして、彼の「國民社會主義ドイツ労働黨」といふ名稱の如きも、「なるほど」と頷かれるやうな氣がしたのであります。

## 一一 荒木文相のメッセージ傳達

シーラハ長官 九月一日、私達は愈々ミュンヘンに到着し、そして翌二日には、我が荒木文相大臣より青少年指導廳長官シーラハ氏へのメッセージ並びに記念品の贈呈式に臨みました。式場は同氏の宿泊してゐる旅館フィアレス・ホテルの廣間だつたのであります。そしてそこには日獨

兩國の國旗が掲げられ、正面中央にシーラハ長官が悠然と起立し、續いて次官のハルトマン・ラウダー・バッハ氏以下多數のヒットラー・ユーゲントの關係官並びにヒットラーの書記官長、ミ



シラハ長官の歓迎

ユンヘンのガウライター（ナチス黨支部長）等を始め參集者一同が、何れも威儀を整へて、私達の來着を待ち受けてゐたのでした。

やがて私は派遣團を引率してその式場にはいり、單身列を離れシーラハ長官の前に進み、同氏と堅く握手を交しました。そして引續き四人の派遣團幹部を同氏に紹介したのでした。一方團員はこの間二列横隊に隊形を整へ終つてゐたので、シーラハ長官は幹部の紹介が終ると直ちに一同を視閲しました。そして、再び元の位置に戻り、改めて私達に對する歡迎の辭を述べたのであります。これは小塚秘書が日本語に譯し、團員にその大要を知らせました。

迎の辭を述べたのであります。これは小塚祕書が日本語に譯し、團員にその大要を知らせました。

そこで今度はこれに對し、派遣團を代表して私が日本語の挨拶をし、これをヒットラー・ユーゲント本部の海洋青年隊隊長である退役海軍大佐ロイテンベック氏が獨譯したのでした。そして更に私は荒木文部大臣より委託されたメッセージを朗讀した上、シーラハ長官に手交致しました。武具一揃 またその會場には、荒木文相より同長官に贈呈する武具一揃並びに同氏の手を経てヒットラー總統へ贈呈する横山大觀畫伯筆の「富士に日の出」の額面が豫め用意してありましたので、私はこれ等を親しく説明しつつお目にかけたのでした。同氏は文相の好意に深く感謝の意を表し、贈呈品についても極めて満足してゐたやうであります。

話は少し飛びますが、その後九月十日、ニュルンベルグに於けるヒットラー・ユーゲント大會の夜、私達一行はシーラハ氏からヒットラー・ユーゲントのキャンプに招待されたのでした。ところが折悪くその夜、私は外務大臣リッペントロップ氏からも招待を受けしかもこの方が先約したので、甚だ残念ながらシーラハ氏の招宴には出席出来なかつたのであります。しかし、聞くところによればその席上、シーラハ氏は派遣團幹部の一人であつた渡邊伯爵に對し「先般ヒットラー總統に貴下方からお預りした大觀畫伯の畫をお渡し申しましたところ、殊の外お喜びであり

ました。總統は目下各方面に互り名畫の蒐集しゅうしゆに一方ならぬ努力をしてをられるところへ、偶々盟邦日本から、しかも容易よういに手に入れ難い逸品が寄贈きせうされたので、そのお喜びの程もさこそと拜察はいさつされるのであります」と語られたさうです。

サツポロ・ビール さて、話はもとに戻つて——贈呈式が終ると共に、私達は改めて別室に案内され、非常な歡待を受けたのであります。その際、これはまた實に愉快なそして滑稽こっけいなことがあつたのであります。

私達は食事の後で座を移してお茶の席に臨んだのでしたが、その際シーラハ氏が私達を歡待するため特に日本からビールを取り寄せておかれ「サツポロ・ビール、キリン・ビール、エビス・ビールの中のどれを飲むか」といふことでした。そこで私は「サツポロ・ビールを頂戴致します」と言ふと、「それならば」といふので、私と席を同じくしたシーラハ氏その他の人々も一樣にサツポロ・ビールをコップに注いだのでした。私が何故サツポロ・ビールを選んだかといふと、私達一行の案内をつつとしてくれたロイテンベックといふ退役の海軍大佐はいつもサツポロ・ビールの名を私達に話してゐたからです。

同大佐は日露戦争の前に日本に來たことがあり、當時の海軍大臣山本權兵衛大將の官舎に宿泊

の名を私達に話してゐたからです。

同大佐は日露戦争の前に日本に來たことがあり、當時の海軍大臣山本權兵衛大將の官舎に宿泊したこともあるといふ經歷を持つてゐる人でした。日本に滞在中はただち函館に赴いたこともあつて「日本の話」といふと、何時でもサッポロ・ビールを引き合ひに出すのです。そんなわけで、私は「サッポロ・ビールを戴きます」と返事したのです。で、私のテーブルにゐる者は皆サッポロ・ビールのお附合ひといふことになり、並んでゐたコップにはこの遠來の日本製ビールがなみなみと注がれたのであります。

そこで一同コップを舉げて健康を祝し、さて「乾杯」かんぱいといふことになつて、全く意外な事實が發見されたのであります。といふのは、そのビールが實に何ともいへない味なのです。それも美味のなら結構なのですが、實にまづい、何とも我慢がまんがならないのです。これには一同コップを口にもつていつたものの、とても飲むことが出来ないで、その儘またテーブルに置いてしまつたのです。

ところがシーラハ氏は、そんなことには一向おかまひなく、私に向つて「アサヒナさん、日本のビールの味は如何ですか？」と聞くので、これには私も全く返事に窮きうしてしまひました。「ま



づい」といへば折角の好意が無になり、さればとて「うまい」と言ふと後からどんどん勧められるだらうし、とにかく何と答へたものか、ちよつと言葉が浮んで來ないのです。しかし窺すれば通ず、とでもいふのか速座に「このビールは、ドイツに來る途中印度洋を通過したばかりでなく、相當長い旅行を續けたものらしいので、どうも東京で飲むやうな味がしません」と言ひました。すると一同これにうまく調子を合せ「いや、全くその通りだ、さうに違ひない」と言つたので、ここにさしもの難題も無事解決、「郷に入れば郷に従へ」とばかり、改めて本場のミュンヘン・ビールを腹一杯御馳走になつたのであります。

## 一二二 ニュルンベルグ大會

俄か國際都市 さて、この贈呈式が終ると私達一同は今度はスキーで名高いガルミッシュ・パルテンキルヘンに赴き、同所の見學をして、愈々待望のニュルンベルグ大會見學に向つたのであります。

この途中、五月五日にアムステルダムとハッセルに着きました。この町は人口約二萬、大會場たる

ります。

その途中、九月五日にアンスバッハといふ所に着きました。この町は人口約二萬、大會場たるニュルンベルグ市より約十里を距てた所にあるのであります。團長である私と參與の渡邊伯爵は、ヒットラー總統の賓客として招待状を受けてゐたので、一行と別れてニュルンベルグ市の指定宿



ヒュー・オートのバトイ訓練

所に宿泊することになつてゐましたが、残りの廿八名はこのアンスバッハに留つて同地の民家に二名宛分宿することゝなつたのであります。

ところで本年のニュルンベルグ大會にはイタリー、ルーマニア、スペイン、イラク等の各國の青少年代表者も見學に來てをり、何れもこのアンスバッハに宿所を割り當てられてゐましたので、この町はたちまちにして一種の國際都市となつてしまつたのであります。従つて我が派遣團一行

も自然これ等諸外國の青少年團代表者と比較される立場に立つたので、何れも大いに責任を痛感し只管自肅自戒したのであります。

さて、私と渡邊參與は、そこでニュルンベルグより迎への自動車に差し廻されるのを待つてゐましたが、後になつて「どうにも都合がつかないから、濟まぬが何とかして來てもらひたい」といふ電話があつたのであります。これには私達二人はちよつと當惑してしまつたのでありますが、ことの次第を耳にしたその町の或實業家から「それでは私が自分の車でお送りしませう」といふ好意ある申し出がありましたので、渡りに船とばかり早速お願いひし、愈々ニュルンベルグ指して出發したのであります。

**女運轉手** さて車中から見る沿道には、何れも大會を彩る色々の裝飾が施され、家々の窓はハ  
ーケンクロイツの旗や櫛の枝葉に美しく飾られ、そこには早くも溢れるばかりのお祭り氣分が漂  
つてゐたのであります。しかもかうした空氣は車が會場に近づくに従つて一層濃厚となつて來ま  
した。ところで自動車はニュルンベルグの市内にはいるには、最寄りの警察で「入市許可證」を  
もらはねばならないのであります。そこで、その實業家も警察署の前に車を停めて、自らその中  
にはいり、入市の手續きを行つてゐました。

そこには私達同様入市許可證をもらはうとする人が、後から後からやつて來て、全く自動車の

多く、この通りを這上つてゐるやうです。ところが私達の車は停車位置が悪かつたため、その場所

そこには私達同様入市許可證をもらはうとする人が、後から後からやつて来て、全く自動車の

洪水といった有様だったのであります。ところが私達の車は停車位置が悪かつたため、その場所を變更へんかしないと、後から来た車はどうしても警察署の前にうまく並べないのです。そこで車の中にゐた私と渡邊參與は、どうしたらよいか施ほす術じゆつもなく、次第にふえて来る自動車の群を眺めて、早くその實業家が来てくれればよいが、とやさもきしてゐたのであります。するとその様子を助手臺に坐つて見てゐた例の實業家の細君——一見四十歳前後でした——は、やをら身を起してハンドルを握ると、こともなく車を動かし、私達の心配をたちどころに解消かいせうしてくれたのであります。

一體ドイツでは、女がオートバイの後部に乗つたり、或ひは自ら操縦さうじゆうする様をよく見かけたのですが、今またこゝでこの夫人が自動車を苦もなく運轉するのを見て、これは日本ではちよつと見られない圖だと感心しました。

前にもお話したヒットラー・ユーゲントの體育には、純粹體育、國防體育、行軍かうぐん及び野營やえいの三つがあり、その國防體育の中にはオートバイ隊が組織されてゐて、現に十萬人の隊員があるといふことを聞き、今日ドイツがかくの如き交通機關の操縦さうじゆうについて、如何に年少のものからその教

育に心血しんけつを注そそいでゐるかを知り、またかくの如く一般人が女子に至るまで如何によくかうした知識技能しきぎのうを體得たいとくしてゐるかを見て、深く考へさせられたのであります。

ヒットラー大行進 昨年のニュルンベルグ大會は九月五日から十二日までといふことになつておましたが、事實上は九月六日のヒットラー・ユーゲントの國旗行進だんきかうしんによつて始まつたのであります。この行進といふのは、旅館のバルコニーに總統が立つてゐるとその前を、全國各郡より選せん拔はつされた優良青少年が各自所屬の青少年團旗を捧持ほうぢしつゝ行進するのであつて、アドルフ・ヒットラー・マルシュ（ヒットラー行進）と稱いふせられてゐるのです。私は親しくこの行進を見て、これこそ青年を奮起感激ふんきかんげきせしめ、これこそヒットラー總統に對する忠誠ちゅうせいの念を喚起くわんきせしめるものと考へ、全國を統一する上に頗る貢獻こうけんするところがあらうと思ひました。

こゝに集る各郡の代表青少年は、まづ各縣に於て縣の青少年代表として約一週間嚴格げんかくな訓練くんれんを施ほどこされ、この訓練が終ると愈々ニュルンベルグの大會目指して徒步行進とほかうしんを起すのであります。この行程は一日三十軒さんじゅうくわを超過し得ず、となつてゐますから、最も遠隔えんかくの地にゐるものは片道だけで六週間の日子を要するといふことであります。

大會の意義 さてドイツに於ては毎年九月、年中行事としてこのニュルンベルグ大會を開催す

六週間の日子を要するといふことでありました。

## 大會の意義

さてドイツに於ては毎年九月、年中行事としてこのニュルンベルグ大會を開催するのでありますが、この大會はドイツが國民の人心を統一し、各方面の聯絡強調をはかる必要上最も力を入れてをるもので、しかも國策の最高方針を内外に宣言する一つの機會をつくるものとして非常に重要視されてゐるのであります。

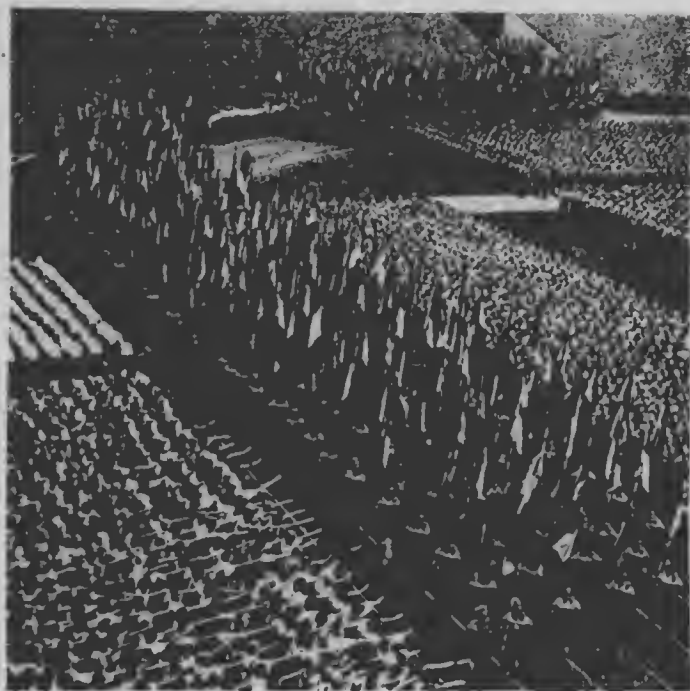
私はこの大會の事實上の第一日が、今お話した青少年團の團旗行進を以て開始されるといふことを知つて、誠に意義深いものがある、と痛感しました。本年はこの行進が九月六日に行はれたのでありますが、實際各地青少年代表達が、長途の行進によつて日に赭けた顔に凛々しいドイツ魂を現して、堂々ヒットラー總統の前を行進する様は本當に涙なくしては見てゐられなかつたのであります。毎年ニュルンベルグ大會中の土曜日は、ヒットラー・ユーゲントの大會期日となつてゐますが、それが本年は九月十日に當りました。

## 若者に期待

一體ヒットラー總統は他の團體——例へばSS（親衛隊）SA（突撃隊）AD

（アルバイツ・ディンスト）等——の大會の時に比べると、このヒットラー・ユーゲントの大會に際しては特に非常によく努められ、現に參集した青少年達には、洩れなく自分の顔が間近に見

得るやう、會場内を殆んど隅々まで巡回じゆんくわいされるといふ有様で、この様を見るにつけても、如何に青少年の上に多大の期待をかけてをらるゝかが判ると思つたのであります。



ニユルペングル大會の旗行進行

さてこの大會が終ると、この行進に參加した青少年代表達は全部、ランスベルグといふ所に行くことが例となつてゐるのださうです。このランスベルグは、嘗てヒットラー總統が幽囚の身となつたところのある所で、しかも近代の世界的名著と稱せられる例の「我が闘争」を起草した歴史的土地なのであります。こゝに到着した前述ぜんじゆつの青少年達は、ヒットラー總統自身の手から、「我が闘争」を一冊づ

ゝ授與せらるゝといふことでありますが、その時に於けるこれ等青少年の感激かんげきは如何ばかりでありませうか、實に想像に餘りあると思ふのであります。

ゝ授與せらるゝといふことでありますが、その時に於けるこれ等青少年の感激は如何ばかりでありませうか、實に想像に餘りあると思ふのであります。

かくて右の行事が終ると、彼等は適宜に編成された臨時列車に乗つて、それ〴〵郷里に歸るのだと言ふことであります。

**参加の名譽** 聞くところによればこのアドルフ・ヒットラー・マルシュに参加する青少年には、各自新調の制服二著とその他一切の必要品が支給され、學校在學中のものは、この間當然の休暇が與へられ、しかもこの休暇により、本人の學業成績には何等の影響も與へられないことになつてゐるといふことでした。また工場、商店等に勤務するものは、右の期間中はそれ〴〵賃銀が支給され、本人に對しては何等の不利益も來さないやうに定められてゐると聞きました。かういふわけですから、このアドルフ・ヒットラー・マルシュに参加することは、獨り本人の名譽であるばかりでなく、この参加者を出した學校、會社、工場等の誇りとして、一般社會の人からも多大の關心を持たれてゐるのであります。また、各縣の参加代表者は、會場へ參集する途中それ〴〵トラックを隨行させ、これに一切の荷物を積込み且つ必要なる醫療設備も携行し、更に各郡縣の指導者はもとより醫師も必ず付き添ふことゝなつてをります。

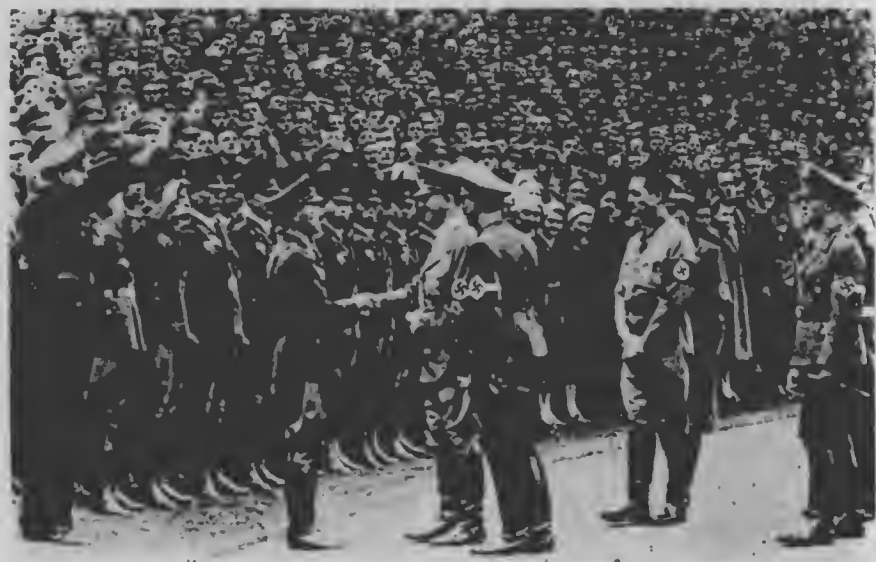


私達は今回の訪獨中各地方に於て、幾回となくこれ等の行進に出會ひましたが、彼等が極めて重い團旗を捧持しつゝ日に赭けた顔付で、歌を歌ひながら、颯爽と行進して行く様を見て「ドイツの強味はこゝだな——ドイツこそ確に將來がある」としみじみ感じ入つたのであります。

**立派な態度** 先にもお話した通り、ニュルンベルグ大會に於けるヒットラー・ユーゲントの大會は九月十日でありましたが、この日私達一同の著用してゐた制服並びに一行の行動について、是非聞いて戴きたいことがあります。といふのは、同夜外相リッペントロップ氏の招待による會合があつて、私は會場であるドイツチャ・ホーフ（ドイツ旅館）に行つたのでありますが、偶々その席には北海タイムスの社長東武氏を團長とする新聞協會の人々も招待されてゐたのであります。ところで私達がそこに到着すると、これら新聞協會の人々は交々私の所にやつて來て、次のやうなことを話したのであります。

今日自分たちもヒットラー・ユーゲント大會に招待されて、特別席から見學したのであるが、そのときに或者が「左側の向ふの方に整列してゐる一團は、どうも胸に日の丸の旗をつけてゐるやうだが、あれは確かに日本から來た青少年團の代表者であらう」と言ひ出した。すると他の者

やうだが、あれは確かに日本から來た青少年團の代表者であらう」と言ひ出した。すると他の者



手 振 の 激 誠 の 著 著 と 統 總 ヒ

が「いや、日本の派遣團は、恐らくあんな立派な服も著てゐまいし、またあんなに規律正しい行動などすまい」と言ふ。こんなわけで二派に分れて大いに議論が沸騰したが、とどの詰り「では一つ望遠鏡で確かめようではないか」といふことになり、改めてよく見ると、如何にも胸間に燦たる日の丸のマークをつけた紛ふ方なき日本派遣團の青少年であつた。「いや、これは愉快だ」と一同大喜びで話し合つてゐるとき、ヒットラー總統は派遣團の左翼から視閲を開始し、最右翼に來るや、つと手を差し延べて團長である貴下と握手した。自分達はこの次第を遙かに望み見てゐたが、全く諸君の堂々たる態度には意を強くしたのである。

かういふ話を聞かされて、團長である私は非常に面目を施し、また同時に新聞協會の先輩から一行の勞苦を憐れはれその御好意に深く感謝したのであります。

なほ、この服裝についてはもう一つ面白いことがあつたのです。それはそれから數日後、九月十八日ウィーンで我が内務省のベルリン駐在官重成格氏に出會つたときのことです。同氏は、日獨防共協定成立後、我が内務省がベルリンに駐在員をおくことになつてから、最初の人として赴任したのであつて、渡獨の折には我々一行と共に靖國丸に同船したのであります。かうしたわけですから、既にその際我々派遣團一行の制服はよく知つてゐたわけなのですが、その後私達がベルリンに到着した折、同市在住の邦人一同から派遣團の國際服として寄贈された新らしい制服はまだ知らなかつたのであります。

**見事な服裝** ところで私と重成氏とは、その折ウィーン駐在の山路總領事から晝餐の招待を受けたのですが、席上重成氏は私の顔を見るや否や「君は日本の青少年團代表者を引率して來ながら、九月十日のヒットラー・ユーゲント大會に派遣團が一人も顔を出さなかつたのは、一體どうしたわけだ、怪しからぬではないか」と言ふのです。で私は「そんな馬鹿なことがあるか、君は

ヒットラー總統がルーマニア婦人代表に握手したのを知つてゐるか？」と聞きました。すると重

したわけだ、怪しからぬではないか」と言ふのです。で私は「そんな馬鹿なことがあるか、君は

ヒットラー總統がルーマニア婦人代表に握手したのを知つてゐるか？」と聞きました。すると重成君は「勿論知つてゐた」と言ふ。私は「あのルーマニアの婦人代表の右隣にゐた横隊が我々一行だつたのだ。君こそどうしてそれに氣が付かなかつたのだ」と應酬しました。そこで重成君は初めて合點が行つたやうに「いや、さう言はれれば確かにルーマニア婦人代表の右側に一團の人々のゐたのは知つてゐた。しかし態度といひ制服といひ餘りスマートで堂々たるものだつたので、あれがまさか日本人の諸君だつたとは思はなかつた。いや失敬々々」といふことになつて、大笑ひしたのでありました。

**きは立つ日本** 九月十二日、さしも盛大を極めたニュルンベルグ大會の諸行事も、茲に一切終了しましたので、團長である私も參與の渡邊伯爵も、團員一同と共に思ひ出多いニュルンベルグの地を出發し、團員の宿泊地であつたアンスパッハに歸着しました。そしてそこで一泊し翌十三日同地を立つて舊オーストリアに向つたのであります。が、こゝで、その出發當時の模様に関し是非お話したいことがあるのです。

先にも述べた通り、九月五日私と渡邊參與とはヒットラー總統の招待を受けてゐたのでニュル

ンベルグに向ひ、殘餘の二十八名はこのアンスバッハに分宿してゐたのでありますが、この時實をいふと私は非常に心配したのであります。といふのは先づ團員全部がドイツ語をしやべれるわけではなく、それに何しろ一般民家に分宿するのですから、自然團長なり幹部なりの世話も行き届かないし、また同時に世界各國の青少年代表が宿泊してゐるので、それと比較されるやうな氣もする……こんなわけとにかく心配で堪まらなかつたのであります。然し、その一面、派遣團員一同も既に五月三日の結團以來前後四ヶ月に亙り相當訓練を経て來てゐるのだから、最良目ではないがもう何處へ出しても決して引目はない——といふ考へもあつたのです。とにかくそんな次第で、私も、まあどんなにやるものかやらせて見ようといふ肚が決まつたのであります。

さて話はもとに戻つて、九月十三日私達一行がアンスバッハを出發しようとする、團員達が分宿してゐた各家庭では、主婦を始めとして家族一同、それこそ小學校の兒童までわざわざ學校を休んで、皆手にく花束を持つて見送りに來、しかも碧眼に涙を湛へて別離を惜んでゐたのであります。そして同市當局の首腦者や或ひはその地方のヒットラー・ユーゲントの人々も異口同音に、「日本の青少年代表諸君は實に規律的であつた。それに各家庭の人々とも親しみが深かつ

たので、實祭その家の親戚の者が來たといふやうな印象を與へたのである。とにかく他の國の代

音に、「日本の青少年代表諸君は實に規律的であつた。それに各家庭の人々とも親しみが深かつたので、實際その家の親戚の者が來たといふやうな印象を與へたのである。とにかく他の國の代表達とは全く段違ひで實に立派であつた」と口を極めて賞讃したのであります。

私はかうした情景を目のあたり見、またかうした賞讃の聲を親しく耳にして、團員諸君も各自「自分は日本青少年の代表である」といふ責任感を持ち、またそれ〴〵優秀な素質を持つてゐる。からこそ、かく賞讃の的となり得たのであり、更に渡獨後各方面と接觸した結果、國際人としても相當出來上つて來たのだといふ感じが起つて、堪まらなく嬉しく思ひました。

**天皇陛下** こゝに重ぬくアンスバッハの市民を感激させた事があつたのであります。私は平素團員に對して 天皇陛下といふ言葉の出たときは直ちに直立不動の姿勢をとらせ、話をする私自身も勿論正しい姿勢をするのを習慣としてゐたのであります。かうした訓練の結果は言はず語らずの間にドイツの元首たるアドルフ・ヒットラーの名稱に對しても同様となつて、一度その名の出たときは一同直ちに姿勢をあらためたのであります。

かうした團員の謹嚴な行動は、言葉こそ通じないがドイツの人々に非常に深い感銘を與へたのであります。さればこそ、彼等は私達一行を指しながら口々に「グーテ・ディスチプリン」（良き

訓練くんれん）と言つて、その感激の程を吐露とろしてゐたのであります。私はかうしたことを考へるにつけ、一行を引率いんそつして行つた團長として、團員一同如何に自肅じしよく自戒じかいし、よくやつてくれたかが推察すんさつせられ、唯々かんが感慨無量わむやうといふ他なかつたのであります。

## 一三 舊オーストリアの旅

風雲急 ニュルンベルグ大會が終ると、私達一行は前述ぜんじゆつの通り舊オーストリアの旅に上り、九月十三日から二十日まで恰度一週間を同地方に過ごしたのであります。

ところで、例のチェッコ問題が勃發ぼつぱつしたのもその最中さいちゆうだつたのであります。大體私達一行は、七月二日ドイツ入國以來實はその問題については何にも知らなかつたのでした。また新聞紙上にも全然現れてゐなかつたのであります。しかるにニュルンベルグ大會の最終日たる九月十二日の夜、ヒットラー總統のチェッコ問題闡明に關する演説を耳にするに及んで、初めて兩國間の事態じたいが相當切迫せつぱくしてゐるのを知つたのであります。爾來じらいドイツの各新聞紙は、この問題に關する記事

と大々的に収束し、またラヂオのニュース放送も刻々諸外國の動向等を報道するので、私達一行

が相當切迫してゐるのを知つたのであります。爾來ドイツの各新聞紙は、この問題に關する記事

を大々的に取扱ひ、またラヂオのニュース放送も刻々諸外國の動向等を報道するので、私達一行も漸く重大關心を持つて事態の推移を觀望するやうになつたのであります。

さて私達一行は九月十七日朝九時半オーストリアのグラーツといふ町を出發し、舊首都ウィーンに向ふ豫定だつたのですが、さて時間が來ていざ出發となると、肝腎の自動車が來ないので、十時になつても十時半が來ても、十一時を過ぎてもまだ來ない。そこで、とうとう我慢が出來なくなつて、なぜ豫定が變更されたのか、そのわけを聞いて見ました。

ところがチェッコ問題が切迫して來たため、突然ガソリンの統制が實施され、今日は午前零時から、一先づ一齊販賣禁止の處置がとられることになりました。そのため自動車の運轉が不可能となつたので「唯今軍隊に配給讓渡を交渉中でありますから少し待つて下さい。やがて出發出来るやうになりませう」といふ返事だつたのであります。そんなわけで、十一時半になつて陸軍當局の好意によりやつとのことで出發出来るやうになり、愈々ウィーンに向つて發車したのであります。

天に代りて 私達の自動車はその途中鐵道線路に沿ふ國道上を進んで行つたのですが、沿線



到る處で各種の自動車を滿載まんさいして慕進ぼくしんする貨物列車に出會つたのであります。これ等の自動車は軍當局の手により軍用として微發ちようはつされたもので、なほそれには多數の兵士も乗り込んでをり、我々の方に向つて頻しきりにハンケチを振つてゐる——この様はどう見ても私達一行に向つて挨拶あいさつしてゐるやうなものでしたので、我々も直ちに携帶用けいたいようの日の丸の小旗を取り出して、手に手にこれを打ち振り、力の限り答禮の意を表明へうめいしたのであります。と今度は、この日の丸の旗を眼にしたドイツの兵隊が熱狂ねつきやうの頂點ちやうてんに達し、全く狂喜亂舞きやうきらんぶといつた具合でハンケチを大振りに振り廻し出したのです。この光景に我々も思はず感に打たれて、恰度日本の出征兵士を送るやうな氣持になり、一齊に咽喉も裂けよとばかり、

天に代りて 不義を討つ

忠勇無双の 我が兵は

歡呼の聲に 送られて

今ぞ出で立つ 父母の國

と高唱かうしやうしました。そしてこの聲が車上のドイツ兵の耳に達したのか、彼等の熱狂振りは愈々盛ん

となつて來たのであります。

と高唱<sup>かうしやう</sup>しました。そしてこの聲が車上のドイツ兵の耳に達したのか、彼等の熱狂振りは愈々盛んとなつて來たのであります。

また我々派遣團一行の案内役として同行してゐたヒットラー・ユーゲントの人々も、私に向つて「今貴下方が歌はれたのは何の歌ですか？」と質問して來ました。私は「あれは日本の出征兵士を送る歌なのです。私達は今それを歌つてドイツの兵隊さんを見送つたのです」と説明しました。彼等は喜んで、全く感に堪<sup>か</sup>へないといふ様子だつたのであります。我々の乗つてゐるバスがウィーン市に近づく、同市の方面から走つて來る自動車は、どれもこれも兵隊を滿載<sup>まんさい</sup>してをり、中には飛行機を積んだトラックもあるといつた具合で、愈々以て戰雲急<sup>せんうんきふ</sup>を告ぐるの感が濃厚<sup>のうこう</sup>となつて來たのであります。

**世界の注視** 話しは少し飛びますが——九月二十一日私達はベルリンに歸着し、翌二十二日<sup>よま</sup>暇乞ひの挨拶のため日獨協會を訪問したのですが、その際私はその應接室にあつた六月二十一日附東京出版の「チェッコ問題はどうか？」といふパンフレットを一讀し、獨・チェ關係がこんなに早くから全世界の視聽<sup>しとん</sup>を集めてゐたのか、と秘かに喫驚<sup>びつくり</sup>したのであります。實際私達は親しくドイツ國內にゐながら、この問題に對しては全く知る機會がなかつたのでしたから。勿論新聞

紙の如きも、先に述べた通りこの問題に關しては全然報道してゐなかつたのです。私は自分自身かうした立場に置かれてゐたのに氣がつき、ドイツの所謂言論統制ようせいなるものが、如何に強力且つ徹底的てつていできなものであるかにしみじみ感じ入つたのであります。

心からの歡迎 オーストリアの舊首都ウィーンに入つたのは、九月十七日のことでした。そこで私達一行は正に熱狂的ともいふべき大歡迎を受けたのであります。何しろ出迎へのヒットラー・ユーゲント八千名、同じく一般市民三千名といつた具合で、以來十八、十九、二十の三日間に互り同市滞在中は實に大歡迎の連續だつたのであります。次にその中でも特に愉快だつた印象をお話しませう。

それは九月十九日夜、日本總領事館において、私達一行のためにビーア・アーベント（麥酒の夕）が催された際のことでありました。この宴會に招待を受けたドイツ側の上席客はウィーン市のガウライター（ナチス黨の支部長）だつたのであります。ところが、この人は恰度その時自動車事故のため右膝に負傷ふしやうし、歩行が困難で靜養中であるとのこと、特に同氏の苦痛くるつぷを考慮して、豫め會の進行を打合せたのでした。そして午後八時になつたならば、まづ山路總領事がドイツ人

同市滞在中は實に大歡迎の連續だつたのであります。次にその中でも特に愉快だつた印象をお話しませう。

あらかじ  
豫め會の進行を打合せたのでした。そして午後八時になつたならば、まづ山路總領事がドイツ人

側に向つてドイツ語で挨拶し、これに對しガウライターが同じくドイツ語で答辭を述べ、次に同總領事より私達一行に對する日本語の歓迎挨拶があり、最後に私の日本語の答辭及びその獨譯があつて、これが終ると共にガウライターは歸館する、といふことになつてをり、その時間も大體午後八時三十分頃と豫定されてゐたのであります。

**俄か合唱團**　ところが實際は右の豫定行動が極めて順調に進行したため、午後八時廿分にはもう

プログラム全部が終了してしまつたのでした。そんなわけで、なほ多少時間が残つてゐたので、派遣團員は京都出身の秋月鏡歡君のタクトで「日本青年の歌」「愛國行進曲」等を合唱したので、すると、これが非常な喝采を博し、歌ひ終つた團員が自分の席に歸らうとすると、我々の案内として同席してゐた例の退役海軍大佐ロイテンベック氏の如きはわざ／＼進み出て來て「一寸待つてくれ」と呼び止め、これも亦我々を案内して來た當年十八歳のターナー君を捉へ、秋月君に代つてタクトを取らせたのでした。

そこで團員一同、今度はターナー君の指揮の下に聞き覚えのヒットラー・ユーゲントの歌を歌ひました。すると、折からその部屋に集まつてゐた數十名のドイツ人達は、一齊にこれに合せて

合唱を始め、こゝに圖らずも一青年ターナー君の指揮の下に、日獨兩參會者を打つて一丸とする一大聯合合唱團が即座に構成された形となつたのでした。これは、特にドイツ人達に非常に良い印象を與へたやうに思はれたのであります。

**飛行機はいかが**　しかしこの愉快な合唱も終りを告げ、やがてガウライターが退出することとなつたので、私達一同は見送りのため三列縦隊に並びました。すると、彼は不自由な病軀を手にした杖に託しつゝ私達の前につか／＼と進んで来て、静岡縣出身の瀧戸直正君を捉へ「何か自分に對する希望はないか。遠慮なく言つてくれ」と言ひました。瀧戸君は「私達一行入獨以來真に至れり盡せりの歡待を受けたのであるから、もうこれ以上何も希望することはない。唯、出来ることなら、現在オーストリアの合併により所謂大ドイツが實現されたのであるから、今後何年か経過した後、もう一度貴國をお訪ねして、眞に充實したその姿を見たいものだと思ふ」と返事をしたのです。するとガウライターは「いや、私の言ふのは、そんな先の永い話ではない。今すぐ出来ることで何か希望はないか？」と言ふ。そして瀧戸君が「ない」と答へると、一寸考へてゐたが「うん、さうだ、貴君等は飛行機に乗つて見たくないか？」と尋ねました。そこで瀧戸君は

即座に「是非乗つて見たいと思ふ」と言ふ。すると「よし、引き受けた。では明日午前八時、十

たが「うん、さうだ、貴君等は飛行機に乗つて見たくないか？」と尋ねました。そこで瀧戸君は即座に「是非乗つて見たいと思ふ」と言ふ。すると「よし、引き受けた。では明日午前八時、十名に對し飛行機を提供しよう」と即座に快諾くわいだくされました。しかし、これを聞いた團員一同は「三十名の中から十名を選ばねばならないとはちと困るな」と異口同音いこうどうおんに私語さしやき合つたのです。で、瀧戸君は、改めてガウライターに向ひ「團員一同、飛行機に乗せて戴くことは大變に嬉しく思ふが、どうも十名だけでは困る……と言つてゐる」と話しました。すると、彼は大きくうなづき、「よし、三十名全部引き受けた」と言つて、直ちに來合せてゐたナチスの飛行隊長を呼びよせ、その準備方を命じたのであります。

**オペラはいかが**　ガウライターは更に言葉を續つぎ「まだ他に何か希望はないか？」と聞きました。しかし、一體これ以上何と言つたらよいものか皆ちよつと返事に困つてしまつたのです。すると、丁度そこに居合せた日本人の夫人達が、私達の耳もとに口を近づけて「オペラ——とおつしやい」と私語さしやいたのです。そこで瀧戸君は「オペラ」と答へました。するとガウライターは快く「よし引受けた」と言つて、即座にナチス黨の係員を呼び寄せ、翌二十日の夜一等席の最前列に三十名並べるやう用意を命じたのであります。

そんなわけで二十日には、私達一同生れて初めての経験<sup>けいけん</sup>を二つも味はふことが出来ました。先づ午前中には、飛行場<sup>おもむ</sup>に赴き、一人乗の飛行機二臺と三人乗の飛行機一臺が提供され、古都ウィーンの上空を快翔<sup>くわいしょう</sup>してダニューヴ河畔<sup>かわ</sup>の景勝を心ゆくまで瞰望<sup>かんぼう</sup>し、また夜は夜で、出場人員二、三百名にも及ぶオペラの豪華版<sup>がうくわはん</sup>を観賞<sup>くわんしょう</sup>したのでありました。實際このオペラは、科白<sup>せりふ</sup>こそよく判らなかつたが、とにかく日本では容易に見られないものだと思ひました。

しかしそれにもまして私達の深く感じたことは、ナチス黨の責任者の絶對權<sup>ぜつたいけん</sup>の行使が如何に強力なものであるか、といふことでした。そしてそれと共にドイツ人全體が、私達一行を如何に心から歓迎してくれたか、といふことだつたのであります。

三度ベルリンへ 九月二十一日私達は、三度ベルリンの土を踏<sup>ふ</sup>みました。そしてその日は、愈々この思ひ出多い盟邦ドイツに別れを告げるため、出發の準備や挨拶廻りに多忙な日程を過ごし、

さて廿四日ベルリンを發つてジュッセルドルフに着いたのであります。その夜、ドイツ側は私達一行のため公式<sup>こうしき</sup>の送別宴<sup>もようば</sup>を催し、また翌廿五日にはジュッセルドルフ驛頭に數百名のヒットラー・ユーゲン<sup>ユーゲン</sup>トが出勤して、華やかな送別の會が行はれました。が、こゝで私達一行に特に強い

印象を與へたのは、この送別のためわざ／＼ベルリンからジュッセルドルフに出張して來た外國

！・ユーゲントが出動して、華やかな送別の會が行はれました。が、こゝで私達一行に特に強い印象を與へたのは、この送別のためわざわざベルリンからジュッセルドルフに出張して來た外國局長ハンス・ラウダーバツハ氏だつたのであります。聞くところによれば、同氏は當年とつて僅か二十一歳の一青年で、近々入黨を前にして新設の外國局長の椅子に納まつたといふことで、これによりヒットラー・ユーゲントの指導者階級が、如何に年若いかを痛感させられたのであります。

## 一四 若さは國の命なり

**若き指導者** 先にも屢々その名を擧げたドイツ青少年團指導廳長官バルダー・フォン・シーラハ氏が、國務大臣にも比すべきこの位置についたのは、今年から數へて丁度六年以前——即ち一九三三年のことで、當時氏は年齡漸く二十六歳に達したばかりだつたのであります。尤もヒットラー・ユーゲントの誕生は、それより更に古く一九二六年のことで、これは一九二三年ヒットラー總統が初めてナチス黨を組織してから僅か三年目であります。勿論當時のヒットラー・ユーゲ



ントは今日のやうな整然とした組織も機構も持つてゐなかつたのです。

ヒ・ユの起原 さて、ここでヒットラー・ユーゲントの發生の動機について、一應その出發點

に遡つて、結成當時の状態を顧ることゝ致しませう。

更めて申すまでもなく、

ドイツは彼の歐洲大戰に於て、戰鬭行爲そのものには常に優勢を示してゐたのでありますが、結局に於て所謂國家總力の不充實が原因となり、慘憺たる敗北を喫



*Herrn Reichsminister Asahime mit freundlicher  
Erinnerung an den Besuch bei der Adler-Legende!  
in Kameradschafts-  
Sept. 1938*

(のもたれら贈に者著) 像育官長ハラージ

せざるを得なかつたのです。そしてその結果、例のベルサイユ平和條約が成立して、敗戰國ドイツは各戰勝國に對し、俗に天文學的數字といはれる程の莫大極まる賠償金を課せられ、そのため一般國民は、もはや未來永劫浮び上ることが出来ない、といふ絶望的な印象を持つやうになりま

ツは各戰勝國に對し、俗に天文學的數字といはれる程の莫大極まる賠償金を課せられ、そのため一般國民は、もはや未來永劫<sup>えいこく</sup>浮び上ることが出来ない、といふ絶望的な印象を持つやうになりました。

祖國愛　しかし、一方眞にドイツ國家を熱愛<sup>ねんあい</sup>する青少年達は「祖國ドイツのこの難局を打開する



誓の手握  
に下の旗の「よめ覺眼よツイド」

るには既成勢力は頼むに足らぬ。よろしく我等青少年の力によつて、斷乎<sup>だんこ</sup>その大業<sup>じやうじゆ</sup>を成就しよう」と、烈々火の如き祖國再建の意氣<sup>いき</sup>を示し、そしてヒットラーの演説を聴くたびに、續々としてその傘下<sup>さんか</sup>に駈<sup>は</sup>せ集り、ヒットラーこそ我々の眞の指導者である、として彼に一命を捧げドイツ興隆<sup>こうりゆう</sup>のため彼と生死を共にし

つつ、敢然<sup>かんぜん</sup>反對黨と闘争し來つたのであります。

ヒットラーの涙　一九三二年十月一日——これ等祖國愛に燃ゆる青少年達十萬は、ベルリン郊外ポツダムに集合し、翌十月二日、前後實に七時間半に亙<sup>わた</sup>る一大分列行進を行ひ、盟主<sup>めいしゅ</sup>ヒットラ

一に對する熱烈極まる忠誠の至情を表示しました。この時受禮臺に立つて、終始舉手を續け、堂々過ぎ行くこの力強い行進を視閲してゐたヒットラーの兩眼からは溢れ出る感激の涙が止まらなかつた、といふことです。誠にさもあるべきことと思はれるのであります。傳へらるるところによれば、ヒットラーはこの時「全國の青少年がかくの如く自分を支持し協力する以上、もはや、自分の政治上の勝利は近づいた」との確信を得たといふことです。果せる哉、翌一九三三年一月三十日、彼は遂に榮譽ある宰相の印綬を帯びるに至つたのであります。この年六月十七日、ヒットラー・ユーゲントは、現在の如き整然たる組織、機構を持つに至り、先にも述べた通りシーラハ氏がその長官に任命されたのであります。

**興隆の原動力** ヒットラーは、既に衆知の如く「青少年は青少年により指導せられざるべからず」と主張し、またこれがヒットラー・ユーゲントの一貫した原則となつてゐるのです。實際向ふに行つて彼等に直接觸れてみると、その指導者達が如何にも若々しいのに氣がつかます。しかも唯若いといふだけではなく、その人柄に於て、體格に於て、或ひは氣魄に於て、知識に於て、更にその見識に於て自ら頭が下るのを覺えさせられたのです。

彼等は先にも述べた通り、何れも過ぐる一九三三年ヒットラー總統が政權をその手に掌握する

更にその見識に於て自ら頭が下るのを覚えさせられたのです。

彼等は先にも述べた通り、何れも過ぐる一九三三年ヒットラー總統が政權をその手に掌握するに至る以前より彼の信奉者としてまた同志として、生命を賭して苦闘して來た人々でありますから、よしんば歳は若いといつても、確りしてゐるのは寧ろ當然といはねばならないのです。従つて彼等の手に指導せられつゝあるヒットラー・ユーゲントも、事の起りは家庭や學校と相並んだ人物育成の機關であり學校教育を補充する立場にあつたのでありますが、現在ではその指導者達の生命を打ち込んだ努力によつて徹底的效果を挙げつゝあり、その結果ドイツ興隆の原動力はヒットラー・ユーゲントにありとまで極言せらるゝに至つてゐるので、今やヒットラー・ユーゲントは男女青少年の徳育と體育を擔當し、學校教育は單に知識の教授機關に墮してしまつたとさへ見られてゐるのであります。

實際私達は、その組織、機構についても幾多参考とすべきものがあると思ひましたが、更にそれにも増して、その指導者の指導振りについては一層學ぶべきものがあるとしみじく痛感せられたのであります。

## 一五 若きドイツ

若々しさ 以上をもつて私達一行の思ひ出多い訪獨旅日記は終りを告げるのであります。さて最後に、この度の旅行を通じて、私達の心の底にまさまさと刻みつけられた生々しい印象を一つに纏めて申し上げることに致しませう。

私達一行のこの度の訪獨は、先にも述べました通り、防共の契り愈々堅き西の盟友新興ドイツの飾りなき眞の姿を、心ゆくまで認識し、把握するために、謂はゞドイツの賓客として赴いたのでありますから、全くの話が案内されるところは一つとして感銘の種ならざるはない有様でありましたが、しかもなほその全部を通じて深く深く私達の心を打つたものは、實にその新興の意氣に燃える潑刺とした「若々しさ」だつたのであります。街を歩いてゐても、田舎を訪れても、男も女も老ゐも若きも、とにかく國內のあらゆるものを包んでゐる空氣が、この潑刺とした若々しさで充滿してゐるのでした。「若きドイツ」——この言葉こそ私達一行の受けた彼の國の印象を、

さて充滿してゐるのです。『若きドイツ』——この言葉こそ私達一行の受けた彼の國の印象を、

最も端的に表明してゐるのであります。

**力強い信念** 私はその後ひるがへ轉つて、一體何が故に今日のドイツはかくも若々しさが滿ち溢れてゐるのか——その理由について靜かに考へて見ました。そしてそれについて次の二つの理由を見出したのであります。

その一つはドイツ國民がヒットラー總統の出現によつて、その前途に力強い希望を見出し、國運興隆に對しかくこ確固たる信念を持つに至つたことであり、その二は國民生活の安定によつて各家庭が明朗になつたことであると信じます。

ヒットラー總統がナチス黨を結成したのは、先にも述べた通り一九二三年のことでした。當時のドイツは正に混亂こんらんの極に達してゐたのでしたが、彼はこの間に處し多數の同志や青少年の支持を受けつゝ身命を投げ出して奮闘し、一九三三年一月三十日漸くにしてその手に政權を掌握したのであります。そしてその身に宰相さいしやうの印綬いんじゆを帯びるや、その政綱として國民の前に掲げたものは、實に、

民族主義による大ドイツの建設！

ベルサイユ條約の破棄！

土地の獲得！

の三つでありました。しかし當時、その實現は恐らく不可能であらうといふのが、一般の定評だつたのであります。けれどもヒットラーの鐵の如き信念は覆さるべくもなく、敢てこの不可能を可能ならしめ、世人の豫想を裏切つて、見事今日の大ドイツ國を建設したのであります。そしてその彼の政綱政策がかくの如く次々に現實となつて目のあたりに展開するに及んで、ドイツ國民は祖國の前途に對し磐石はんじやくの如き確信を抱き、その將來に對して言ひ知れぬ安全感を持つやうになつたのであります。かうした事實が、それまで暗愴あんたんたる氣持で憂鬱いゆううつな日を送つてゐたドイツ國民をして、如何に明朗ならしめたかは、蓋し想像に難くないのであります。

**家庭の明朗化** 次に、各家庭が明朗になつたこと、これもまた見落し難い事實であります。それといふのも要するに個人の生活が安定し、その家の後繼者こうけいしやの將來に確りした希望を持つことが出来るやうになつたからであります。

一例を挙げれば一九三八年の如きは失業者が皆無であつたのみならず、更に勞働力不足で外國から人を招聘きようへんするといふ素晴らしさでした。これは同年二月二十日議會に於けるヒットラー總統

一例を挙げれば一九三八年の如きは失業者が皆無であつたのみならず、更に勞働力不足で外國から人を招聘するといふ素晴らしさでした。これは同年二月二十日議會に於けるヒットラー總統の演説に徴しても考へられる通り、曾てドイツ人の夢想だもし得なかつた事實であります。その演説の一節に「一九三三年一月——即ちナチス政權確立當時に於ては、全國の失業者數六百五十萬の多數に上り、その家族を合すると一千五百五十萬人の國民が失業苦にあえいでゐたが、しかるに一九三七年十月には、失業者の數は一躍四十七萬人に激減したのである」と述べてゐます。がその後幾何もなく私達の一行が訪獨した際には、前記のやうに至る所でもはや「失業者は皆無」といふことを聞かされたのであります。

次に同じ演説に於てヒットラー總統は「一九三二年に於ける國民所得の總額は四百五十二億マルクであつたが、一九三七年にはこれが六百八十億マルクとなり、僅々五ヶ年間にドイツ國民の所得總額は實に五〇パーセントの増加を見た。しかもその一面生活費の指數は、一九三二年に於て一二〇・六パーセントであつたのが、一九三七年には一二五・一パーセントで、その増加率は僅かに四パーセントに過ぎない」と言つてゐます。僅か五ヶ年間に、所得は五〇パーセント増加し、しかも生活費が四パーセントしか殖えてゐない、といふのですから何としても國民生活に大



きな餘裕が廣らまたされたことは、争はれぬ事實であります。

**萬人所を得** とにかくかうした調子で先づ各家庭の生活が安定し、更に進んではヒットラー・ユーゲント、アルバイツ・ディンスト、軍隊等の制度が確立せられて各家庭の子弟の素質が向上し、努力の如何によつては、貴賤貧富の別なくその將來をはつきり保證されるに至つた結果、前途に光明を見出し、思ひのままに自己を發展させて行くことが出来るやうになつたのであります。即ちヒットラー・ユーゲントに屬する青少年達は、それぞれその能力と努力の如何によつて、各年齢層に應じ指揮者の位置が與へられ、更にアルバイツ・ディンスト及び軍隊生活を経て、人前に成人した暁には、各自の志によりヒットラー・ユーゲントを始め夫々の方面に於て、指導者としての位置が保證されてゐるので、自然その前途に洋々たる希望を持つに至つたのであります。しかもこれは單に彼等青少年のみに止まらず、その父母達をも如何に明朗ならしめてゐるか、それは蓋し想像に難くないことと思ひます。

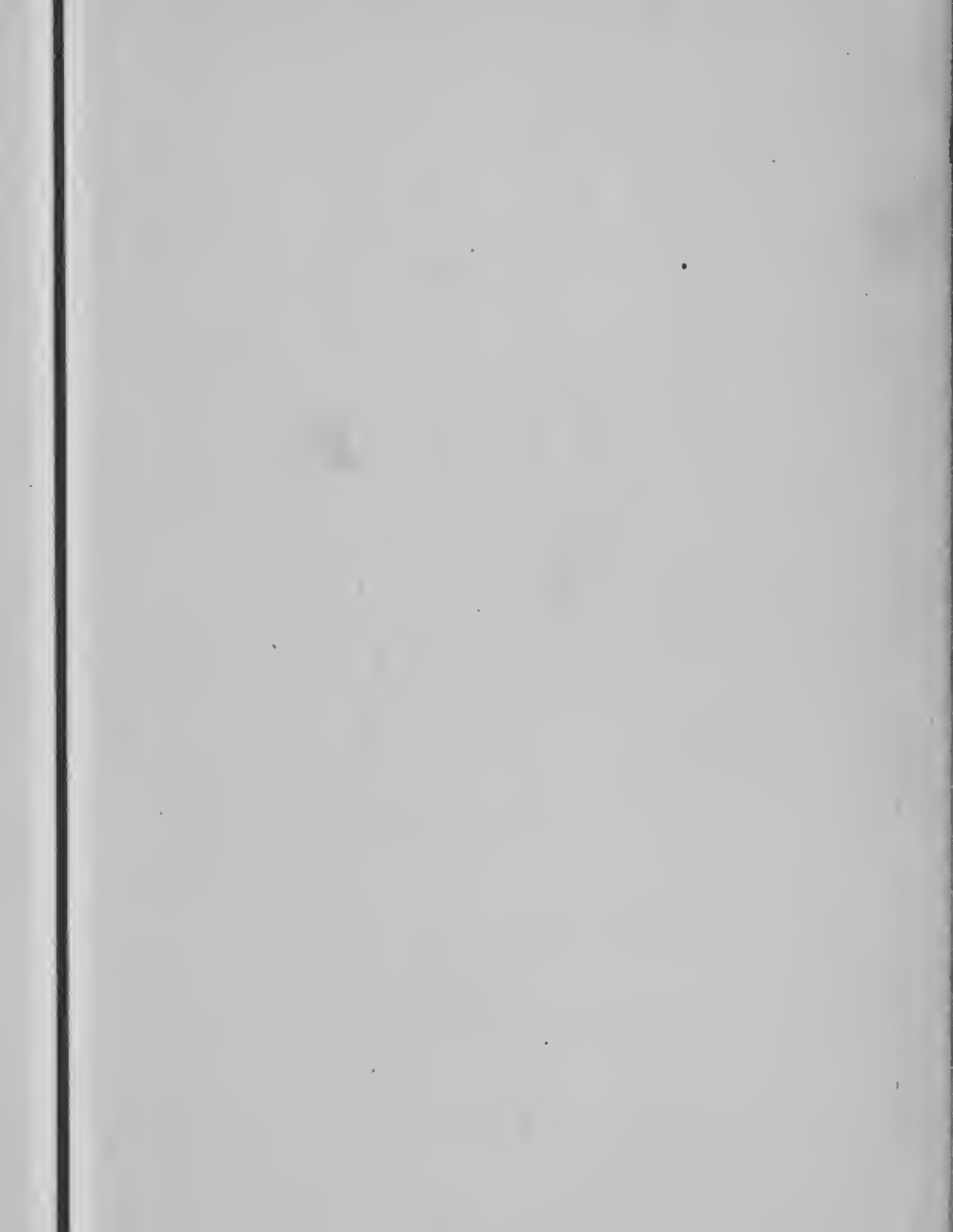
以上二つの理由によつて、今日のドイツは、若々しさが天地に充滿してゐるのであります。

「今こそドイツは立ち上つたのだ！」私達は旅の途すがら幾度かかうした感銘を強く心に受けたのであります。

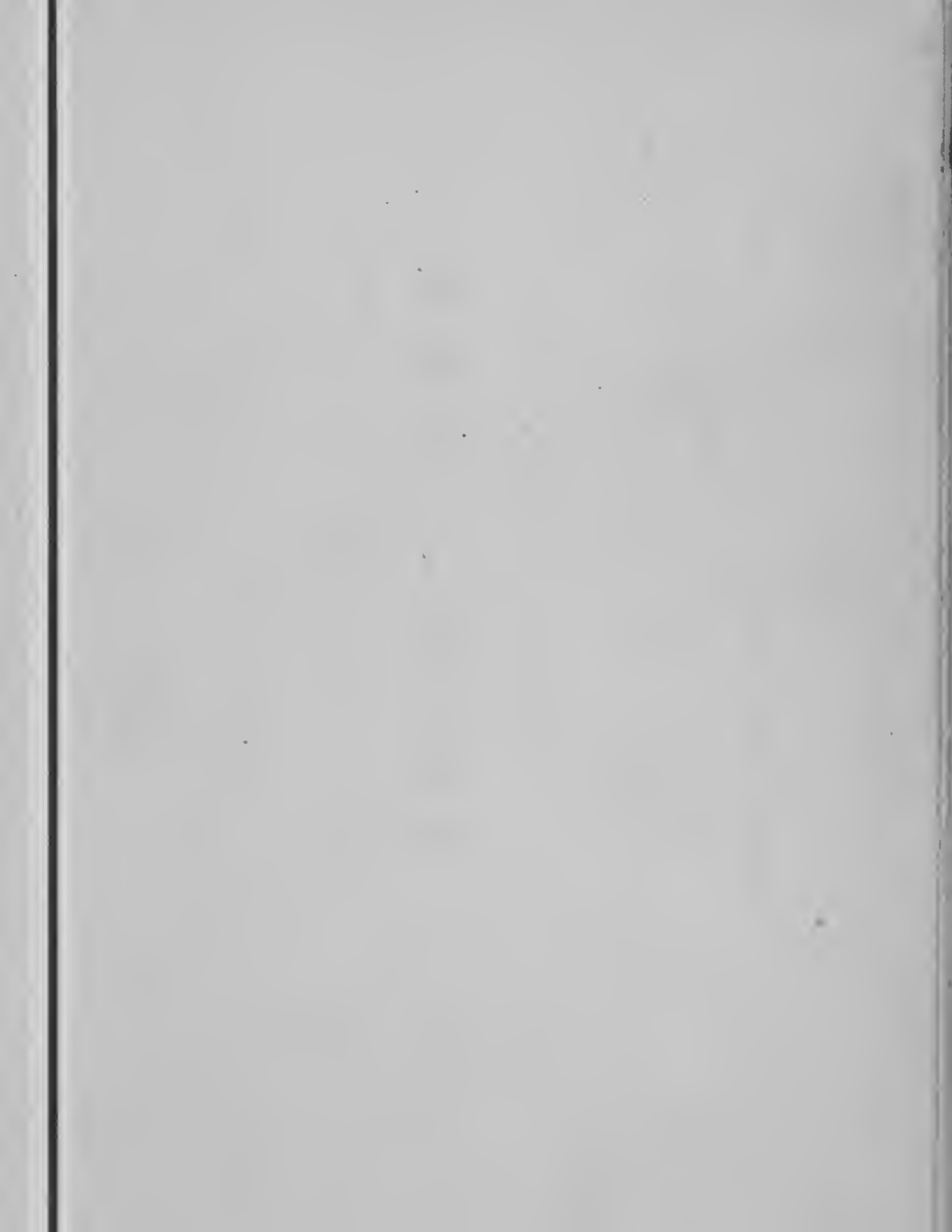
「今こそドイツは立ち上つたのだ！」私達は旅の途すがら幾度かかうした感銘を強く心に受けたのであります。

**若さなき國々** さて一度びドイツの外に出ると、この空氣がガラリと變り、フランスにしてもイギリスにしても、或ひはその他の國にしても——勿論そこには悠々<sup>いよくせま</sup>迫らざるゆとりは感ぜられますが、國民精神の緊張<sup>きんちやう</sup>の度合はドイツとは比較すべくもなく——とにかく胸を打つ若々しさといふものが全然見出せないであります。惡くいへば「元氣がない」良くいへば「落着き過ぎてゐる」とでも申すのでせうか何れにしてもドイツとは全然對蹠<sup>たいしよく</sup>的な感じを受けたのであります。

**日本の現状** 繰<sup>ひら</sup>つて我が國の現状を見るに、今日我が國民の中には往々にして祖國日本を指し所謂「持たざる國」なりとなすものが屢々<sup>しばしば</sup>見受けられるのであります。勿論これには一應の理窟はありませう。しかし私はこれに對し、先にも述べた通り「持てる國」「持たざる國」の相違は、物質の有無には非ずして寧ろその物質を利用し、活用し、代用し得る人間の能力如何にあると信じて疑はぬのであります。従つて我々日本國民は、この際一層<sup>さうさく</sup>創作工夫<sup>さうくわ</sup>に精進<sup>しやうじん</sup>すると共に、各自全力を傾倒<sup>けいたう</sup>してその分を盡し、萬民輔翼<sup>ほよく</sup>の實を擧げ、もつて天壤無窮<sup>てんじやうむきやう</sup>の皇運<sup>すううん</sup>を扶翼<sup>ふよく</sup>し奉りたいと、心から熱望<sup>ねつぼう</sup>して已まぬ次第であります。



## 第二部 ドイツ青少年運動



## 一 ヒットラー・ユーゲントの組織

### 完き組織綱

私は最初にヒットラー・ユーゲントの組織についてお話しします。大體その組織は男と女即ち性別の關係と、地域的の關係と、年齢の關係との三者が交錯して、一つの組織が出来上つてゐるといふことを御承知願つておきます。

先づ中央に青少年の指導本部があります。この青少年の指導本部は一つの省に相當するものですが、これを省といはないで青少年の指導本部と特に銘を打つたのは、若しこれを省といふことにしてその結果官僚的になつてしまふと、青少年運動が事務的になる虞がある。若し青少年運動が事務的に墮したならば、そこには生命が失はれ全く駄目になると考へたのです。かういふ風な見地から特に省といはないで青少年指導本部といつてゐることです。しかしその長官たるシーラハ氏は大臣同様に待遇せられてゐるといふことです。

即ち最高の指導本部が國にあつて、これが全國の男女青少年を指導統轄するのであります。

地域關係 日本の府縣に相當する所には、男子と女子とに分れまして、男子には男子の、女子

には女子の青少年團の本部があります。

それから日本の郡に相當する所になりますと、男子の方は二つに分れて青年團の本部と少年團の本部、女子の方も二つに分れて女子青年團本部と少女團本部と、かういふ風な具合で郡になると四つの組織になつてをります。

慈父の如く



郡の下には、日本の實情にあてはめていふと數ヶ町村の聯合の團體とでもいふべきものがあります。これも青年團、少年團、女子青年團、少女團の四つになつてゐます。その下に町村の團體があり、これも矢張り四つ、その下に大字の團體、小字の團體があつて、また夫々四つになつてゐます。

右のやうな次第ですから、下から勘定しますと小字の團體、大字の團體、町村の團體、數ヶ町

村の聯合團體、郡、府縣、國と七つの段階的な組織になつてゐるのであります。

右のやうな次第ですから、下から勘定しますと小字の團體、大字の團體、町村の團體、數ヶ町

村の聯合團體、郡、府縣、國と七つの段階的な組織になつてゐるのであります。

**年齢關係** 次に年齢の關係について申述べます。男女とも滿十歳になりますと、毎年四月二十日即ちヒットラーの誕生日を期して入團させます。男子の方は十歳から十四歳迄の者が少年團であり、十四歳から十八歳迄の者が青年團であります。女子の方は十歳から十四歳迄が少女團、十四歳から二十一歳に至るまでの者が女子青年團であります。

先に述べた最低の基礎團體である小字の團體は謂はゞ向ふ三軒兩隣りの關係とでも申しませうか、同一地域に居住する近隣の者の間で少年團ならば十歳から十四歳迄の者を網羅し人數は約十人を以て組織します。青年團ならば十四歳から十八歳迄の者約十名で基礎團體を作り、女子は十歳から十四歳、十四歳から二十一歳迄の者で、夫々の基礎團體を作るといふ風であります。

これが大字になると各年齢の層によつて編成を致します。即ち十歳の層、十一歳の層といふ風に、各年齢の層によつて夫々隊が編成されます。町村の團體も或ひは町村以上國に至るまでの團體も、全部同一の年齢の層の者だけで團體を編成するといふことになつてをります。

**指導者** それから指導者でありますが、國の青少年の指導本部には男女の指導者がをりますが、



男の人の方が多く、府縣の男女青少年團の本部になりますと、女子に對する指導者は全部女子であり、男子の方の指導者は全部男子であります。従つて府縣の女子青少年の團長さん——これは、無論女子であります。郡以下のものでも、女子の方の指導者は皆女子であります。

指導につきまして一つの原則があります。それは、青少年は青少年によつて指導せられざるべからず、といふ原則であります。これは、ヒットラーの樹立した原則といはれてをります。従つて専任の指導者にしましても、或ひは奉仕的に兼務して指導に従事してゐるものでありましても、指導者は非常に年齢が若いのであります。また各年齢の層によつて編成せられた隊では、それぞれの層の中の最も優秀な人物がその指揮をするといふことであります。ですから、僅か十七八歳の女子が女子青年團何百の人間に號令をかけてやつてゐるといふ見事な光景が展開されてをるといふわけで、府縣の青少年團などになりましたも、指導者がもう二十六七歳になりますと、年をとりすぎてゐるといはれてをります。

命を賭して ハンブルグ市は人口約百十萬許りありますが、そのハンブルグの男子青少年團長は三十歳ですが、もう年寄りだなどと言つてをりました。青少年指導本部の長官たるシーラハ氏

が長官になられたのは二十六歳、本年は三十二歳であり、我々大日本青少年獨逸派遣團が昨年九

は三十歳ですが、もう年寄りだなどと言つてをりました。青少年指導本部の長官たるシーラハ氏は

が長官になられたのは二十六歳、本年は三十二歳であり、我々大日本青少年獨逸派遣團が昨年九月二十五日、ドイツを辭去<sup>しきま</sup>する時に長官に代つて見送りに來られた外國局長ハンス・ラウダー・バツハ氏は二十一歳の青年でした。ドイツの青少年の指導者は何れもかく年齢が若く、しかもいづ



悦喜のこ榮光のこ

れもなか／＼しつかりした人達ですが、それも故なきわけではなく、皆一九三三年ヒットラーが政權を執<sup>と</sup>る以前からヒットラーの傘下に馳せ参じ、ヒットラーに命を捧げて生死の巷<sup>ちまた</sup>を潜つて來た愛國の志士ともいふべき人々だからであります。

話に聞きますと、ナチス政權の確立するまでに共產黨と戦つて來たヒットラー・ユーゲントの人々で、反對黨のために殺された者が約五百名に近く、負傷<sup>ふしやう</sup>した者が約五萬人だといふことです。さういふやうにヒットラー・ユーゲントに屬するドイツの青少年は命を捧げてドイツのために戦

つて來たのですから、年齢は若くても人物はしつかりしてゐるのだと思ひます。知識の廣さに於ても識見の高さに於ても意志の強さに於ても一切の實行力に於てもなか／＼優れてをり、おのづから頭の下るやうな人物を往々に見受けました。

入團一〇〇％ さてこの指導者達が専任か兼任かといふ問題でありますが、全國の指導者は約四十萬人あるといはれ、現在ヒットラー・ユーゲントに屬する青少年は八百萬人であるといはれてをります。特別の不具者とか癡疾者<sup>はいつしや</sup>である以外は前に述べた年齢の層に屬する者全部がヒットラー・ユーゲントに入つてゐて、つまり百パーセント入つてをるといはれてをります。

その團員八百萬人の指導者が四十萬人であつて、四十萬人の中で青少年の指導本部でその人事を取扱つてをる者が約二萬四千人といふことであります。日本の郡以上に相當する所は全部専任の指導者のみで、従つて郡に參りますと、青年團、少年團、女子青年團、少女團の各本部が一つの建物に入つてをり、そこに少くも二十數名多きは數十名の専任の指導者がをります。府縣の方では、男子青少年團の本部、女子青少年團の本部がやはり一つの建物にありますから、少くも數十名、多きは百數十名の指導者がそこに集つてをります。

國の方の指導本部になりますとなか／＼多數の人がをり、局が十五もあります。右に申しまし

十名、多きは百數十名の指導者がそこに集つてをります。

國の方の指導本部になりますとなか／＼多數の人がをり、局が十五もあります。右に申しました二萬四千の指導者の人事を取扱ふ人事局には局員が百名以上もをります。これによつても如何にドイツの青少年の指導網が完備してゐるかといふことが想像出來ようかと思ひます。



（てに所泊宿）草 著

**見事な統制** それから指導者は前述のやうに一般に極めて年が若いのですが、しかし特殊の技能を有する者であつてしかもその人が特に若々しさを持つてゐる人は、四十臺でも五十臺でも働いてをります。現に私達を長く案内してくれた退役海軍大佐の如きは非常に年輩者でありまして、日露戦争前に少尉候補生として日本にやつて來たと言つていろ／＼昔話をしてをりましたが、かういふ人がヒットラー海洋青年團の本部にをります。さうい

ふ譯で年齢の多い人でも特殊の技能<sup>モノウ</sup>を持ち且つ元氣であつて、活動が充分に出来る人は相當の年

輩でも勤めてをりますけれども、とにかく青少年は青少年によつて指導せられざるべからずとして、指導者の年齢は皆若いやうであります。

なほ指導者に對する一般青少年の態度は絶対服従でありまして、その指導者に對する絶対服従の様子といふものは、見るからに見事なものであります。また長上に對するときの態度も實に立派なものであります。組織については大體以上のやうであります。

## 二 ヒットラー・ユーゲントの教育

**教育上の役割** 次にヒットラー・ユーゲントの教育のことについて申し上げます。ヒットラー・

ユーゲントは學校と家庭と相連絡あひれんくして人物の育成の任に當つてをるのであります。ヒットラー・

ユーゲントの出現當初に於ては學校教育の補完ほくわん的の立場に立つた筈のものであります。

しかしながらヒットラー・ユーゲントの指導の任に當つてゐる人々が、前にも申しました通り

ヒットラーに命を捧げ、ヒットラーと共に生死を誓ちかひ合つた人々で、しかもドイツの國を興隆こうりやうさ

ヒットラーに命を捧げ、ヒットラーと共に生死を誓ひ合つた人々で、しかもドイツの國を興隆させるには、過去に於て共產黨の赤の色を塗られたことのない純眞の青少年達に、本當のドイツ魂を吹込んで、さうしてこれ等の者の手によつて出直さなければ駄目だと考へ、指導者達は命を投げ出して青少年の教育に従事してをりますから、ヒットラー・ユーゲントの力が非常に強くなり、教育的效果が擧つて來たことは非常なものであります。

今では學校教育に従事してをる人自身も、ヒットラー・ユーゲントを指導してをる人々も、一般社會の人々も、異口同音に學校教育は知識の傳達機關で、體育と德育とはヒットラー・ユーゲントが受持つてをると言つてをります。しかしながら元々はさうでなくて、學校教育の補完的、補足的の立場に立つたものでありますから、ヒットラー・ユーゲントと學校教育の方とが十分聯絡協調を保つために、丁度文部省の文書課長に當る人がヒットラー・ユーゲントの方の本部の幹部を兼任してゐるとか、その他府縣に於ても郡に於てもそれ／＼相當聯絡を保つに努めてゐるやうであります。

**三目的・三手段** ヒットラー・ユーゲントは一體どういふことを目的として教育をやつてをるかと申しますと、身體を鍛鍊することが一つ、それからヒットラーへの忠誠心、國家への奉公心

つて來たのですから、年齢は若くても人物はしつかりしてゐるのだと思ひます。知識の廣さに於ても識見の高さに於ても意志の強さに於ても一切の實行力に於てもなか／＼優<sup>すぐ</sup>れてをり、おのづから頭の下るやうな人物を往々に見受けました。

入<sup>入</sup>一〇〇％ さてこの指導者達が専任か兼任かといふ問題でありますが、全國の指導者は約四十萬人あるといはれ、現在ヒットラー・ユーゲントに屬する青少年は八百萬人であるといはれてをります。特別の不具者とか癡<sup>はいつしや</sup>疾者である以外は前に述べた年齢の層に屬する者全部がヒットラー・ユーゲントに入つてゐて、つまり百パーセント入つてをるといはれてをります。

その團員八百萬人の指導者が四十萬人であつて、四十萬人の中で青少年の指導本部でその人事を取扱つてをる者が約二萬四千人といふことであります。日本の郡以上に相當する所は全部専任の指導者のみで、従つて郡に參りますと、青年團、少年團、女子青年團、少女團の各本部が一つの建物に入つてをり、そこに少くも二十數名多きは數十名の専任の指導者がをります。府縣の方では、男子青少年團の本部、女子青少年團の本部がやはり一つの建物にありますから、少くも數十名、多きは百數十名の指導者がそこに集つてをります。

國の方の指導本部になりますとなか／＼多數の人がをり、局が十五もあります。右に申しまし

十名、多きは百數十名の指導者がそこに集つてをります。

國の方の指導本部になりますとなか／＼多數の人がをり、局が十五もあります。右に申しました二萬四千の指導者の人事を取扱ふ人事局には局員が百名以上もをります。これによつても如何にドイツの青少年の指導網が完備してゐるかといふことが想像出來ようかと思ひます。



若 草 (宿泊所にて)

**見事な統制** それから指導者は前述のやうに一般に極めて年が若いのですが、しかし特殊の技能を有する者であつてしかもその人が特に若々しさを持つてゐる人は、四十臺でも五十臺でも働いてをります。現に私達を長く案内してくれた退役海軍大佐の如きは非常に年輩者でありまして、日露戦争前に少尉候補生として日本にやつて來たと言つていろ／＼昔話をしてをりましたが、かういふ人がヒットラー海洋青年團の本部にをります。さうい

ふ譯で年齢の多い人でも特殊の技能<sup>モノウ</sup>を持ち且つ元氣であつて、活動が充分に出来る人は相當の年



輩でも勤めてをりますけれども、とにかく青少年は青少年によつて指導せられざるべからずとして、指導者の年齢は皆若いやうであります。

なほ指導者に對する一般青少年の態度は絶対服従でありまして、その指導者に對する絶対服従の様子といふものは、見るからに見事なものであります。また長上に對するときの態度も實に立派なものであります。組織については大體以上のやうであります。

## 二 ヒットラー・ユーゲントの教育

**教育上の役割** 次にヒットラー・ユーゲントの教育のことについて申上げます。ヒットラー・

ユーゲントは學校と家庭と相連絡して人物の育成の任に當つてをるのであります、ヒットラー・ユーゲントの出現當初に於ては學校教育の補完的の立場に立つた筈のものであります。

しかしながらヒットラー・ユーゲントの指導の任に當つてゐる人々が、前にも申しました通りヒットラーに命を捧げ、ヒットラーと共に生死を誓ひ合つた人々で、しかもドイツの國を興隆さ

ヒットラーに命を捧げ、ヒットラーと共に生死を誓ひ合つた人々で、しかもドイツの國を興隆さ

せるには、過去に於て共產黨の赤の色を塗られたことのない純眞の青少年達に、本當のドイツ魂を吹込んで、さうしてこれ等の者の手によつて出直さなければ駄目だと考へ、指導者達は命を投げ出して青少年の教育に従事してをりますから、ヒットラー・ユーゲントの力が非常に強くなり、教育的效果が擧つて來たことは非常なものであります。

今では學校教育に従事してをる人自身も、ヒットラー・ユーゲントを指導してをる人々も、一般社會の人々も、異口同音に學校教育は知識の傳達機關で、體育と德育とはヒットラー・ユーゲントが受持つてをると言つてをります。しかしながら元々はさうでなくて、學校教育の補完的、補足的の立場に立つたものでありますから、ヒットラー・ユーゲントと學校教育の方とが十分聯絡協調を保つために、丁度文部省の文書課長に當る人がヒットラー・ユーゲントの方の本部の幹部を兼任してゐるとか、その他府縣に於ても郡に於てもそれ／＼相當聯絡を保つに努めてゐるやうであります。

**三目的・三手段** ヒットラー・ユーゲントは一體どういふことを目的として教育をやつてをるかと申しますと、身體を鍛鍊することが一つ、それからヒットラーへの忠誠心、國家への奉公心

の涵養といふことが一つ、それからドイツ魂の涵養、この三つを擧げることが出来ると思ひます。

そしてこの目標に向つての教育の手段と申しませうか、方法と申しませうか、何をやつてをるかといふと、體育と音楽とそれからナチスの政治的世界觀の教育との三つを行つてをります。無論體育をやる場合にも音楽の場合にもナチスの政治的世界觀の教育を施す場合にも、常に規律ある團體訓練を行ふことは忘れませぬ。従つて見やうによつてはもう一つ擧げて體育、音楽、ナチスの政治的世界觀の教育、團體訓練と四つを擧げて宜しいかも知れませぬ。しかし前の三つを擧げた方が適切でせう。

然らばどういふ風な方法で三つの手段を通じて教育の目的を達成してゐるかと申しますと、それには、

- 一、毎週水曜日の夕方から夜にかけて、各市町村に設けられてある青年塾舎に集ること
- 二、毎週土曜日の午後集つて運動競技をやること
- 三、一月に一回とか二回とか小さい行軍を実施すること

四、毎年夏季に於て一、二週間の野營を行ふこと

四、毎年夏季に於て一、二週間の野營を行ふこと

五、東プロシヤへの旅行を特に奨励して行ふこと

六、ニュルンベルグの大會に參列せしむること

かういふ事柄を通じて前にも述べたやうな教育を徹底的に行つてをるのであります。

### 水曜のつどひ

毎週水曜日の集りは女の子とかが歳のゆかない男の子供は太陽のある間に集めて少し暗くなつた時分に家に歸します。年の進んだ男子達は夜分集つて參ります。各市町村ではその区域内の青少年を全部集めて一つ宛椅子を與へることの出来るやうに、といふ理想の下に青年塾舎ジューンの建物を造らうとして、一昨々年以來非常な勢ひで建てつゝあります。もつと端的たんできに言ふならば、毎週水曜日の夕方から夜にかけて同じ時刻に、八百萬人の男女青少年が一齊に一つ一つの椅子に腰掛けて愉快な集ひつどひの出来るやうにといふので、建物が各市町村に建てられつゝあるのであります。そこで青少年達は自分の最寄りの青年塾舎に集りまして、軽い氣持で遊びつゝ色々なことを學びます。

### 虎の巻

かういふ青年塾舎へは所謂虎の巻ともいふべきものが本部から送られます。二週間に

大體一度位宛配布されて、指導の任に當る者がそれを讀んだり、またそれを中心にしてお互ひに話しあつたりします。

ここで一つ申しておきたいのは、學校教育とヒットラー・ユーゲントの教育との間には本質的に違ふところがあるといふことであります。

學校教育の方は一つの學科課程があつて、それを教師が生徒に教へて行くといふやり方であります。しかしヒットラー・ユーゲントの方は青少年の心の中に自然に萌え出る希望、欲求といふのに即して、軽い氣持で楽しく遊ばせてゐる間に、一定の訓練をしようといふのであります。ですから我々が青年塾舎に參りましたとき、それらの子供達がその虎の巻を讀みながらお互ひに論じ合つたり話し合つたりしてゐる光景をよく見かけました。尤も前に申しました通りに、郡以上には専任の指導者があり、數ヶ町村の聯合團體以下には奉仕的に働いてゐる指導者があるのであります。その指導者達が青少年の後の方に立つて、青少年の爲すところを見守りつゝ指導してゐるのであります。

ヒットラー・ユーゲントに於ては人の上に立つ者は自分の考へを完全に表現することが出來なければならぬ、それには演説が立派に出來なければならぬといふ建前をとりましますから、本部

ヒットラー・ユーゲントに於ては人の上に立つ者は自分の考へを完全に表現することが出来な

ければならない、それには演説が立派に出来なければならぬといふ建前たてまえをとりますから、本部から送られて来た虎とらの巻まきを見ながら色々話をしてゐるといふことは、即ち青少年に演説練習の機



國 民 舞 踊

會を與へることになるのださうであります。代る代る質問應答をしてをりますが、さういふ風にお互ひ同志でやつてをりますから、側から見ると遊んでゐるやうですが、教育的にはなか／＼効果を擧げてゐるのであります。さうしてそれが一段落つくと音楽であります。音楽が終るとまた何かして遊ぶといふ風に、要するに毎週水曜日の夕方から夜分に集つて来て、遊びながら何かやつてゐるといふ恰好かっこうであります。

**土曜の運動** それから毎週土曜日の午後になりますと、青年熱舎に附屬した運動競技場、或ひは市町村の運動競技場に集つて、運動競技を行います。

ドイツの一般國民のための體育局は内務省に屬してをりますが、この局の仕事として、各市町

村に對し、その人口に應じて定められた一定の標準の大きさの運動競技場を一定の標準の數だけ設置することを頻りに奨励してをります。さういふわけで青少年は青年塾舍附設の運動競技場や市町村に設置された運動競技場に毎週土曜日の午後集つて、適宜の運動競技をやつてをります。なほまた市町村にはかなり大きな廣場が設けられてゐるところもありまして、その廣場が色々に利用されてゐるのであります。

一例を申しますと、ワイマール憲法けんぽうの名によつて名高いワイマール市は人口五萬位の市であります。この市の廣場はづいぶん廣いもので、チューリンゲンの各地方から集つて來た約六萬人の人を並べて、その上更にそれ等の人々の並んでゐる所の三倍位の廣さを殘してゐるといふやうな大きいものであります。かういふ所へも青少年が集つてそれ／＼身體を練ることをやりますので、土曜日の午後は非常に盛んなものであります。

以前ドイツでは青少年は僅かにその五パーセントが運動競技をやつてをつたにすぎない。然るに只今ではヒットラー・ユーゲントが組織されたため、青少年は百パーセント運動競技をしないといはれてをります。

平均記録では餘談でありますが、私達がオリムピックの競技場を見に行つた時に、私は非常

いはれてをります。

**平均記録では** 餘談ではありますが、私達がオリムピックの競技場を見に行つた時に、私は非常に感じたことがあります。それは日本のレコードホルダーの名前が刻してあるところで、私達に説明してくれた人が何と説明したか、「日本の團長―この種目について日本は確にレコードホルダーを出した。しかしながら同じ種目について、日獨双方から或ひは百名或ひは五百名といふ具合に多數の選手を出すことにしたら何方が勝つか。例へば百米の水泳にしても僅か數名の選手で争はずに、それを千名なり二千名なりの選手を出してその平均のレコードで争ふことにしたら、果して日本は勝利を得ることが出来るか」と、かう言ふのです。向ふの方は八百萬の青少年全部が運動競技をやつてをるのですから、つまりレコードホルダーとしては日本に負けたかも知れませぬが、團體なら勝つといふのであります。それ位にみんな熱心に運動競技をしてをります。即ち體育はヒットラー・ユーゲントが最も力を入れてをるところで、それについて次に詳しくお話したいと思ひます。



### 三 ヒットラー・ユーゲントの體育

**純粹體育** ヒットラー・ユーゲントの體育は「純粹體育」「國防體育」「行軍及び野營」の三つに區分されます。

純粹體育は身體の均整な發育を圖る、謂はゞ頑丈な身體を作るといふことを狙つてゐるのであります。さうして走ること、跳ぶこと、投げることの中から適當の種目を選び、十歳の者は何米を何秒、十六歳は何米を何秒、また何歳の者は鐵棒にぶら下がる懸垂を何回とかいふ風に、各年齢の絶對的に到達しなければならぬ標準を決め、その標準に達するやうに努めます。

宿屋の女中であらうが何であらうが、土曜日には青年塾舎の附設競技場等に行つて皆やつてゐる。従つて純粹體育は大勢が出来るもの、簡易に出来るもの、設備の要らないもの、かういふことを選定の標準として、それ／＼の種目が選ばれてゐるやうであります。

**とんぼ返り流行** 従つて倒立ち、或ひは前へのとんぼ返り後へのとんぼ返りといふやうなことが極めて盛んに行はれてをります。十二三歳或ひは十五六歳の女子でも皆ドン／＼でんぐり返り

「とんぼ返り流行 従つて倒立<sup>さかだ</sup>ち、或ひは前へのとんぼ返り後へのとんぼ返りといふやうなこと

が極めて盛んに行はれてをります。十二三歳或ひは十五六歳の女子でも皆ドン／＼でんぐり返りを自由自在にやります。また幾人か肩を組んで、その上に立つた者が地上に下りる際<sup>ちうがへ</sup>宙返りをする。これは何も道具<sup>だうぐ</sup>が要らないのです。さういふやうなことでも何歳ならば前へのでんぐり返



天 空 に 躍 る

り何回、後へのでんぐり返り何回といつて全體にさうしなければならぬといふのですから、面白く遊びつゝなか／＼見事な身體が作られるのであります。

身體を作ると共に持久力とか勇氣とか膽力とかを養はうとしてをりますが、それにはでんぐり返りをやるのが一番良いとして、男でも女でも直ぐやつて見せ、

何のことはないサーカスのやうに見事にやります。そしてその純粹體育の競技大會が行はれます。日本の例でいへば郡、縣、國の大會といふやうな順序<sup>しゆんじよ</sup>で開かれるのであります。しかもこの大

會はなるべく團體的にして團體員全部が皆やり、全體の成績をとるといふことでやつてをります。個人のレコードを作ることを主目的としてゐないやうですが、しかしかうして競技を行つてゐる間に個人の立派なレコードも出ますので、これ等の者は右の郡、縣、國といふそれ／＼の大會で技を競ふのであります。

**國防體育その一** 第二は國防體育ですが、國防體育を更に二つに分けて、一つは共通的に總ての人に課する國防體育、もう一つは希望者にのみ課する國防體育であります。

共通的に課する國防體育にまた二つあつて、一つは防空訓練であります。防空訓練は十六歳から十七歳に至る者、十七歳から十八歳に至る者、といふこの二つの年齢層に屬する男女青年に施してをります。男に就ていへば防火のこと、或ひは防毒のことその他、女子青年は看護といふやうな女の手に出來ることにつき訓練を受けるのであります。ヒットラー・ユーゲントが出來ましてから既に完全に防空の任務に就くことが出來る者、即ち右年齢の層の二ヶ年間の教育を受けた者が一千萬人もあるといはれてをります。

**ゲレンツ・スポーツ** もう一つの共通的に課せられる國防體育はゲレンツ・スポーツといふも

ので、適當の譯語がありませんが、その教へるところは地圖の見方、或ひは地形の見方、地形の

ゲレンツ・スポーツ もう一つの共通的に課せられる國防體育はゲレンツ・スポーツといふも

ので、適當の譯語がありませんが、その教へるところは地圖の見方、或ひは地形の見方、地形の利用の仕方、或ひは地圖の簡単な書き方、方位の判定方、地圖に使用せられた記號を知ること、擬装ぎさうの方法、その他野外に於ける色々の訓練、即ち小さい旅行や大きい旅行をするのに必要な事柄なぞであります。これは年齢を問はず男女を問はず總ての者にやらしてをりまして、町村の青少年團體、數ヶ町村の聯合團體に於ける如き專任せんにんでない指導者でも、ゲレンツ・スポーツに關する限りは、絶對的に、教師の免許狀めんきょじやうを持つてゐなければならぬことになつてをります。従つてゲレンツ・スポーツに關しては、町村以上の各團體の全部に、その指導者がをるといふわけであります。

國防體育その二 それから希望によつて課する國防體育が六つありますが、その中の第一は、オ  
イ、ト、バイ隊であります。この隊では十四歳から十六歳、即ち青年團の方の最初の二ヶ年間にその技術を授け、次の二ヶ年間に運轉さづを授けるものでありまして、現役の軍人がヒットラー・ユーゲントの方に参りまして教育の任に當ります。そして現在十萬人の隊員がをります。私達は今回ドイツを旅行してゐる間に驚いたことは、ドイツの青少年は誰でも自動車又はオートバイが自由自

在に運轉出來、また相當年配ねんばいの女の人が自由に運轉してゐる場面に屢々出會して非常にびつくりしました。例へば地方に大型のバスで旅行しましたとき、或所にバスを置いて休憩すうけいをする、その休憩中に偶々たまたま運轉手が何處かへ行つて姿が見えない、向ふから車が來た、何處かへバスをやらなければならぬ、運轉手がゐないのでどうするかと心配してをりますと、我々を案内してくれてゐるヒットラー・ユーゲントの青年達がすうつと行つて直ぐ自動車の場所を變へるといふ具合であります。



飛行機の操縦

次は飛行隊で、これは少年團の十歳から十四歳迄は模型を作らしてをります。その發動機は

全部ゴムであります。それから青年團の方の十四歳から十八歳迄の者には、先づ理論を教へます。

理論は氣象きしやうに關すること、或ひはモーターに關することなどで、それが済むと各工場で設計及び組立のこを見學し、その次にはグライダーの操縦さうじゆうを教へます。操縦を教へながらその飛行機の上から射撃しやうげきする練習れんしゅうもさせます。そして稍技術しやうぎじゆつが進みますと、本當のエンジンを備へ付けます。

上から射撃する練習もさせます。そして稍技術が進みますと、本當のエンジンを備へ付けます。

組立のことを見學し、その次にはグライダーの操縦を教へます。操縦を教へながらその飛行機の上から射撃する練習もさせます。そして稍技術が進みますと、本當のエンジンを備へ付けます。現在飛行隊に屬してゐる者は十萬人ありまして、飛行隊員の最も良いレコードは三百キロ米を一氣に飛んだといふ十七歳の青年の作つたレコードであります。

**十歳から射撃** その次は通信隊であります。これはモールス信號或ひはラヂオの組立、電話架設の方法等通信に關することを色々やるのでありまして、現在の通信隊に屬する者は六萬人あります。その次は乗馬隊、これは五萬人あります。その次は射撃隊、この射撃隊だけは特に十歳から始まります。現在射撃隊に屬してゐる者が百二十五萬人あります。その他に海洋青年隊、これが六萬五千人許りあります。

そしてヒットラー・ユーゲントに於ける飛行機の操縦、或ひは乗馬、通信、海洋に關すること等の技術を修めてその合格證書を持つた者でなければ、軍隊に入る場合にそれ等の技術が必要とする軍隊へは入營させないのであります。即ち乗馬隊の合格證明書の無い者は軍隊に入つた場合に乗馬隊に入れないのです。

ヒットラー・ユーゲントの乗馬の様子を見てをりますと、素人の私では能く判りませぬが、日

本の騎兵、輜重兵、砲兵などの二年兵位の人々がやるやうな難しいことを、十七歳位の者が皆自らにやつてをります。さういふ立派な技能を持つてゐる者が入營するのですから、同じ二ヶ年の在營年限でも、その軍隊内に於ける教育の廣さ、深さは可成りのものではないかと想像されるのであります。



てへ揃並足

な準備や知識はゲレンツ・スポーツで教へられるわけです。

行軍に必要な泊り場所、所謂青年宿泊所は全國に二千數百あります。ドイツの郡の數が四百五十二ですから、一郡に五つか六つあるわけです。そして最低基礎團體たる小字の團體の旅行では

十歳から十四歳迄、或ひは十四歳から十八歳迄の者が集つて旅行する。大字になると同一年齡の

### 行軍で鍛へる 次は體育の第三番

目である「行軍と野營」であります。行軍は前述のやうに月一、二回の小さい行軍、即ち日歸りの行軍や一泊の行軍もあり、また大きい行軍もあります。そしてそれらの行軍に必要な

十二ですから、一郡に五つか六つあるわけです。そして最低基礎團體たる小字の團體の旅行では十歳から十四歳迄、或ひは十四歳から十八歳迄の者が集つて旅行する。大字になると同一年齡の者が集つて旅行する。我々は各地で青年が並んで歌を歌ひながら背囊はいろを背負つて歩き、或ひは自轉車に乗つて旅行する者を見ましたが、随分見事であります。

女でも年配ねばいでありますと背囊を背負つて行軍する。行軍も何歳の層の者は一日に何キロを何時間以内に歩かなければならないといふ風に、却々なかく能く練習をしてゐます。従つてヒットラー・ユーゲントを退團する男子の十八歳の頃には、相當の行軍能力を持つことになります。これ等の者が、更にアルバイツ・ディンストに入つて訓練くんれんを受け、更に軍隊に入るのでから、軍隊に入つた時には、既にかなりの行軍能力を持つてゐるといふことになります。

**土にしたしむ** 殊にこの行軍について關聯くわんれんして考ふべきことは「ドイツの民族精神は農村に残る」といふことが主張されてゐることです。都市の人間は動やともすれば本當のドイツ民族精神を失ふ傾向がないではない。或ひはユダヤ人の思想にかぶれ、或ひは共產主義に塗り替へられるといふことは、過去の經驗に於てあつたことである。これでは駄目だめだ、かうした危険のある都市の青少年を田舎ひなにやつて天地自然に接觸せつしよくさせ、また同時に土に親よしませ、一面に於ては彼等



の平生の食物がどういふ風にして出来るかといふことを知らさなければならぬといふ意味合で、都會から田舎に行くことを非常に獎勵しやうれいしますので、行軍は随分盛んであります。そしてその行軍の最も大きいのがアドルフ・ヒットラー・マルシュ——ヒットラー行進であります。

**八百萬人を野營に** 野營は毎年夏期に十日前後、少くも一週間、多ければ二週間やります。男女青少年八百萬の人間に、毎年夏の間の或時期を捉へて、約十日間野營生活をさせるといふことは如何に大きな運動でありませうか。即ちドイツの民族精神は農村に残るといふわけで、皆田舎に行かせるのであります。

私は今回のドイツ訪問でこの野營生活を見ましたが、その設備は至れり盡せりであります。教育の仕方についても我々日本人としては随分考へさせられたことがたくさんあります。

日本では青年團でも、少年團でも、三日か四日——長くて一週間も野營生活をしたならば、みんな願ひ下げといふやうな氣持になります。それは、日本人のやる野營生活は大人の型を子供に當嵌あてはめようといふ恰好で、直ぐに、それ修養だ、それ訓話だといふ風で、大人の方から被ひかぶせるので、有難迷惑のやうな恰好だからではないでせうか。三日も四日も經つと、もう精神が疲

れて、家へ歸りたくてぱた／＼して来る有様です。

せるので、有難迷惑のやうな恰好だからではないでせうか。三日も四日も経つと、もう精神が疲れて、家へ歸りたくてばた／＼して来る有様です。

しかし向ふのヒットラー・ユーゲントの教育は遊びつゝある間に訓練するのでありますから、皆が實に楽しくやつてゐて、さうして幾日でも堪へ得るといふ恰好であります。それもその筈であつて、職業を持つてゐる人間でも、野營生活をする場合には、その間雇傭者からは賃銀を支拂つてもらひ、當然の休暇を貰つて、のんびりとして遊んでゐるのですから、非常に愉快なことでありませう。

**施設の完備** 日本の野營生活とは非常に違つて、その野營生活の期間中に體育と音楽とナチスの政治的世界觀の教育を可成り徹底的にやつてをります。それから女の子供は、流石に天幕の中には泊めずに、別に建物があつて其處に宿泊させます。ところで私がこの野營生活で感心したのは、ドイツの體育は積極的に色々やるばかりでなく、消極的に疾病の豫防とか、衛生といふ方面に力を注いでをることなのであります。醫者もをれば、醫療の設備も非常に完備してゐます。三十名か四十名の集りとなると必ず醫者が付きます。百名以上にもなりますと看護婦が付き、更に齒科醫や齒科の看護婦などもつくといふ有様であります。自動車の中に齒科の一切の設備があり、

寢臺迄付いてゐます。二百名三百名の野營生活になると、醫者が何人もゐるといふ風な具合であります。

その他野營地に直ぐ電話を引く、或ひはラヂオを取付ける。また全部に傳達するための擴聲機を置く。それから炊事<sup>すふじ</sup>一切の設備が整<sup>ととの</sup>へられ食物を非常に旨く作るといふやうな具合で、かなり設備がよく行届いてをります。我が日本では、歩兵聯隊の如く多數の青年を扱<sup>あつか</sup>つて醫者の手の揃つてをる處でさへも、齒科の軍醫がゐないといふ有様で、他の團體などには醫者もゐないといふ狀況でありますから、非常な差であります。醫療的方面ではドイツは可成りよく手を盡してゐるといふことは、見遁し難いことゝ思ひます。

#### 四 ドイツ國民と音樂

眼でか耳でか 次に音樂でありますが、これはまた實に羨<sup>うらやま</sup>しく思ふことであります。ドイツ人は音樂が生活の一部分をなしてゐるといつてよからうと思ひます。極く易しい歌でも、極く難し

い歌でも、實に能く知つてをります。音樂のことはよくわからない私が聞いてをつても、階律正

は音楽が生活の一部をなしてゐるといつてよからうと思ひます。極く易しい歌でも、極く難し

い歌でも、實に能く知つてをります。音楽のことはよくわからない私が聞いてをつても、階律正しくやつてゐると思はれます。



ヒ 總 統 に 捧 ぐ る コ ラ ス

すが、大概の團員は音符が讀めます。ドイツの青少年には讀めないものもかなりあります。とこ

ろが彼等の歌といふのが實にうまく、何十人何百人の合唱であつても實に見事に歌ふ。日本の青少年はあんなにうまく行かない。日本の音樂は眼でやつてゐる、ドイツの方は耳でやつてゐる、と私は感じたのであります。

ドイツでは團體のある所、そこには必ず樂隊があるといへます。小さい團體でも行進するときなど必ず樂隊がつきます。リユーベックで出喰したお祭りの珍しい職業別の四列縱隊行進も、その總ての團體の先頭には必ず音樂隊がついてをり、洋服屋でも、左官屋でも、煙突屋でも、パン屋でも、洗濯屋でも、或ひは鐵道の人でも、學校の先生でも、あらゆる職業の者がその行進の先頭には必ず樂隊を付けてゐるのです。

**興國の音樂** なほまた私が非常に感心したことは、ニュルンベルグの大會の際に、アルバイツ・ディンストの大會に集つた人が十二萬人、そして音樂隊員の總數が千五百人の多數であつて、しかもその十二萬人の人達が號令も何もかけないで音樂で動いてゐたことです。確かに音樂についてはドイツ人は優れてゐると思ひます。その上私が感じたことは、難しい音樂でも易しい音樂でも、兎に角聴く音樂がみな剛健で雄大で興國的であり、決して廢類的な音樂ではないのです。言

も、兎に角聴く音楽がみな剛健で雄大で興國的であり、決して廢頹的な音楽ではないのです。言葉はよく判らないけれども、本當に剛健なドイツの民族精神は、かやうな音楽で培はれるのだらうと思はれるやうな音楽であります。

そこで私は昔支那の國の堯舜の時代に於て、これ等の聖人が、人を教へるのに禮樂を以てしたといふことを想起して、面白く思ふのであります。禮樂の禮といふのは所謂規律節制である。若し規律節制を餘り喧しくいふと堅くなり過ぎるから、和らげるのに音樂を以てするといふのが、堯舜の時代に於ける禮樂の趣旨のやうに承知してをります。またその音樂でも亂國の音樂は絶對に口にすべきでない。亡國の音樂は絶對に排すべし、宜しく興國の音樂を與ふべし、といふのがあの支那の昔の聖人の教へであるやうに承知してをります。この事はその當時支那に於て、どれ位實現されたかわかりません。或ひは聖人の一の理想であつたかも知れませんが、それで今ヒットラー・ユーゲントの教育を見ますと、前に述べたやうに、指導者に對しては絶對服従であり、一方に規律節制の嚴なるを見、また一方に彼等があゝの立派な音樂を歌ふのを見まして、支那の聖人が昔その理想として行はうとしたことが、今ドイツに實現されてゐるやうな感じが致します。

**日本の流行歌は？**　ところで日本の様子を見るとどうでせうか。哀調を帯びた音楽でなければ

日本では普及性ふきふせいがない。實に音樂についてはもう少し日本としては何とか考へなければならぬ。一寸餘談になりますが、この間専門學校、大學の學生の集りがあつて百數十名集り、學生に向く

やうな話をしてくれといふので色々話をし、音樂の話が出た時に今いつたやうな話もしたのです。

歌 の 春 雷



つて「朝比奈先生にさういふ歌は亡國的だといつて叱られると困るから歌はない」といふのでありました。しかし實際歌つたのを聴くと、どれもこれも哀調を帯びてゐて少しも雄大さがない。

ところがその會が終つてから、夕飯後、今までの例では皆餘興をやつて大いに歌ふ随分賑やかな會なのださうですが、その晩に限つて學生が一人も進んで歌を歌はない。そこで幹事の人が「何學校の誰君に願ひます」と言つても皆尻込みしりこみをしてゐる。誰もやらないものだから、幹事が自分で先づ何かやり出し、それから無理に他の學生にやつて貰つたことがあります、それは若し何か歌

日本の青年にあれ以外に歌がないのか、と思ふと實に情けなくなる。それなら寧ろ昔からあるおけさでも元氣よくやつた方がずつと氣がきいてをるのではないかとさへ思つた位であります。

## 五 ナチス政治的世界觀の教育

遊びながら ナチスの政治的世界觀の教育について申しますと、これは要するにヒットラーへの忠誠心の涵養、或ひは國家への奉公心の培養、日本の國の例でいふならば國體の本義に基いて忠君愛國の教育を施すといふことでありませうか、この外、更に世界の動向とか、ドイツと友邦との間の關係、世界に於けるドイツの地位、また如何にしてドイツを興隆せしめるかといふやうなことを、一切合切引括めてナチスの政治的世界觀の教育として行つてゐるやうに考へられます。そのやり方は決して常にしやつちこ張つてやかましく訓話するといふ方法ではなくて、遊びながらふんわりやつてをるのであります。

例へば毎週水曜日の集りでは、本部から配付される虎の巻によつて、指導者がヒットラーの生



ひ立ちを面白く愉快に話してやり、或ひはヒットラーの演説中の名句を取つて一寸説明をするとか、謂はゞ碎けてやつてをるやうであります。しかし、碎けてやつてをるやうでもなか／＼徹底してゐる。

例へば野營生活に於て、朝起きて先づ國旗に敬禮をする、ヒットラーの演説中の一句を指導者が言ふ、何も説明しない、今度は朝飯後の集りで、指導者が先程のヒットラーの演説中の言葉を復誦させそしてそれについて簡單に説明を加へる、それから體育や音樂などをやつて愉快に時を過す。更にまた午後の集りのとき、先程どういふ説明をしたかと問ふ、そしてこんどはそれを敷衍して説明する。かういふやうに随分軽い氣持でゆつたりと扱つてをりますけれども、一つの事柄については正しい認識を徹底的に持たせるやうに教へてゐるやうであります。

### 兒童にも徹底

これについて、私は非常に感心したことがある。どんな山の中、どんな海邊、

即ちドイツの何處であらうが、十歳十一歳の少年少女を擲へて、何が爲に日本は今支那と戦つてゐるかといふ質問をしますと、何處の子供でも皆答が同じであります。何と言ふかといふと「人類の敵である共產主義を打倒するため、日本は一大犠牲を拂つて亞細亞大陸に兵を進めてをりま

す」と答へる。これには全く感心してしまひました。君の之に對する感想はと尋ねると「ドイツ

類の敵である共產主義を打倒するため、日本は一大犠牲を拂つて亞細亞大陸に兵を進めてをりま

す」と答へる。これには全く感心してしまひました。君の之に對する感想はと尋ねると「ドイツ

は西より兵を進めて共產主義の本尊たるロシアをやつつけて日本に援助します」と答へるのであ

ります。

或る高等學校へ見學に行つたときのことですが、校長が私を連れて歩いてをりますと、生徒は氣を付けの姿勢をして「ベルリン、東京、ローマ」とかう言ひます。校長の姿を見ると遠い者でも皆氣を付けの姿勢をして「ベルリン、東京、ローマ」とやつてをる。これはその週のナチスの政治的世界觀の教育の標語が偶々「ベルリン、東京、ローマ」といふ標語であつて、生徒が校長の姿を見た時にはその週間の標語を言ふことになつてゐるので、日本のお客が見えたから特にやつてゐるのではなく、毎週標語を定めていつ



或る高等學校の教育の標語

もこのやうにやつてゐるとのことでした。

ハイル・ヒットラー！ それから、ドイツでは今總ての挨拶が「ハイル・ヒットラー！」といふことになつてをります。朝お早うと言はないで「ハイル・ヒットラー」、お寝みなさいも「ハイル・ヒットラー」、商店に行つて物を買ふ人も賣る人も皆「ハイル・ヒットラー」、學校で授業が始まる前にも終つてからも「ハイル・ヒットラー」であります。日本でいふならば聖壽せいじふの萬歲であります。如何に徹底してゐるかどわかると思ひます。

このハイル・ヒットラーで面白いことは、まだあのズデーテン・ドイツ問題の解決しない喧やみしかつた時には、ズデーテン地方では「ハイル」と言ふのは差支へないが、ヒットラーと附け加へると直ぐ警察官にやつつけられるから、唯「ハイル」と言つてあとは黙つてゐるといふことでした。さういふ風に、ドイツでは挨拶あいさつの言葉は凡て「ハイル・ヒットラー」といふことになつてゐます。これはナチスの政治的世界觀の教育が如何に徹底してゐるかを物語るもので、日本の忠君愛國、國體の本義に關する教育も、我々としては一層徹底させなければならぬと痛感しました。教育の徹底といふことでは向ふに學ぶ點が多々あるやうに考へます。

## 六 異色ある行事と施設

アドルフ・ヒットラー・マルシュ 異色ある教育的行事きやうじを次に申上げたいと思ひます。その第一はアドルフ・ヒットラー・マルシュであります。これは一面からいへば體育の中の行軍であり、野營であり、また一面から見ればドイツの政治的世界觀の教育であります。また或る立場から論ずればヒットラーへの忠誠心、國家への奉公心ほうこうしんの涵養くわんやうといふことであります。かういふやうなことが日本にもあればよいといふ感じを私は強く持つたのであります。

大會の盛觀 ドイツでは、一年に一回ニルンベルグの大會といふものが行はれ、これはドイツに於ける行事中の最も重要な行事であります。ドイツの議會は唯毎年三時間位ヒットラーの演説を聴くだけだといふ風にいはれてゐるけれども、ニルンベルグ大會は昨年は九月五日から十二日に至る間行はれたもので、非常に大掛りおほがらなものであります。そのニルンベルグ大會はドイツの人心を統一し、各方面の聯絡協調を圖り、そして重要な國策を國の内外に宣言せんげんするのが目的

であります。

ニュルンベルグの大会は、或ひは親衛隊シムラの大会、或ひは突撃隊シュツゲタの大会、アルバイツ・ディンストの大会、ヒットラー・ユーゲントの大会、軍隊の大会、體操の大会、國策を論議する大会があるといふわけで、色々の重要な行事があるのですが、ニュルンベルグ大会中の土曜日は必ずヒットラー・ユーゲントの大会を行ふことに決つてをり、全國から代表者が參集します。その參集者の中心を成すものは約二、三千の代表青少年で、これに十數萬の青少年が加つてヒットラー・ユーゲントの大会が行はれるのであります。



國 旗 旗 爽

この中心を成す青少年といふのは、全國に互る四百五十二の各郡毎に、優秀いんしゅうな者を三名或ひは四名選抜してこれを郡の代表者とし、青年團ならば郡の青年團旗を持たせ、少年團ならば郡の少年團旗を持たせて、縣の青少年團の本部に送ります。其處ではこれ等全縣下から集つて來た優秀

四名選抜してこれを郡の代表者とし、青年團ならば郡の青年團旗を持たせ、少年團ならば郡の少年團旗を持たせて、縣の青少年團の本部に送ります。其處ではこれ等全縣下から集つて來た優秀な代表青少年に對して約一週間の訓練を施し、さうしてこれ等をその縣の代表青少年として愈々ニュルンベルグ大會に乗り込ませるのであります。

**長途を徒歩で** ニュルンベルグに参りますには一切徒步行進であります。ですから、ベルリンからでさへもニュルンベルグまで四週間を要します。東プロシヤのケーニスベルグからでは六週間を要します。六週間の徒步行程を太い重い旗竿はたざなを持つて、毎日三十キロを超えない旅行計畫の下に行進する。そして全國から集つて來た青少年の代表者が、郡の青少年團旗を持つてヒットラーの泊つてゐる宿屋の前、ヒットラーがバルコニーに立つてゐる前を分列行進をするといふことで大會が始まるのであります。

私はドイツ各地を旅行しつゝ、あの青少年が陽に赭けた顔をしながら、重い旗を持つて、歌を歌ひつゝ、毎日々々ニュルンベルグ指して歩いて行く姿を見て、ドイツの強味はここにあるとしみじみ思ひました。これ等の青少年の被服一切は新品が支給されます。そして道中は何れも輕装けいさうをして凡ての品物は一切トラックに乗せ、それに縣なり郡なりの指導者が付き添ひ、更に醫者が

付いて、さうして毎日行進を續けて行くのであります

頼むは君たちー ニュルンベルグ大會ではヒットラー・ユーゲントの大會を他の大會に比べる  
と、ヒットラーの態度やその努め方がまるで違ふといふ感がします。他の大會の日にはヒットラ  
ーは唯壇上<sup>ただ壇じやう</sup>に立つて演説をするだけです。若し慰靈祭のやうなことがあれば、壇上から降りて行  
つて花環<sup>はなわ</sup>を捧<sup>さ</sup>げて歸るといふだけです。

ところがヒットラー・ユーゲントの大會に於けるヒットラーはさうではありません。全國から  
集つて來た二、三千名の代表青少年の間をぐる／＼廻<sup>まは</sup>つて歩いて、どの子供もヒットラーを拜め  
るやうに視閲<sup>しえつ</sup>をします。それから自動車に乗つて、會場に參集してゐる約十五萬の青少年に洩<sup>も</sup>れ  
なくその顔が見えるやうに、例の斜め上方四十五度に手を舉げたあのナチスの敬禮を行ひつゝ青  
少年の前を通過します。

さうすると十五萬の青少年達は非常に熱狂<sup>ねつきゃう</sup>し、天地も爲に破れるばかりに歡呼<sup>くわんこ</sup>の聲を挙げます。  
會場を一巡<sup>じゆん</sup>して壇上に歸つて來たヒットラーは「自分の頼みとするは諸君青少年である！ 諸君  
頼むぞ！」とかうやるのです。その信頼をかけられた青少年は一種の感激に打たれ、滿場何んと

もいへない氣分に包<sup>つ</sup>まれる。言葉のわからない私達でさへその様子を見て本當に感激しました。

頼むぞ！」とかうやるのです。その信頼をかけられた青少年は一種の感激に打たれ、満場何んともいへない氣分に包まれる。言葉のわからない私達でさへその様子を見て本當に感激しました。

『我が闘争』を親授 さてニュルンベルグに於ける一切の大會が終ると全國の青少年團の代表者達はランズベルグといふ所に參ります。ここは曾てヒットラーが囚はれの身となつて『我が闘争』といふあの有名な書物を書いた所であります。『我が闘争』はドイツとしては一つの聖書であつて、ドイツの向ふべき方向、ドイツが行ふべき政策、ヒットラーの信念等を書いた本であります。かうした出緒ある土地に青少年の代表者を集め、そして彼等の總てに對し、一人々々にヒットラー自身、その本を一冊宛授與することとあります。ヒットラー自身からヒットラーの著書を頂いたときの青少年の感激は如何でせうか。自分等はドイツのために戦はなければならぬ、ヒットラーのためには一身を捧げねばならぬ、といふ考へを自然に起すと思ふのであります。

これ等の行事が一切終ると、今度は臨時に編成せられた列車で各地方に分散して行きます。

このアドルフ・ヒットラー・マルシュに、遠い所からは九週間から十週間の長き月日を費してやつて來ますが、この間、若し身分が學生、生徒であるならば、當然の休暇が與へられ、また備はれてゐる人は、その雇傭主から當然賃銀が仕拂はれることになつてをります。さういふ風です



から、このアドルフ・ヒットラー・マルシュに参加することは獨り本人の名譽であるばかりでなく、かやうな青少年を出した學校、會社、工場ではこれを非常に誇りとする次第であります。

東プロシヤへ 次は、東プロシヤへの旅行の獎勵であります。御承知の通り、ベルサイユ條約に依つて、東プロシヤはドイツから切離されてポーランドに圍まれることになりました。このことが如何にドイツ人に響いてゐるか。ドイツ人が言ふには、ベルサイユ條約の不合理は絶對的に破棄しなければならぬ。そしてドイツの領土は、本土と東プロシヤを接續しなければならぬ、と言つてをりますが、この感じを青少年にしつかり抱かせるためにこの東プロシヤの旅行を獎勵してゐるのであります。これがこの旅行獎勵の一つの理由であります。

その次には、歐洲大戰に於て、ドイツの領土は何處から敵が入つて來なかつたのであります。たゞ一つ東プロシヤだけはロシアの大軍が侵入して來たのであつて、しかもヒンデンブルグが能く寡兵を以てロシアの大軍を討ち破り光輝ある戰勝をかち得た所なのであります。そこで外國の敵軍が自國の領土に侵入することが如何に慘害を國民に與へるかといふこと、しかもヒンデンブルグが善く戰つたといふことを知らせ、戰跡を洩れなく見て廻はらせて、以て愛國心の昂揚

に資しようとしてをります。これが東プロシヤへの旅行を獎勵する理由の第二であります。

ンブルグが善く戦つたといふことを知らせ、戦跡を洩れなく見て廻はらせて、以て愛國心の昂揚（きやうやう）に資しようとしてをります。これが東プロシヤへの旅行を奨励する理由の第二であります。

第三に東プロシヤの旅行を奨励致します理由は、ドイツでは人心の融和（ゆうわ）、各方面の聯絡協調、國內の統一といふことを随分心配してをりますので、青少年に各地を旅行させますとそれ／＼の事情が判りお互ひに折觸（せつそく）する機會がありまして、人心の融和統一に役立ちますから、これを實行してをるのであります。

ベルサイユ條約の暴戾（ぼうれい） さういふわけで全國のヒットラー・ユーゲントの年齢の上の方の者に東プロシヤへの旅行をさせるのでありますが、昨年東プロシヤに旅行した男子青年が一萬五千人、女子青年が一萬七千人でありまして、合計三萬二千人の男女青年が旅行をしてをります。私達は東プロシヤの國境線を旅行する時に、隨時隨所でこれ等の青少年と一緒に（しよ）なり、各地でこれ等の旅行する男女青年に對して、ベルサイユ條約に基く國境線が如何にもが合理的なことを、悲憤慷慨（ひふんかうがい）しつゝ説明してをる様子を見たのでありますが、側から見てゐて、本當に外國人である私達でも涙が出るやうな感じを受けたのであります。

その國境は實際隨分腑（ふ）に落ちないと思はれる點が少くないのであります。例へばダンチヒとポ

ーランドの國境は、ちゃんと河の真中が國境であります。一たびドイツとポーランドの國境線になると、ずつと河の真ん中からドイツ側の陸上に上つて、場合によると國境線が堤防の中腹や堤防の上を通つたり或ひは奥の方に入り込んでゐるのであります。これについて、ドイツ人の説明によれば河の向ふにポーランドの町があり、其處には歩兵聯隊がある。一朝事ある時にはポーランドの兵隊がドイツに侵入するのに樂なやうに、ポーランド領が此方に入り込んでゐるのであると言つてをりました。

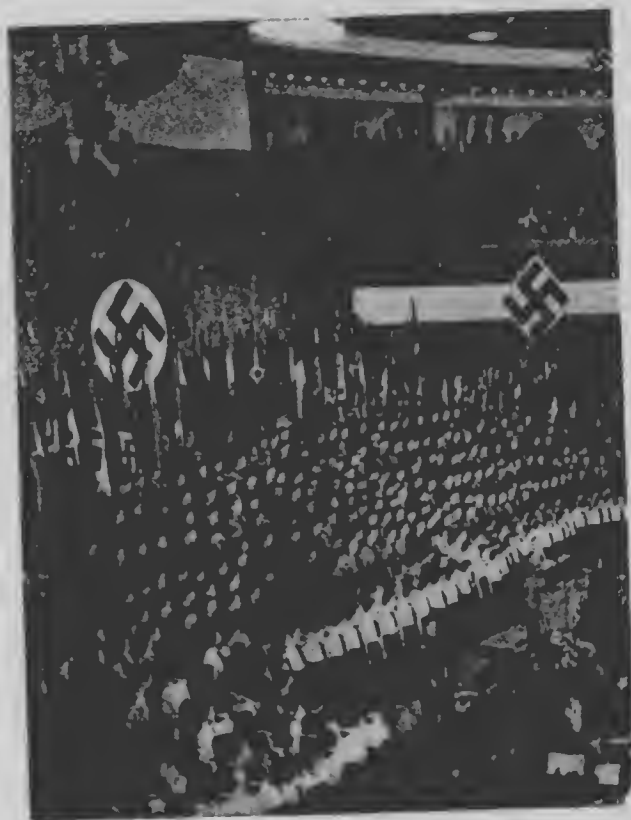
**臥薪嘗膽** またドイツ人の説明によると、ポーランド領は實に勝手になつてをります。非常に重要な地點だと思ふとぐつと深く入り込んでをり、要らない所はポーランド領は引込んでゐる、實に不合理である。犬がわんと言つて國境線を越したり、自分の家の畠が半分切られたりしてゐるなどと盛んに不満を聴かされました。さういふ事について宣傳省の人が話をすると、ドイツの青年達はぼろ／＼涙を落し齒をくひしばつてをりまして、明治二十七八年戰役後に於ける日本の臥薪嘗膽の時代が能く偲ばれたのであります。

この旅行が終りますと、青年達にその見聞を紀行文に作らせ、或ひは感想文を書かせ自分の撮

影した寫眞なども入れさせて、良いものには褒美を與へるといふやうなことをして、東プロシヤ

この旅行が終りますと、青年達にその見聞を紀行文に作らせ、或ひは感想文を書かせ自分の撮

影した寫眞なども入れさせて、良いものには褒美<sup>ほうび</sup>を與へるといふやうなことをして、東プロシヤ旅行の印象を強く感銘<sup>かんめい</sup>させることに努めてをります。旅行を容易にするために、二千人も乗



興 業 の 増 殖

れるやうな大きな都合のよい船が動いてをります。汽車で行くとポーランド領を通過するだけで七マルク半かかるさうであります、この船だとそれだけの運賃でハンブルグから東プロシヤ迄ずつと旅行が出来るさうであります。

職業競技大會 元來ドイツで

はこんな風なことを考へてをります。それは青年は將來如何なる仕事に従事するか分らない。それで青少年が如何なる仕事に従事しても、その仕事を完全に遂行<sup>すいかん</sup>するだけの身體を作つてやらな

ければならぬ。ベルサイユ條約を打破するのにはどうしても國力を充實しなければならぬ。それには國防と産業の振興とに力を致す必要がある。そこで強兵たる基礎は強健なる身體にありといふ意味で、青少年の體育に力を注いでをすることは已に述べた通りであります。

そして産業を奨励して國の富を増す、といふことに就ては、現に職業に従事してゐる勤勞青年がその職業についての知識技能を十分向上させる必要があるといふ意味合で、職業競技大會といふものが毎年行はれるのであります。昨年は五百の種類について競技大會が行はれ、これに参加した青少年二百萬人、その試験は四つの部門について行ひます。

**テスト四項** 第一はその人の仕事の成績、即ち徒弟とていとなつて親方に就てゐる者は親方がその徒弟の平素の勤務振り、實際の成績を報告する、何處かへ勤めてゐる人は使つてゐる人がその勤務成績を報告することが一つ。第二にはその仕事に關する理論。第三にはスポーツの成績、體格の狀況であります。職業の競技大會であつても、スポーツの成績や體格がその一部になつてゐる。それはどんなに技能優秀いっしゅうであつても、身體が弱くては駄目だとみるのであります。第四にはナチスの政治的世界觀、日本でいへば國體の本義といふことについての認識にんしきであります。

そこで先づ郡の第一次豫選があり、次に縣の第二次豫選があり、最後に國の大會があつて、本

そこで先づ郡の第一次豫選があり、次に縣の第二次豫選があり、最後に國の大會があつて、本當の優勝者を決定するといふわけであります。そこで優勝者が決ると、この人を五月一日に中央に集め、さうして賞品授興式を執行します。從來五月一日はメーデーで、勞働者が自分等のために示威運動をする日であつたが、今のドイツでは五月一日を別の意味に考へてをります。

近來ドイツでは、企業家といふ言葉を用ひないで、仕事を與へる立場の人といひ、また勞働者といはないで仕事をする立場の人といふさうであります。これ等兩方面の立場に在る人々が、お互ひに手をつないで協力して、ドイツの興隆こうりゅうのために仕事をするといふのが、ナチス政權樹立後の五月一日であります。さういふ意義をもつ五月一日の賞品授興式には、金のメダルと一千マルクの現金を褒美ほうびとして與へます。

**元首の握手** 非常に感心することは、優勝した勤勞青年に對して、ヒットラーが一人づゝ握手あぐしゅしてくれるのです。國の元首たるヒットラーに一々握手して貰ふその青少年の感激は如何でありませうか。どうしても自分はこの職業を通じてドイツの爲に盡さなければならぬ。このヒットラーのためには命を投げ出して働かなければならぬといふ氣持が起るのであります。

それと同時にドイツの國の立場から申しますと、この職業競技大會によつて、國內の總ての職業の中で、何の職業がその研究が十分であるか十分でないか、何の部門が一番發達してゐるかわないかといふ幾多の材料を掴む一つの機會となるのであります。またこの優勝者の或者は海外の視察をもさせるといふことであります。

### 青少年保護法

青少年保護法はこの一九三九年の一月一日から實施される法律で、「十五歳迄の者で學校を卒業しない者は絶対に勞働に従事することを得ず」それが第一であります。次は

「男子十八歳迄、女子二十一歳迄は絶対に夜業禁止」であります。それから「勞働時間は如何なる場合と雖も八時間を超ゆることを得ず」。それから「青年勞働者は職業學校又は補習學校に通學の義務を負ふ」、日本ならば青年勞働者は青年學校に通學の義務を負ふといふところであります。

そして「修學の時間は之を勞働時間の中に計算するものとす」とし、一週午前二回、一回につき三時間乃至四時間、一年を四十週とし二百四十乃至三百二十時間がそれであります。大體日本の青年學校と同じやうです。そしてその他に「一週の中一回は或る日の午後を自由とせしむべし」と、これも「その日は出來得る限り之を土曜日とすべし」となつてをります。さうすると一

週午前中に二回青年學校に通學する時間を勞働時間の中で與へる。即ち無論賃銀を貰つて學校へ

し」と、これも「その日は出來得る限り之を土曜日とすべし」となつてをります。さうすると「

週午前中に二回青年學校に通學する時間を勞働時間の中で與へる。即ち無論賃銀ちんぎんを貰もらつて學校へ行つて、その他に毎週の土曜日の午後といふものは自由にする。この自由時間をヒットラー・ユーゲントが捉とらへて體育をやるのであります。

更にその次には「十六歳迄の者は一年間に十五日以内」、それから「十六歳以上の者は十二日以内の休暇を與ふべし。休暇中は賃銀ちんぎんを當然仕拂ふべきものとす。但しヒットラー・ユーゲントの旅行に参加する場合には十八日迄延長することを得」と規定されてをります。然しこれに除外例を認めてゐる規定があります。それに依ると「以上の各項の規定中鑛山或ひは農業にありてはヒットラー・ユーゲントの本部の許可を得て、特殊の事項に付て除外例を設くることを得」とあります。これが一九三九年の一月一日から實施じつしされるものであります。

**セルフ・サービス** それから青年宿泊所の話をちよつと致します。青年宿泊所は旅行を獎勵するため設けてあるもので、二千數百ヶ所あり、その中で最も新しいのが東プロシヤのマリエンブルグにあります。それを見て私は非常に感心した。即ち千のベットを持つてゐるその宿泊所に職員が僅か男子二名、女子四名に過ぎないのであります。神宮外苑の日本青年館の宿泊部は若



し入營者でもあつて一つの部屋に多人数寝かせれば千名位入りますが、大體五六百名の收容人員でこれに勤めてゐる職員は二十五人といふことであります。

マリエンブルグの宿泊所が最も新しい設備を有してゐるとはいへ、千もベットがあつて六名の職員でやつてゐるといふのはどういふ譯か。

それは泊<sup>とま</sup>る人の心掛が違ふのです。泊<sup>とま</sup>る様子を見てゐると、地方から青年が出て來ると、

先づ事務所に行つて何縣何村の者だと證明書を出す、部屋が與へられる、すると與へられた部屋は固より部屋の外、便所に至る迄、その人が自分で掃除<sup>さうじ</sup>するのであります。女子は



日課にそいむ

馬鈴薯<sup>はれいしょ</sup>の皮を剥<sup>は</sup>ぐことやその他色々の炊事の手使ひをするといふわけであります。泊<sup>とま</sup>る人間が自分で一切のことを始末することになつてをりますから、千人を泊<sup>とま</sup>める所でも、六名の職員で出來るので、日本の宿泊所とは違ふやうであります。

先輩を尊ぶ

次に私が胸<sup>むね</sup>を打たれたことは同志といふことであります。ドイツ人は同志といふ

るので、日本の宿泊所とは違ふやうであります。

**先輩を尊ぶ** 次に私が胸<sup>むね</sup>を打たれたことは同志といふことであります。ドイツ人は同志といふ

ことを非常に強く申します。年齢の多い人、少い人、職業を問はず同志といふ氣持がある。そこで私が同志といふ言葉で一番びつくりしたのは或る高等學校を視察に行つたときのことである。その學校は私が前に、ナチスの政治的世界觀の教育が徹底してゐると申した學校です。

飯時になつてその學校の食堂に案内された、すると食堂には生徒並びに職員の他實に異様の姿をした勞働者が澤山入つてゐる。訊いて見ますと目下校舎増築中の工事に従事してゐる人達ださうで、その工事の大工や左官の人達が食堂に入つて來まして、校長以下の人々及びお客である我々と食事を共にしたのであります。校長は眞中<sup>まんなか</sup>に坐り、その右が私、左が縣の男子青少年團長、校長の前が六十二歳の土工人夫であります。六十二歳といへば先輩であります。この人を始めとして多數の勞働者がそれ／＼の場所に坐つてをります、日本から來たお客さんと入り交つてをる。高等學校の生徒がみんな向ふから食事を運んでくれます、食へ終ると食器を運び、紅茶<sup>こうちや</sup>を持つて來ます。高等學校の生徒でも年輩からいへばこの勞働者の後輩ですから、大いにサービスをしてゐるわけであります。

そこで私はお爺さんぢいに「どうだい旨いかい」と言つたら「具合良いで。ヒットラーになつてから有難い」と言つて涙を流して食べてをります。私は成程と思ひました。我々が招待やうたいされた宴會の時に次官なり大臣なりその他名士と一緒になる。さうすると其處へ給仕人として来るボーイ、これが十八歳以下ならばヒットラー・ユーゲントに屬する連中だし、それ以上ならばヒットラー・ユーゲントを出た人間でありませうが、それらの給仕人きふじんとこれ等ヒットラー・ユーゲントの幹部と話をしてゐる處を見ると、その態度にどこか打ちとけてなごやかなところがあります。これは何れも同志といふ氣持があるからであらうと思ひまして、非常に感じ入つた次第であります。

## 七 ヒットラー・ユーゲントと學校教育

### 學校教育異變

ヒットラー・ユーゲントと學校教育との關係を見ますに、ヒットラー・ユーゲ

ントは上來述べた通り、本來は學校教育の補足的立場ほそくたてきにあつた筈のものです。が、ヒットラー・ユ

ーゲントに屬する指導者達の命掛けの努力によつて、今や學校教育を凌ぐしのに至り、學校教育は智育を、ヒットラー・ユーゲントは徳育と體育とを行ふといふやうになつたのであります。ですか

ーゲントに屬する指導者達の命掛けの努力によつて、今や學校教育を凌ぐに至り、學校教育は智育を、ヒットラー・ユーゲントは徳育と體育とを行ふといふやうになつたのであります。ですから、學校教育としては何等かの變革を敢てしない限りは茲に全く世の中から置きざりにされてしまふといふことになつて來ました。

従つて學校教育に就ては、一九三七年四月或ひは一九三八年四月に、相當規則を變へたのであります。如何に規則を改めても、教育に従事してゐる人が命掛けでやらぬ限りは、世の中から置き去りにされるのが當り前ではないかと思ひます。それで學校教育の制度はどういふ風になつてゐるかといふと、その内容ややり方は別として、とにかく學校の方がヒットラー・ユーゲントのやり方を取入れて學校をヒットラー・ユーゲントの或る團體の如くにしてゐるといふ傾向が現はれて來たことは看迷がしがたい現象だと思ひます。

**假入學一ケ年** 文部省立のものに國民政治學校といふのがある。この學校は、一九三四年以來文部省が全國に十五校つくつたのであります。その目的は有爲の人材をナチス的に教育しようといふのにあります。程度は高等學校であつて、修業年限は六ケ年であります。

私達の見學した學校はドレスデンの郊外にあるものでありましたが、年齢が十三歳から十九歳

迄の六ヶ年教育であります。そして體力、精神、性格等につき優秀いっしゅうと思ふ人物を選抜して學校に入れ、それから八日間月曜から月曜迄上級生と起居を共にさせ、その八日間によつてその生徒がその學校の生徒たる資格があるかどうかといふことを實際に調べ、よしと認めたときに初めて入學を許す。しかしこれは假入學であります。假入學の期間は一ヶ年で、それを終つて本入學となります。

授業は一單元が四十五分であります。そしてこれを毎日六單元づゝやつて、その六單元の授業は晝前に終ることになつてをり、午後は全部運動にあて、或る者は場合によつては宿題の整理をし、夜は全然自由時間、唯上級生は、日によつては附近の村落のヒットラー・ユーゲントの指導に當る仕事を課せられてゐます。

上級の二ヶ年は必ず毎年六週間宛、實際労働に従事するの義務を持たされてゐて、第五年生は約四週間が農村の收穫の手傳ひで、約二週間が工場労働であります。第六年生は六週間が鑛山の坑夫生活でありまして、これ等は皆賃銀は貰もらふやうであります。この國民政治學校は一面は學校であるけれども、一面に於てはヒットラー・ユーゲントであります。

であるけれども、一面に於てはヒットラー・ユーゲントであります。

**寄宿舎の新機軸** 生徒は全部が寄宿舎に入つてをりますが、この生徒の居室といふのは或ひはゲーリングの家、或ひはシーラハの家、或ひはリップントロップの家といふやうに、現ドイツ政府の首腦者の名前を付けてをります。

ゲーリングの家といふ寄宿舎に泊つてをる生徒といふのは、ドイツの四ヶ年産業計畫、現在ならば第二次四ヶ年産業計畫、或ひはゲーリングは航空相ですから、航空、空軍に關すること、また或ひはゲーリングが森林監守廳の長官ですから、森林に關することをその家にゐる間に覺えるやうに寄宿舎の設備がしてあるのであります。又シーラハの家に於てはヒットラー・ユーゲントを學ぶといふ具合に教育してをりますから、この學生は常に國策の大要を承知し、國策線上を歩んでゐるといへるのであります。

**アドルフ・ヒットラー・シュレー** もう一つの特色ある學校はアドルフ・ヒットラー・シュレーであります。一九三八年の一月十五日に創設されたもので、全國に十あります。設置者は無論ナチスで、目的は文部省の建てゝゐる國民政治學校と同じであります。

國民政治學校と違ふところは、國民政治學校は學資は本人の負擔ですが、アドルフ・ヒットラ

「シューレは學資の全部をナチスから出してゐることであり、然らばどういふ義務を負ふかといふと、殆んど義務はない、唯その學校の卒業生が將來如何なる方面に進むにしても、それ／＼の方面に於て指導者になるやうに心がけてくれといふのが義務であります。ですから、アドルフ・ヒットラー・シューレには可成りの人物が集ります。なほ言ひ残しましたが、國民政治學校の運動場の廣さは素晴らしいもので、到底日本では考へにも及びませぬ。それから生徒の規律、節制がよく出來て、私が引率<sup>いんそつ</sup>して行つた團員が、せめてこの學校の生徒位に立派な行動を取るやうになりたいといつたものもある位であります。

**教育家の意氣込** 以上に述べた學校に於ける教育者の意氣込は非常なもので、ナチスの精神を徹底させようと、非常な努力<sup>きんりく</sup>をしてをります。今一般にあるやうな學校は寧ろ無い方が宜しい、學校の全部をかういつた式に直さうといつて、頻<sup>しき</sup>りに力んでゐるヒットラー・ユーゲントの人々もをりました。實際或ひはさういふ風な時期が近く來るかも知れぬと思ひます。

## 八 所 感

青年の體位を思ふ 最後に私は所感を簡単に申しますが、今まで私が述べたことは、感心した事や参考になるやうな事ばかりを選んだのであります。何にしましてもその男女青年の體格の立派なこと、しかもその男女青年といふのはヨーロッパ大戰後に生れて、疲弊困憊ひへこんぱいの時に育つた人間であつて、それが國家の指導宜しきを得たためにあゝいふよい身體が出来、身體の厚みが非常にあつて如何にも頼もしいのであります。

日本の男女青少年は近頃非常に背が高くなつた。背の非常に高くなつたものゝことを電信柱のやうだといふ。電信柱であつてくれゝば嬉しいと私はいひたい。日本の青少年は四分板を何枚か集めて作つたやうに幅はちがあるけれども厚みがない。それも十枚も二十枚もならよろしいですが三枚か四枚です。向ふの青少年は樽たるが動いてゐるやうに厚味あつみのある身體で歩いてゐる。これは何としても私は日本が眞似てよいのぢやないかと思ひます。



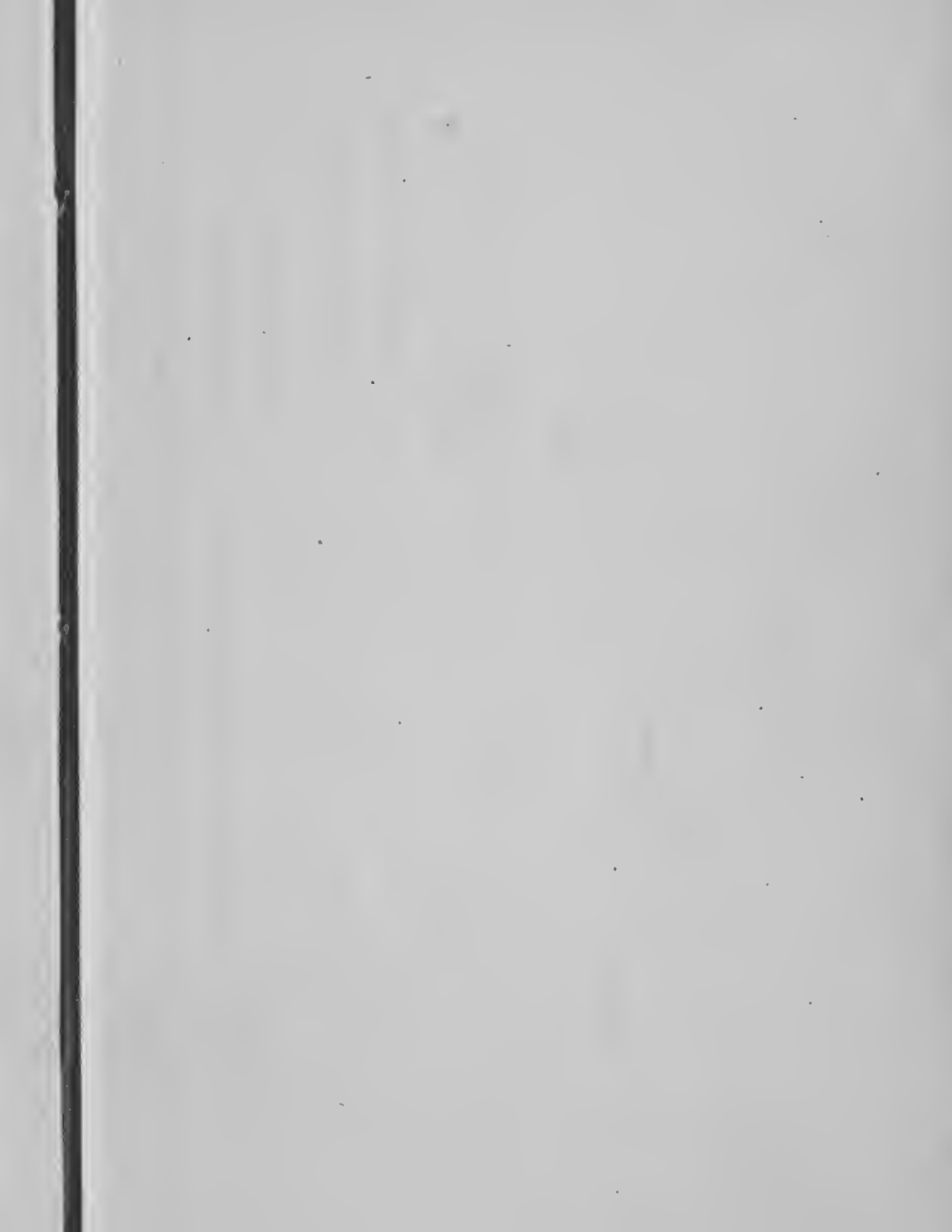
有難き我が國體 もう一つはあのナチスの政治的世界觀の教育の徹底してゐることであります。我が國に於ける國體の本義に關する教育といふものが、あゝいふ風に徹底性を持つやうに眞似てみたいと思ひます。しかしながら全體を通じて考へて見て、ドイツがあれ位努力しなければならぬかと思ふと、我々日本の國體といふものは實に有難い。この有難い國に生れてゐる我々も、あのドイツがやつてゐるやうな熱意をもつてやつたらよいのぢやないかと思ふのであります。

東亞新秩序成るの日 最近東亞の新秩序の建設とか、長期建設とかいはれてゐるが、その長期といふのは凡そ何年位かゝるだらうか。隨分長い年月を要するのではないかと思ひます。我が國の領土である朝鮮や臺灣の統治の歴史を回顧して見ても隨分長期間を要した。況んや純然たる外國である滿洲、支那と提携し、所謂日滿支一體となつて東亞の新秩序を建設しようといふのだから、餘程の年月を要するものと思ふ。果して然らば、この大事業は我々の子孫に迄繼承せしめることゝなるであります。

即ち現在の青少年は何時迄も青少年ではない。十年経てば十五歳の者は二十五歳になる。何十年、何百年の建設工事であるならば、その時代に於ける青少年が成人して後に完全にこの大事業

を遂行し得るやうて、しつかりした魂、身體を作る。何處に行つても活用し得る知識技能を持つ

年、何百年の建設工事であるならば、その時代に於ける青少年が成人して後に完全にこの大事業を遂行し得るやうに、しつかりした魂、身體を作る。何處に行つても活用し得る知識技能を持つやうな教育をすることが必要ではないか。ドイツに於ては、色々のことをやる場合に、常に當面のことゝ將來の基礎をなすことゝの二つをともに行つてゐるのだといふことをよく聽かされました。我々教育に従事する者は、日本が現在立つてゐる立場をよく考へて見て、青少年の教育といふものをこの際一應檢討して、更に一段と力を入れる必要があるのではないかといふ氣がする次第であります。(完)



昭和十四年三月十五日 印刷  
昭和十四年三月十八日 第一刷發行

若きドイツ

定價壹圓貳拾錢

著者 朝比奈策太郎

東京市日本橋區通二丁目二番地  
エシバイヤ・ビル

發行者 森川 鏌

東京市牛込區改代町二十四番地

印刷者 田中末吉

發行所

東京市日本橋區通二丁目二番地  
エシバイヤ・ビル

羽田書店

電話日本橋(四)二八七〇番  
振替口座東京七八二六六番

版權所有



# 羽田書店刊行

## 宮澤賢治名作選 松田甚次郎編

埋れたまま若くして逝ける天才童心作家の絶品・農民文學の珠玉

四六判五八〇頁  
寫眞一葉  
布裝上製兩入  
定價 三圓  
送料 二十一錢

文部省推薦

大日本聯合青年團推薦

## 愛郷土に叫ぶ 松田甚次郎著

全文にじみ出る土への愛著  
烈々！郷土建設體驗記

四六判四〇〇頁  
定價一圓八十錢  
送料 十錢

文部省認定

## 航空隨想 飯沼正明著

新鮮潑刺たる空の隨筆

四六判二〇七頁  
定價 八十五錢  
送料 八錢

## 戦ふ建設者 上泉秀信著 (近刊)

心と心を結ぶ日支親善の礎石  
「北京の聖者」清水安三氏の足跡  
これこそ眞に東亞新秩序建設への前奏曲



